

2025 年度 (令和7年度) 三鷹市民大学事業総合コース 学習記録

あゆみ



第 58 号

三鷹市生涯学習センター

表紙の写真は、生涯学習センターフェスティバルでの様子

(12/6・7 開催)

目 次

総合コースとは	2
5 コース開設概要	3
令和7年度総合コース企画委員会について	4
令和7年度総合コース企画委員を終えて	5
運営委員会より	7

各コースの学習記録

【コミュニティ】未来につながるまちづくり ～みたかの環境・教育などをコミュニティから考える～.....	11
【哲学】「こんにちは！哲学」 一緒に扉を開きましょう.....	27
【未来経済】希望の持てる社会保障と未来の経済.....	43
【アート】アートを愉しむ!! ～魅力、多様性、可能性～.....	59
【戦後80年】「戦後80年」を考える ～民主主義と憲法は根付いたか～.....	77

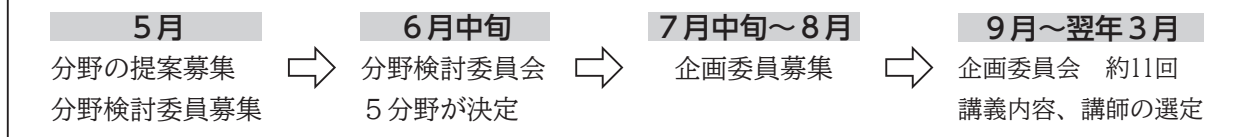
総合コースとは

総合コースとは

三鷹市の市民大学総合コースは、開設以来今年で58年目を迎えました。当初から「学習の主体は市民にある」という命題を掲げ、コースの企画段階から運営に至るまで、市民自らが主体となって行う講座です。

平成28年度までは、三鷹市社会教育会館を会場に開催(開設当初4年は市民会館で開催)してきましたが、社会教育会館の閉館に伴い、29年度からは会場を三鷹市生涯学習センター(29年4月オープン)に移し、運営や事業理念を市から公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団に引き継ぎ実施しています。

★総合コースのカリキュラムができるまで～準備は1年前からスタートします



1 総合コースの企画と運営

(1) 分野検討委員会の開催

広く市民から学びたい分野・学習テーマを募り、公募の委員が意見を集約・分類します。2日間にわたって議論を重ね、次年度に開設する5つの分野(コース)を決定します。

(2) 企画委員会の設置

公募による委員と担当職員とで企画委員会を設け、半年以上かけて、広く市民の学習要望をもとに、講義内容やそれにふさわしい講師を検討し、カリキュラムを作成します。

(3) 運営委員会の設置

各コースの学習生から選出された委員と担当職員とで運営委員会を設け、学習生の意見や要望をコース間で情報共有や意見交換し、一人一人が主体的に学習できる環境づくりを行います。

2 学習方法

各コースとも、講座回数30回のうち20回はゼミナール形式の講義、10回を自主学習の時間としています。年間を通じて、講義・発表・討論などを積み重ね、学習課題についての問題解決や知識の習得を目指します。自主学習では、講義を契機として各人が互いに意見を交わしたり、交流を深めたり、運営について話し合ったりするなどして、自主的に学習を進めていきます。

3 学習の記録「あゆみ」の作成

学習記録「あゆみ」とは、総合コース1年間の学習記録です。

毎年、各コースの学習生が終了時に学習の記録や感想を執筆し発行しています。

4 学習成果の発表

学習成果の発表として、12月に開催される『生涯学習センターフェスティバル』に参加しています。コミュニティ、未来経済、アート、戦後80年の4コースが展示に合わせたプレゼンテーションや来場者への説明、アンケートを行いました。加えて、アートコースはワークショップも開催しました。また、哲学コースは自主グループと合同で展示を行ったほか、哲学対話、シナリオ講座の体験会を開催しました。更に、3月24日(火)から4月6日(月)までの期間、模造紙展示を元気創造プラザ1階情報コーナーで行いました。

5 コース開設概要

総合コースは、市民主体で企画・運営する講座です。地域や生活に根ざした課題について、ゼミナール形式の継続学習・研究・発表・討論を積み重ね、市民としての自治能力を高めています。そして、学習成果を地域や生活の場に活かし、まちづくりに結び付けていくことを目指しています。

今年度は、次の5つのコースを設け、3コースは金曜日に、2コースは土曜日に1年間にわたって行いました。

会 場 三鷹市生涯学習センター（元気創造プラザ4階）

開設時間 午前10時～正午

【分野】 コース	要 旨
【コミュニティ】 未来につながるまちづくり ～みたかの環境・教育などを コミュニティから考える～ 5月16日～3月6日 （金曜日 全30回）	私たちは、気候変動や資源循環などの環境問題、地域教育や価値の多様性などの現代社会が抱えるさまざまな課題の中で暮らしています。本コースを通して、地域の特性や取り組み、地域行政の役割と課題等を学び、また、他の自治体での先進事例やワークショップスタイルの学習などを交えて、コミュニティから未来につながる“みたかのまちづくり”を一緒に考えてみませんか？ 白井 信雄 さん（武蔵野大学工学部サステナビリティ学科教授） ほか
【哲学】 「こんにちは！哲学」 一緒に扉を開きましょう 5月16日～3月6日 （金曜日 全30回）	今あなたが抱いているその疑問、何千年も前から考え続けられてきたことかもしれません。普段、何気なく過ごしていても、いざ深く考えてみると、明確な答えがないことはたくさんあるものです。「なぜ？」「どうして？」「う～ん」と問いつづけること、悩むこと、それが哲学のはじめの一步です。さあ、一緒に「こんにちは！哲学♪」と、扉を開きましょう！ 納富 信留 さん（東京大学大学院人文社会系研究科教授） ほか
【未来経済】 希望の持てる社会保障と 未来の経済 5月16日～3月6日 （金曜日 全30回）	日本経済は30年にわたって低迷してきましたが、少子高齢化の進捗に伴い、近年、女性の社会進出も進み、雇用環境も売り手市場になるなど日本の経済構造は大きく変わりつつあります。市民生活の基盤である社会保障の問題を中心に、税制、人口減少、独居問題、子育て、イノベーション、企業活動、脱成長まで、皆様と一緒に斯かる課題と未来の経済の希望について学びましょう。 権丈 善一 さん（慶應義塾大学商学部教授） ほか
【アート】 アートを愉しむ!! ～魅力、多様性、可能性～ 5月17日～3月7日 （土曜日 全30回）	アートの魅力って何でしょうか。一人ひとりの心に訴えることができるアートは、人々の意識を変える力があります。世の中に多様な価値観が存在することをアートは端的に教えてくれます。 本コースでは、アートがなくてはならないものという観点から西洋美術、デザイン・ファッション、音楽、アニメ、推し活の世界など多種多彩なアートをみんなで学び、この時代に生きている意味をともに考え、実感していただける場にしたいです。 新見 隆 さん（武蔵野美術大学教授・同美術館図書館長） ほか
【戦後80年】 「戦後80年」を考える ～民主主義と憲法は 根付いたか～ 5月17日～3月7日 （土曜日 全30回）	焼け跡から立ち上がり、高度成長を遂げ総中流社会となった日本。その後のグローバル化と新自由主義は自己責任の名の下に大きな格差と分断を生んだ。国際社会では民主国家が退行し多極化が進む。巨大地震や災害で地方は痛み過疎は進んだ。連続/無差別事件の多発に世間は震撼した。デジタル社会が生む新たな分断と不信、進む技術は未知の社会を創る。激動の80年を省みてこれからを探る。 山口 二郎 さん（法政大学法学部教授） ほか

※夏・冬休みは除く

令和7年度総合コース企画委員会について

企画委員会では、公募による市民の委員と担当職員が一堂に会し、毎年、次年度の開設コースのテーマ、学習内容、講師などについて協議し、決定しています。

令和7年度は令和6年9月から令和7年3月までの約7か月間、計11回(うち全体会は5回)の会議を行いました。

令和7年度企画委員会の開催日、主要課題

全体会	月 日	主要課題・内容
1	9/26 (木)	○企画委員自己紹介 ○総合コース概要及び分野選定経緯の説明 ○企画委員会の概要と日程 ○司会・書記について ○全体キャッチフレーズの検討
分科会		○主軸となる学習内容の検討
2	10/24 (木)	○全体キャッチフレーズの検討・決定 ○市民大学公開講座の開催有無、開催方法についての検討・決定
分科会		○コースの趣旨、年間30回の大まかな流れを検討 ○メイン講師、ゲスト講師の検討
分科会		○メイン講師、ゲスト講師の検討
分科会		○メイン講師の決定 ○メイン講師との打合せ日程調整 ○カリキュラム、ゲスト講師の検討
3	12/12 (木)	○カリキュラム、ゲスト講師の検討 ○コースタイトル、サブタイトルの検討 ○総合コースPRポスター及びチラシの作成者選出 ○講座開設趣旨180字(募集チラシ用・広報誌用)の検討 ○市民大学公開講座の講師選定方法についての検討・決定
分科会		○カリキュラム、ゲスト講師の検討
4	2/6 (木)	○カリキュラム、ゲスト講師の検討 ○ポスター、チラシの検討・決定 ○市民大学公開講座の講師候補者について
分科会		○カリキュラム、ゲスト講師の検討
5	3/6 (木)	○ポスター、チラシの配布準備 ○市民大学公開講座講師候補の決定 ○総合コース開講式の打ち合わせ ○学習記録「あゆみ」企画委員の感想文執筆者の選定 ○反省会(企画委員会を振り返って)

<時間・場所> 午前10時～正午 生涯学習センター ホール ほか

総合コース企画委員を終えて

未来経済コース 関戸 康之

総合コースの受講は昨年2024年度の経済コースが初めて乍ら、昨年5月中旬に行われた本年度総合コースの分野・学習テーマ募集への応募を契機に、分野検討委員、企画委員を担当する事が出来ました（欲張って「あゆみ編集委員」も引き受けてしまいました）。

開講式で初めて「自主学習」が有る事に驚いた程に総合コース初心者でしたが、経済コースを皆勤し、分野検討委員、企画委員を経験したことで、ある程度は「総合コース」を理解出来て来たのではと考えて居ります。

総合コースは「学習の主体は市民にある」との理念の下に「市民がつくる市民の学校」として運営される講座です。予め決められた事を「知識」で学ぶよりも、未知のものに適切に対処する「学び」が求められている、これからの時代に「総合コース」はぴったりと考えています。

総合コースの講座検討は「分野・学習テーマ募集」から始まり、分野検討委員会で応募された学習テーマから5分野を決定、此処からが企画委員の仕事となります。先ず「カリキュラム」と「メイン講師」を企画委員会のメンバー5名の合議で決めていきます。未来経済コースのカリキュラム検討では分野・学習テーマ募集で応募が多かった「社会保障（年金・医療・介護）」とコース名にもなっている「未来」を重要ポイントとしました。

カリキュラム検討と並んで企画委員会の最重要業務は「メイン講師」の選定です。5名の委員が夫々「推し」の講師を推薦、合議で交渉順位を決め、担当職員が講師候補への依頼・交渉等一番大変な作業を担います。メイン講師の決定が講座の方向性を決定付けますが、今回は「社会保障」に関して最適任の講師との交渉に成功された担当職員には感謝、感謝です。「ゲスト講師」の決定に当たっては、メイン講師の先生の御推薦と御助力もありコースに則した一貫した講座内容になったと考えて居ります。今回の企画委員会では（とは言っても今回が初めての経験ですが）メンバーに恵まれ大変楽しく且つ有意義に終えることが出来ました。メンバーの皆様と御担当の職員には改めて感謝申し上げます。

総合コースのカリキュラムは市民の皆様の分野・学習テーマの応募から、詰まりは市民の皆様の「知りたい」「学びたい」から成り立っており、まさに市民の大学と言えます。

更に無料で素晴らしい講師の方々の講座を受講出来、最新の知識を得ることが出来ます。学生時代とは異なり試験やテストも無く、知識の暗記も必要有りません。メイン講師・ゲスト講師の先生方と直接質疑応答の時間も有ります。自主学習は開講式、公開講座を除き実質8回有ります。自主学習は、自ら考え、疑問を持ち、発表し、意見を聞く場です（実は聞くだけや雑談も楽しいです）。ここでは「知りたい」、「学びたい」を思う存分発揮出来ます。1年間、総合コースを楽しみ、盛り立てて行きましょう！

総合コース企画委員を終えて

アートコース 岡田 健治郎

私が市民大学のことを知ったのは、まだ会社勤めをしていた時期でした。一週間の仕事を終えて週末の朝から講義に臨むのは結構つらいものがありましたが、年間30コマのゼミナール形式の講義はとても楽しく、次第にのめり込んでいきました。とくに印象的だったのは、学習院大の学長も務められた井上寿一先生の近現代史です。なぜ日本は江戸から明治維新へとうまく転換し、その後、戦争の泥沼に進みながらも戦後の経済発展を成し遂げたのか。それまで断片的な知識しかなかった近現代の実相を体系的に学ぶことができ、目が覚める思いでした。

2024年秋に会社を定年退職したのを機に、これまでのご恩返しもしたいと思い、企画委員に応募しました。その前段階である市民大学の5つの分野を決める検討委員会にも参加して、アートコースを提案し、認められました。芸術分野が開講されるのは12年ぶりになります。

アート＝芸術の講座を復活したかった理由は二つあります。一つは世界が混迷し、人間がますます生きづらくなっている中で、アートの力が改めて見直され、注目されていると感じるからです。その端的な例はバンクシーがウクライナに残した絵です。またNHKテレビの「no art, no life」という番組では、絵の教育を受けていない障がい者が突き動かされるように創作をしています。アートなしには生きていけない。人間にとってなくてはならないことが分かります。二つ目の理由は、学習生の若返りを図りたい。リタイアした人だけでなく、たとえば子どもが中学生になって子育てにひと息ついた働く女性も学べる場にしたい。そのような講座にしたいと思ったからです。

アートコースでは、企画委員の5人で話し合い、コース名を「アートを愉しむ！～魅（み）力、多（た）様性、可（か）能性」としました。まずはアートを総ざらいし、ありとあらゆるアートの力を網羅的、全般的に学べるように、西洋美術を中心に現代アート、障がい者アート、アニメーション、商業デザイン、さらに音楽、世界遺産と多様性を持たせたカリキュラムを企画しました。メイン講師は武蔵野美術大の新見隆先生にお願いしました。キュレーターとして長年、数多くの展覧会を手がけ、2015年に開館した大分県立美術館の初代館長として美術館を一から立ち上げるなど、アートに精通した方です。

年30コマの講座は自主学習を含めてすべて目が離せない、充実した内容になっています。ぜひ一回も休むことなく受講していただきたいです。また、市民大学の目的は自らを高めるとともに、「学びを地域や生活の場に生かす」とあります。アートの楽しみ方は人それぞれ、個人的なものですが、単なる趣味・教養にとどまらず、地域にも生かすには何をしたらよいのか。皆様と一緒に考える学びもしたいと思います。一年間よろしくお願いいたします。

運営委員会より

1 令和7年度の学習生数（開講時）

【コミュニティ】	女15名・男13名	計 28名
【哲学】	女16名・男12名	計 28名
【未来経済】	女12名・男16名	計 28名
【アート】	女19名・男 9名	計 28名
【戦後80年】	女11名・男17名	計 28名
合計	女73名・男67名	計140名

2 運営委員会

開催日 5/30（金）、7/ 4（金）、9/13（土）、10/24（金）、12/13（土）、2/27（金）
午後1時05分～2時
構 成 各コース4～5名の運営委員と生涯学習センターの担当職員

3 運営委員会の取り組み

（1）運営委員会ニュースの発行 NO.1～NO.6

毎月の運営委員会での話し合いの結果を後日配布
運営委員会の内容をすべての学習生が把握し、主体的に運営に関わることを目的としています。

（2）市民大学公開講座【2月6日（金）・7日（土）開催】

○2月6日（金）対面形式での開催 計104名（学習生83人/一般21人）

『水平の旅、垂直の旅』

講師 石川直樹さん（写真家、登山家）

○2月7日（土）対面形式で開催、Zoomによるライブ配信、オンデマンド配信での開催。

計106名 対面78人（学習生58人/一般20人）

配信34人

『輝け、日本国憲法！～平和な世界を目指して～』

講師 伊藤千尋さん（ジャーナリスト）

市民大学公開講座は、総合コース学習生が一堂に会して学習する場を設けることで、相互の交流を深める目的で開催しています。企画委員会で講演内容・講師候補を検討、選定した上で事務局が講師へ交渉をしています。

（3）三鷹市生涯学習センター利用者懇談会への委員選出

運営委員会が推薦した2名の委員が生涯学習センター利用者懇談会※に参加し、総合コースを代表して、今後の事業のあり方や施設の運営などについて意見や要望を伝えました。

※生涯学習センターのより良い運営のために、市長が利用者の意見を聞く場として設置

（4）「あゆみ」の発行

各コースから編集委員を2名選出し、1年間の学習の記録として、「あゆみ」を発行しました。令和7年度は編集会議を1月23日（金）に開催し、原稿のとりまとめ、各コースページの作成や4月に2回の校正作業を行いました。

総合コースを振り返って(令和7年度 運営委員会より)

【各コースの感想】

<コミュニティ>

・座席の並びを“口の字型”からグループワーク型（４分割・毎回グループ員はランダム）に変える試みを行い、各講義の後にその感想を話し合う時間を設けた。初めはやや抵抗がある様に見受けられたが、徐々に学習生同士の会話も弾み、コースに相応しい空気感が生まれた。

・月に一度を目安に講義後、昼食を持ち寄ってのランチ会を行ったことで、より和気あいあいの雰囲気
が深まった。

・手を動かして何かを創りながら学ぶ、よりハンズオンで行動志向の内容を期待して受講した。しかし、実際には講義形式で知識の習得を求めている学習生の方が多く、当初のイメージとのギャップが大きく、かなり戸惑いを覚えた。

<哲学>

・今期は納富信留先生（元国際プラトン学会会長）にメイン講師として講義を頂き、古代哲学をわかりやすく講義頂きました。三鷹市民大学は哲学界の先生方にとっても評判が徐々に高まっているようで、これだけの先生と名前を連ねる事は光栄ですと言うお声が増えました。少なかった男性学習生も復活しつつあります。

<未来経済>

・今回の講師は、メイン講師の権丈先生の社会保障に係る未来展望がテーマで、他の講師もメイン講師との関係から選定され、一貫性があって良かった半面、未来経済という視点から他の講師のお話も聴いてみたかった。

・年金等今後の事も心配であるが、将来の見通し等、グラフを使ってわかりやすく説明してくれた。

<アート>

・芸術分野として12年ぶりに開講されたアートコースは応募倍率が2倍を超え、人気コースとして注目を集めた。平均年齢も若く、働く女性が目立った。

・アートが人間にとって欠かせないという観点から美術、音楽、デザイン、アニメ、推し活などアート全般を網羅的に学び、理解を深めることができた。

<戦後80年>

・「戦後80年」コースは学習生が必ずどこかの時期を直接生きてきた為か、幅の広い年代の学習生各々の時代への関心が強かった。多くの学習生は各回出席率も高く意欲的且つ前向きに相互のコミュニケーションを取り合っていた。山口メイン講師はもとより各テーマはこの時代を理解する的確な科目と講師であったと学習生の評価は高かった。学習生間の意志疎通も良く充実した学びの一年間で有った。

【自主学習について】

<コミュニティ>

・自主学習の設計を運営委員だけで原案から検討するのは負担が大きいと感じた。各コースで自主学習の比重をこれほど高く位置づけているのであれば、企画委員が「自主学習で学習者にどのような経験や学びを期待していたのか」について、運営委員へ適切な申し送りがあってもよかったのではないかと感じている。

・前半は学習生、運営委員ともに不慣れなせいもあり、それぞれがどのように自主性をもって学習すればよいのか手探りだったが、後半からはグループワークの効果もあってか、次第に円滑なムードで進めることができた。

<哲学>

・例年通り、始めに「哲学対話」を実践し、ディベートにならず、相手の言う事を最後まで良く聞く、質問する、何を言っても良いが、知識ではなく体験からの発言にする、聞いているだけでも良い、いきなり否定はしない等のルールのおかげ、「安心・安全」の空間を作り出す事ができ、後続の自主学習での議論が深まった。これにより学習生同士の一体感も醸成された。また、昨年からはじめたシナリオ教室も好評で、才能ある学習生が少なからずいるのには驚きを隠せない。

<未来経済>

- ・自主学習で取上げた質問をメイン講師に配布、講義中にフィードバックがあったのは良かった。
- ・参加者の意見交換が重要。

<アート>

- ・関心あるジャンルのアンケートを行い、全員のメーリングリストやグループディスカッションを通して親交を図った。
- ・メイン講師が館長を務める大学美術館の見学、フェスティバルの独自企画（アートの花、ワークショップ、アートマップ、文字動画）、アートお楽しみ会など多彩な活動ができた。

<戦後80年>

- ・出席率は高く毎回20数名の参加があった。学習生の参加意欲が高く、グループ討議形式を多用し運営委員が各グループの司会として意見交換を促した。運営委員が選んだ4つの討議テーマの中から興味関心があるものを選んで参加する方式を取った。
- ・石破首相談話の発表時には歴代の首相談話を読んでの議論を、また天皇制についても闊達な意見交換ができた。10回の自主学習は学習生が闊達な意見交換ができる市民大学の貴重な場である事を改めて認識した。

【公開講座について】

- ・公開講座の講師やテーマは、前年度の企画委員が考えてくださったものだと聞いた。自分たちが出した案ではないこともあり、どうしても受け身の姿勢になってしまった。公開講座だけでも、前年度の企画委員に引き続き進行をお願いした方が、よりスムーズだったのではないかと感じることもある。
- ・テーマ自体は各コースの内容と直接の関連はなかったものの、“専門家”としての深い経験や知識に基づくお話を伺えたことは、大変意義深いものだったと感じた。
- ・ジャーナリストの講演が多く、実際に取材・撮影しての迫力はよく理解できるが、もう少し歴史的な事を調査しての報道・主張を期待したい。講師の選び方も、メイン講師の中からとか、考え方を変えた方が宜しいと考える。
- ・開催方式は現状でよい。PR方法に関してはちょっと課題がある。
- ・講師やテーマについて、もう少しスペシャル感がほしい。選考方法に工夫が必要だと思う。
- ・学習生の出席が多かった。本コースの講師は大学教授が多いが、公開講座の講師は各々の現場の熟達者で大学教授の冷静な分析とは違ういきいきとしたもので、非常に説得力があった。

【生涯学習センターフェスティバルについて】

- ・各コースの特徴がよく表れていた展示・発表内容だった。他コースの関係者と交流するいい場になった。
- ・コミュニティコースについては、「発表を行わない」という選択肢もあったと聞いているが、個人的には思い切ってオープンディスカッション形式にして良かったと感じている。初日のケースでは実際の当事者にも参加いただき、その後のアクションを考える上で大いに参考になったというフィードバックも寄せられた。
- ・準備期間を通じ、実際にコミュニティ活動に取り組んでいる学習生の方々から、それぞれの活動内容や

ライフコースを伺い、フェス展示にまとめた。そのことにより、これまで知らなかった取り組みの存在に“目からウロコ”のように感じられたと同時に、同じコースで学ぶ仲間への尊敬や理解も一層深まった。

- ・フェス展示物の一部は学習記録「あゆみ」に掲載するので、来場されなかった方にも見ていただければ嬉しく思う。

- ・今年度は大きな部屋の一角を区切って実施したので、想定外が多く結構問題が多かった。閉じた雰囲気になり、ブースに入り難い結果となった。また、哲学対話は公募での申し込みが少なく、今後のやり方を再検討しなければならない。

- ・プレゼンテーションについては評価をいただいた。

- ・展示方法やパワーポイントによるプレゼン等に進化がみられる。

- ・いつも特定の人たちに任せきりで申し訳なく思っている。

- ・ゆったりと対応できるような会場で展示物を静かに読んだり、プレゼンを聞いたりできる場も必要だった。

- ・展示物が小さくて、近付かないと見えなかったのは反省点。

- ・アートコースのワークショップ（松ぼっくりのクリスマスツリー）は2日間で100人以上の子どもたちが参加し、楽しんでもらうことができた。

- ・4つのコース（コミュニティ、未来経済、アート、戦後80年）が足並みをそろえて学習内容の展示を行い、プレゼンテーションをしたのはよかった。

- ・今回から専用の会場（軽体操室）になったことで、市民大学の取り組みを市民（来場者）に分かりやすくアピールすることができるようになった。

- ・戦後80年では学習生のほとんどが積極的に参加し、自主学習日の3日間を使い、4つの発表テーマのグループに分かれ全員協力して展示物の制作作業に取り組んだ。フェスティバル当日には来場者への学習成果の発表担当者のみならず、多くの学習生が来場し他のコースの方や来場者との交流をしていた。

【その他】

- ・当該コースの企画委員がそのまま受講生として参加する場合には、いくつかの配慮が必要だと強く感じた。具体的には、①自動的に運営委員を兼ねる形にする、または②企画委員から運営委員へ十分な申し送りを行い、企画意図やコース運営の方針、自主学習の設計、フェスティバルでの参加方法などについて認識のずれが生じないようにすることが望ましい。こうした形で、企画委員が運営にもスムーズに関わる仕組みづくりが必要だと感じている。

- ・ほぼ一年間にわたる当講座では、事情により対面出席が出来ないこともあることから、そのような場合には今後、オンラインでの受講も可能にもらえるとう有難いと感じた。

- ・各コースの“担任”とも言えるセンター職員の皆さまには、学習生や運営委員からの様々な要望に対し、いつも柔軟にご対応いただき感謝の言葉しかありません。

- ・拡大講座は評判が良かった。来期の哲学コースでは、パイロットとしてメイン講師の講座を拡大講座として実施する事になった。

- ・勉強になった。

- ・たいへん大きな重要なテーマであり、簡単に理解できるものではなかったがよい企画だった。

- ・運営委員についても実に手際よく、毎回段取りしてくださったと評価をいただいた。

- ・Zoom等のオンラインによる講義であれば、ある程度著名な講師でも講義していただけるのではないかと意見もあった。

- ・来年度は政治関係のコースが無く、非常に残念。

- ・市民が主体となって創る講座は他には無いもので、素晴らしく、また、関連する自主学習グループが主催する講演会に友人を誘うことができ、学生時代に戻ったようで嬉しかった。

- ・ここで学んだことを、どのように、地域や生活の場につなげていくべきかを、改めて考えさせられている。

未来につながるまちづくり

～みたかの環境・教育などをコミュニティから考える～

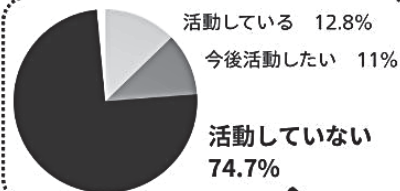
講師：白 井 信 雄
(武蔵野大学工学部サステナビリティ学科教授)

コミュニティコースで わたしたちが学んだこと

コース趣旨

私たちは、気候変動や資源循環などの環境問題、地域教育や価値の多様性などの現代社会が抱えるさまざまな課題の中で暮らしています。本コースを通して、地域の特性や取り組み、地域行政の役割と課題等を学び、また、他の自治体での先進事例やワークショップスタイルの学習などを交えて、コミュニティから未来につながる「みたかのまちづくり」を一緒に考えています。

三鷹市民のコミュニティ活動の状況は？



持続可能な社会を目指すためには、
人の暮らし方を変えるだけでなく、一緒に地域を変えていく、
社会を変えていくことに参加する

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科教授
白井信雄先生（本コースメイン講師）

ともに寄り添い、
愛着あるふるさとをつくり、
次世代につなげていこう
大正大学地域創生学部教授
牧野篤先生

コミュニティと行政や社会制度の
関係を自分目線で考えよう

一般社団法人生活福祉研究機構専務理事、
三鷹市健康福祉施策特別アドバイザー
大石田久宗先生

コミュニティガーデンを
通じた再生型の社会モデル
を提案

武蔵野大学工学部
サステナビリティ学科准教授
鈴木菜央先生

地域総ぐるみで
子どもたちを育てる
コミュニティ

三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員、
文部科学省CSマイスター
四柳千夏子先生

皆さんがやりたいことの
最初の一步を支援します！
まちづくり先進事例

株式会社タウンキッチン
北池智一郎先生

自然環境は人間・社会の
ウェルビーイングの土壌

武蔵野大学
ウェルビーイング学部教授
山田博先生

違いを互いに尊重して
コミュニケーション
しよう

杏林大学外国語学部教授
坂本ロビン先生

これからの市民防災、
市民主体の災害への備え

東京都立大学都市政策科学科教授
市古太郎先生

三鷹市の市民参加と
コミュニティについて
杏林大学総合政策学部教授
進邦徹夫先生

エシカル消費でつくる
よりよい消費者市民社会

法政大学大学院准教授
柿野成美先生

活動のポイントは
楽しさの自給力
コミュニティデザイナー
出野紀子先生

地域の人がひとつつながり良い社会をつくるには、まず「知る」ことから。

あゆみ 巻頭緒言

講師 白 井 信 雄

コミュニティは、人が暮らす「場所」であると同時に、人と人、人と社会が出会い、成長していく「学びの場」でもあります。そのコミュニティをテーマに学び続けてこられた経験は、これからの暮らしや活動の中で活かされていくことでしょう。

外部講師のお話のテーマは幅広く、地球環境から社会制度、まちづくりまで、大きなスケールの話題も多く登場しました。そのため、消化しきれない感覚を持たれた方もいらしたかもしれません。それでも皆さんは、たくさんの材料を手に入れています。料理にたとえるなら、材料はすでに台所にそろっています。あとは、どの材料をどう組み合わせ、どんな料理にするか、皆さんの工夫と気持ち次第です。せっかくの材料を捨ててしまわず、「いつでも取り出せる棚」に置いておいてください。

私はメイン講師として、「持続可能な地域づくり」をテーマに8回のお話の機会をいただきました。持続可能な地域づくりとは、2050年や2100年といった遠い未来を思い描き、気候変動や野生生物の大量絶滅などの地球規模の問題をふまえながら、自分たちのコミュニティのあり方を見直していく取り組みです。「長い時間のものさし」や「地球全体を見渡す地図」という、新しいメガネをかけてみると、いつもの景色の見え方が変わってきます。新しいメガネをかけてみる、きっかけになっていれど願っています。

また、受講生どうしの継続的な交流や新しい活動が立ち上がっていることを嬉しく思います。有志による「三鷹気候市民会議」の準備も始まりました。多世代の方々が受講し、年代をこえてつながり、一步を踏み出している姿に、心から敬意を表します。学びの場があり、そこで新しいメガネを手に入れ、元気や意欲が生まれ、つながりが深まっていく、そのプロセスがコミュニティづくりの実践そのものだと感じています。

最後に、大切にしたい言葉として「社会的想像力」を紹介します。社会的想像力とは、自分の暮らしと社会、そして地球とのつながりを思い描き、考える力です。今日の社会では、世界中からモノが届き、都市的なライフスタイルが広がり、自分の暮らしが社会とどのようにつながっているのかが見えにくくなっています。手に入れた新しいメガネを活かして、これからも社会的想像力を育て続け、コミュニティから世界まで、視野を行き来させていただければと思います。

プロフィール



しら い のぶ お
白井 信雄さん

大阪大学大学院環境工学専攻修了。同大学にて博士(工学)。三井情報開発株式会社総合研究所(環境・資源領域リーダー)、法政大学サステナビリティ研究所(教授)、山陽学園大学地域マネジメント学部(教授)等を経て、武蔵野大学工学部サステナビリティ学科/環境システム学科教授。

シンクタンク時代の環境省、国土交通省、林野庁等の委託調査の経験を活かし、環境・サステナビリティ分野での実践を具体的に支援する研究・教育活動を展開中。

専門分野は、環境政策論、持続可能な地域づくり論、環境福祉学、サステナビリティ学。



白井信雄先生



坂本ロビン先生

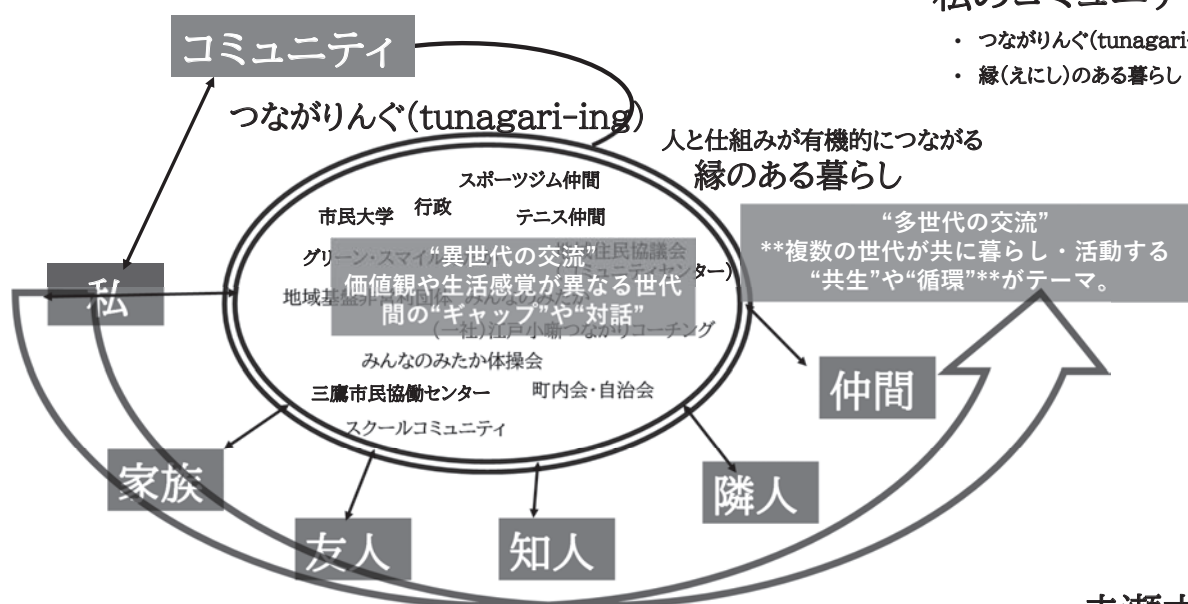


自主学习（学習生発表）



フェスティバル展示

学習生発表①



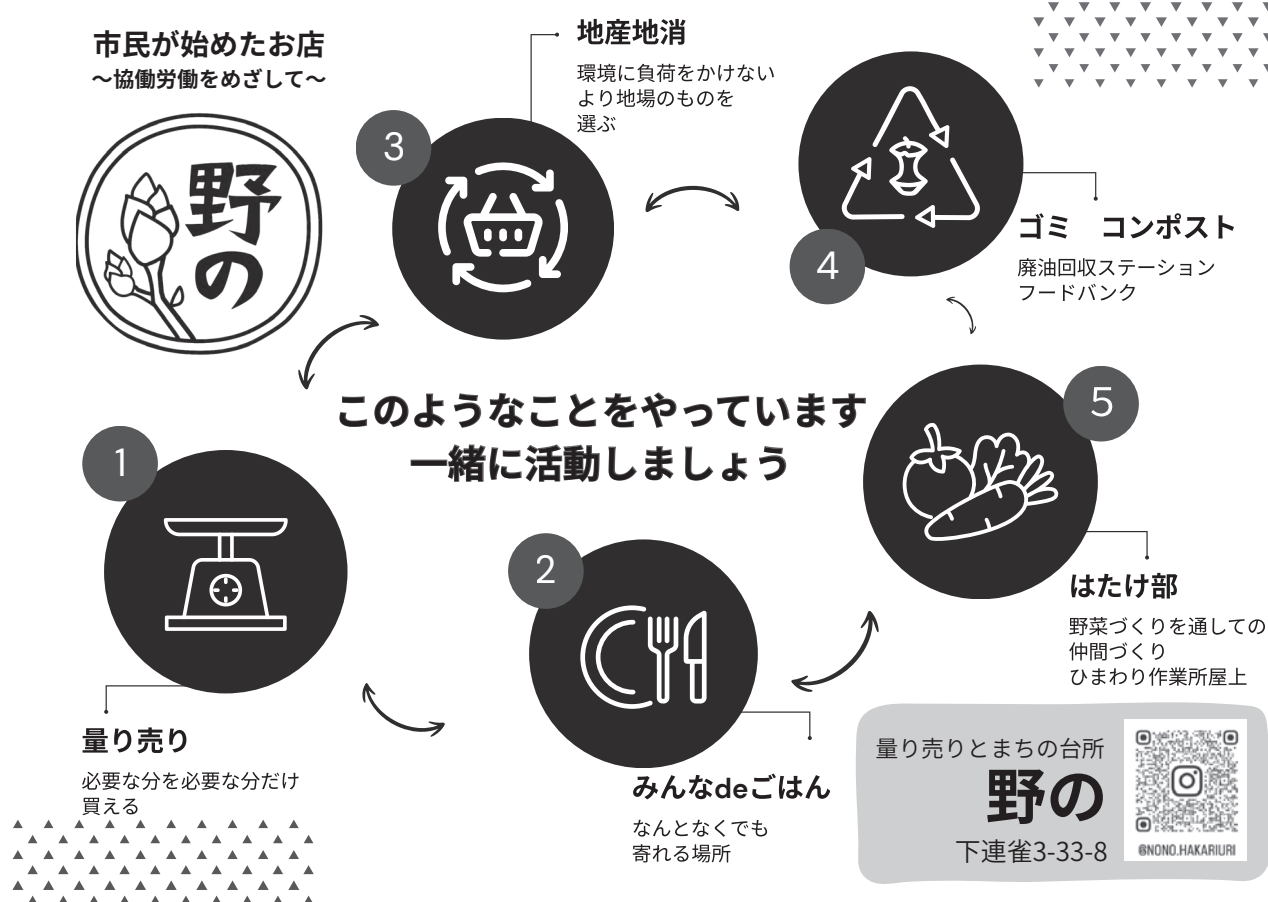
赤瀬文隆

●カリキュラム

回	日 付	講 義 名 学 習 内 容	講 師
1	5月16日	開講式・オリエンテーション 企画委員よりコミュニティコースの概要と開設趣旨の説明。学習生自己紹介。運営委員の選出。	自主学習
2	5月23日	Intro：持続不可能な現実と持続可能な未来(Globalな視点で) 経済の縮小。環境、資源問題の深刻化。格差の拡大、福祉の低下。災害リスクの顕在化の現実を個人の取り組み、地域コミュニティへの参加から社会を変えていく持続可能な未来へ繋ぐ為に学び進めていきましょう。	武蔵野大学工学部サステナビリティ 学科教授 白井信雄さん
3	5月30日	持続可能な地域づくりの必要性和方向性 持続可能な地域づくりとは、地域住民が主体となって、持続可能な発展を地域で実践し、社会を変えていく活動。地域活力、環境、公平、リスクの4つの規範の統合的かつ同時解決を目指す。	白井信雄さん
4	6月6日	SDGsを活かす地域づくり(SDGs商店街、SDGs未来都市等) SDGsについての詳しい説明。どのように普及してきたか、特長や大事なこと、未来都市について。品川区と横浜市を例に挙げ未来都市の具体的な説明。統合や包摂に向けて取り組みをつなげていくことが重要である。	白井信雄さん
5	6月13日	自主学習 フェスティバル参加を決めた。在住地域別5グループに分かれて、各学習生が所属しているコミュニティを確認したり、求めるコミュニティ像について話し合ったりした。	自主学習
6	6月20日	三鷹市の市民参加 前半は明治以降のコミュニティの変遷について学習。近代の変化点は1969年の国生審のコミュニティ施策報告。後半は三鷹市のコミュニティと市民参加について。住協方式から市民会議方式、更に市民討議方式へ変遷。	杏林大学総合政策学部教授 進邦徹夫さん
7	6月27日	三鷹市のコミュニティの変遷をワークショップで考える コミュニティの定義とは。都市化・少子高齢化が進み市民活動の多様化に伴いコミュニティ・センターの在り方が問われる。過去の事例を挙げてグループ毎に意見を出し合い共有することで貴重な体験をする機会を得た。	一般社団法人生活福祉研究機構専務 理事、三鷹市健康福祉施策特別アド バイザー 大石田久宗さん
8	7月4日	「よきこと」をつなげる、「よき存在」になる：人生100年時代の生き方を考える 人生100年時代の「学び」の在り方については、まず「ふるさと」を考えることが必要であり、地域社会ではなく自分との「かかわり」として歴史・伝統文化などを自分化し、自ら生み出していく視点が求められる。	大正大学地域創生学部教授 牧野篤さん
9	7月11日	「地域総ぐるみで子どもたちを育てるコミュニティ」 ～コミュニティ・スクール、三鷹の事例から考える～ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について。学校と地域をつなぎ、学校を含む地域全体で子どもたちを育てていく。「地域とともにある学校」を基盤に「学校を核とした地域づくりへ」	三鷹市統括スクール・コミュニティ推 進員、文部科学省CSマイスター 四柳千夏子さん
10	9月12日	地域主導によるゼロカーボン(脱炭素)社会のつくり方 現在は地球沸騰時代と言われる気候の非常事態である。ゼロカーボンの実現は必須。将来を生きる世代の参加と協創が必要。個々人の行動には限界がある。コミュニティとして取り組み、「気候市民会議」を立ち上げたい。	白井信雄さん
11	9月19日	人がつながるコミュニティデザインの力 市民参加型のコミュニティ作りの事例や問題点・解決策を伺った。ポイントは市民がやりたい取り組みを自治体に届ける。多くの市民に関心を持ってもらうには「正しさ」だけでなく「楽しさ」がコミュニティづくりには必要など。	コミュニティデザイナー 出野紀子さん
12	9月26日	自主学習 運営委員からフェスティバルの実施内容及び自主学習日の進め方を説明した。学習生2名に所属コミュニティの紹介やライフヒストリーについて発表していただいた。	自主学習
13	10月3日	自主学習 北池先生の休講に伴い、コミュニティ活動に関し、今後発表予定の学習生9名の内1名に、急遽、量り売り「野の」を中心とした活動をご紹介いただいた。残りの時間は、フェスティバルについて討議を行った。	自主学習
14	10月10日	自主学習 コミュニティ参加・運営者による活動内容・ライフヒストリー紹介第3回目。今回は市民発電と関連環境活動に携わる学習生と、ご自身のやる気と周りを巻き込む力で様々なコミュニティづくりを行う学習生に発表いただいた。	自主学習
15	10月17日	エシカル消費でつくる消費者市民社会 エシカル消費とは、人や社会、環境に配慮した倫理的な消費行動。変化の激しい社会では、自立した消費者の視点と批判的思考が必要。消費者の権利と責任を意識し、作り手と使い手をつなぐ教育や企業努力により地域で広げていく。	法政大学大学院准教授 柿野成美さん

回	日 付	講 義 名	講 師
		学 習 内 容	
16	10月24日	脱炭素では避けれない気候変動への影響、適応による地域づくり	白井信雄さん
		気候変動の影響が多く発生し、緩和策だけではむずかしく適応策が必要になっている。	
17	10月31日	自主学習	自主学習
		コミュニティ参加・運営者による活動内容・ライフヒストリー紹介第4回目。今回は、井の頭一丁目町会の防災活動について学習生ほか1名と、コンポストと地域循環まちづくりについて学習生1名から発表いただいた。	
18	11月7日	すべてのいのちが大切にされる社会をつくるには？ 武蔵野大学の屋上菜園を題材に考える。	武蔵野大学工学部サステナビリティ 学科准教授 鈴木菜央さん
		再生型社会とパーマカルチャー教育について。武蔵野大学有明キャンパスの屋上菜園及びコミュニティ・ガーデンの活動(野菜の栽培、養蜂、つながりづくりなど)。	
19	11月14日	ICT技術の進歩とスマートシティ、未来はどうなる	白井信雄さん
		スマートシティとは最先端技術を活用し経済活動の促進や社会課題を解決する都市や地域のことである。実際の例を取り上げながらスマートシティの課題も知りつつ最終的に何を目指し「幸せ」に繋いでいくのかを学んだ。	
20	11月21日	自主学習	自主学習
		コミュニティ参加・運営者による活動内容・ライフヒストリー紹介の最終回。みんなのみたかにて様々な支援活動に携わる学習生と、趣味や関心から大小様々な団体に加入し国際交流にも関わる学習生に発表いただいた。	
21	11月28日	自主学習	自主学習
		フェスティバルで掲示・発表を行う模造紙の制作。プレゼンの流れについて。	
22	12月12日	これからの市民防災	東京都立大学都市政策科学科教授 市古太郎さん
		防災という概念は、「阪神淡路大震災」を契機に機運が高まってきた。その活動に上手く取り組んでいる事例(八王子市や井の頭一丁目等)から、その要因の一つとして、素晴らしいリーダーがおられる事が挙げられる。	
23	1月16日	子どもや障がい者等の参加による環境・福祉の統合地域づくり	白井信雄さん
		「子どもにとって権利とは？」をベースに、「環境」「福祉」を基盤とした地域づくりを考えるとともに、世界の弱者問題についても「環境と福祉」の視点から、「子どもの参加」や途上国など弱者視点での解決策を見出す必要がある。	
24	1月23日	まちづくり先進事例	株式会社タウンキッチン 北池智一郎さん
		アイデアを自分ごととして形にする創業支援の取り組みを学習。東小金井の商業施設では、近所で働きたい世代が小さく挑戦できる場を提供。面で地域を育て、人の幸せを大切にする活動を展開されている。	
25	1月30日	動物の福祉とまちづくり～ワンウエルフェアを目指して	白井信雄さん
		人間社会では幸福を求め人権を守るとは当たり前だが、愛玩動物や産業動物、野生動物はどうか。彼らの生命も大切にされるべきだと法律は定められているが、現実には人間中心主義で、彼らが本当に幸せかどうか疑問が多い。	
26	2月6日	【公開講座】水平の旅、垂直の旅	写真家、登山家 石川直樹さん
	2月7日	【公開講座】輝け、日本国憲法！～平和な世界を目指して～	ジャーナリスト 伊藤千尋さん
27	2月13日	異文化コミュニケーション	杏林大学外国語学部教授 坂本ロビンさん
		コミュニケーションスタイルには、国によって違いがある。アメリカ人ははっきりと物を言う直接的スタイルであるが、日本人は間接的スタイルである。この事が従来互いの交流に困難をきたす大きな要因となっている。	
28	2月20日	自然環境とウェルビーイング	武蔵野大学ウェルビーイング学部教授 山田博さん
		人間と自然との関係性を考える環境の中で、体と心で自然を考える。人間は他の種と相互依存関係の中で存続できる。日常生活の中でも無理なくゆっくりすごすことで、他者との関係が新たな面を開いていける。	
29	2月27日	自主学習	自主学習
		①一年間の学びと感想、②新しい取り組み(グループ席、感想シェア、ランチ会)への感想、③学びを今後どう生かしていくのかについて、4グループに分かれて話し合った。	
30	3月6日	まとめ	白井信雄さん
		①各班の報告は印刷物と先週の記録を用いて発表した。②先生のコメント要旨：受講者はコミュニティ活動に関心がある。内発的動機から個人から仲間、地域から世界へとつないでいくことが大切。市民が社会の質を変えていく。	

学習生発表②



学習生発表③

「やりたい！」を相互サポートサークル
みらい＊たね

地元の隠れた才能を繋いで大きなチカラに

目指すは…
ジモティ × ココナラ

お気軽な気持ちで
お問い合わせください

活動実績
トルティリヤづくり、水引、アロマ、着付け教室
数秘、カラーカウンセリング…etc
多種ワークショップを開催

クリスマスマーケット共同開催
(2025/12/13 DIYSTORE三鷹にて)

詳細

拠点：DIYSTORE三鷹

焚き火による癒しの効果
性別・国籍を超えたゆるやかなつながり
各種イベント開催



新川2-9-3 diystore三鷹
miraitane55@gmail.com



みらい＊たね

学習生発表④

コンポストと地域循環のまちづくり

CSA(Community Supported Agriculture)

地域支援型農業

消費者は農家と契約を結び、
代金前払いで農産物を定期購入します。

都市農地を地域資源循環の拠点に

無農薬でお野菜を栽培してもらう生産者



コンポストが一杯になったら農園に持っていき二次処理をしてもらい、畑にたい肥として使用

畑でできたお野菜を受け取る消費者



家庭で出た生ごみをコンポストに入れて一次処理する




鴨志田純(かもした・じゅん)

鴨志田農園6代目園主。コンポストアドバイザー。2014年に家業を継ぎ、堆肥づくりを軸とした循環型農業を実践。国内外で生ごみ堆肥化や地域資源循環の仕組みづくりに取り組み、自立分散型コンポストシステムやサーキュラーエコノミー型CSAの展開など、多様な現場で実践を重ねている。専門は堆肥化に伴う温室効果ガス(農学修士)。元数学教員、防災士。

学習生発表⑤

楽しく仲間づくり

参加しませんか!

3 気の置けない仲間との語らい

遊友会



2 火会



異業種交流会、勉強会など

JASEF (日本外国人材支援会)

日本の資格試験受験支援

三鷹国際交流協会 (MISHOP)

- 多文化教養部会
- イベントボランティア

1 楽しく仲間づくり

50周年記念行事委員会

シルバー人材センター

阿波踊り



補習教室 (学習班)

バステルアート



シルバート極拳倶楽部

太極拳



国際交流!!

2 国際交流!!

MISHOP WORLD 2025 第34回三鷹国際交流フェスティバル 2025.9.27 井の頭公園

連絡先はこちら



みたかのミカタ

前田あけみさん

コミュニティコース受講生

地域で楽しく活動するみんなのみたかの コミュニティ

三鷹市民大学

つながりの縁「つながりんぐ」

隣人

家族

友人

知人

みんなの
井戸端会議
のすすめ

仲間

あかせさんの
活動のきっかけ！

馬

とのふれあい
(東大馬術部と協力)

ラジオ体操

「みんなのみたか体操会」でいっしょに
ラジオ体操をしませんか？

場所：→
時間：毎月第1日曜日

地域基盤NPO

「みんなのみたか」

での活動

江戸小ばなし

～きっかけは馬～

八つおん なんて馬(horse)なんだい？
無つおん 馬がきっかけでうまくつながってた。
八つおん しかも長〜〜く(hose)ね。
無つおん 輪(環・和)っはっは〜〜

「このままでいいの？」

地球規模の気候変動の深刻化に加え、先の東日本大震災による福島第一原発事故を目の当たりにし、これまでのエネルギー供給の在り方に大いなる疑問を持った。

地球規模の気候変動の深刻化に加え、先の東日本大震災による福島第一原発事故を目の当たりにし、これまでのエネルギー供給の在り方に大いなる疑問を持った。



今の時代にあった町会とは？

井の頭一丁目町会

防災を日常に！

町内に災害時の支援拠点をつくり、「防災を考える会」を立ち上げました。毎年、一味違った防災イベントを開き、楽しく実践的に学ぶ機会を用意しています。

スマホ相談サロン



日曜カフェ

ご近所のつながりは最大の防災減災！

ご近所同士が顔見知りになれば、お互いさま！の自然な支えあいが生まれるのではと願って、様々なイベントを開催しています。

居場所が持つ力を災害時の共助に活かしたい！

コミュニティの意義は居場所づくりと共助の基盤づくり

世代を超えた交流の場、リアルとオンライン、いろんな居場所を提供することで、参加できるもの、参加したいものを見つけてやすくしています。

黄色いたすき



おはなしおばさんの地域活動



きっかけは...

わたげの会との出会い

長男の小学校入学を機に三鷹に引っ越し、第一小学校で土曜日に図書館で読み聞かせをおこなう。その後、朝読書を息子の学年から徐々に全学年にひろげた。三鷹に素話の会があると知り「わたげの会」に入会。第一小学校で年1回、全学年対象の授業時間を頂き「わたげの会」によるおはなし会」を実現、研鑽を積んだ語り手のおはなしは三鷹の宝！



おはなしは子育ての救世主 先人たちが子育てを手伝ってくれる

おはなしって普段着生活の中にある おはなしって海広くて深いライフワーク
おはなしってエコ手ぶらでGO おはなしって懐が深い 大丈夫、なんとかなる

活動紹介：おはなしレストラン

放課後子供教室事業「地域子どもクラブ」として第一小学校で行う読み聞かせクラブ「おはなしレストラン」(毎月1〜2回。主に2年生対象だが、全学年行う)ストーリーテリングと上質な絵本・パネルシアターなどをコース料理に見立ててメニューを作り、子ども達と楽しむコアなファンが多いのが自慢。昔話から文学作品まで、幅広い「おはなし」を楽しんでもらいます！

ある日のメニューはこちら

おはなし・レストラン	
2025年10月15日 2階室のメニュー	
おはなし ちいちゃんいしんじ色のあうち	
おはなし みつけどい	
読み ハローウィナー	
絵本 しろくまの加ぼちゃ	
大活躍 おかつたねネッドくん	

お声をかけてくだされば「おはなし」にうかがいます
わたげの会は、幼稚園・小学校・図書館などおはなしをしています。
学校行事・子ども会・学童保育のお楽しみなどお気軽にお声をおかけください。
年齢に合ったおはなしを選び、パネルシアターや読み聞かせなどをまじえた楽しいプログラムを組んでうかがいます。おはなしの勉強会もしています。

◆おはなし勉強会：三鷹市立西部図書館2階 毎月、第1と第3火曜日の10時〜12時
◆問い合わせ：わたげの会2025年度代表・浄弘0422-47-9724、半田 0422-34-2633

気候変動と地域コミュニティ

大谷内 千 秋

地球温暖化が原因で植物や生物の生態系が近年大きく変化しています。去年は特に猛暑や水不足による農作物の被害や、海水温上昇による魚の減少、また貝類の大量死などが発生しました。熊被害も多く報告されましたがこれも温暖化による餌の木の实不足や冬眠の短かさなどが、指摘されています。気候変動への強い危機感を持つ人は確実に増えていますが、地球規模という問題の大きさに行動を諦めてしまいがちです。でもこのコースで市民や地域団体が繋がることで地域連携の温暖化対策ができることを教えていただきました。そしてこの講座から自然豊かな三鷹を取り戻す脱炭素社会に向けての取り組みが生まれました。白井先生をアドバイザーに三鷹・気候市民会議準備会が動き出しました。自然豊かな循環型社会を目指すには三鷹で何をしたらいいかなど市民で考えていきたいと思います。

足元からのコミュニティ活動

岡 崎 務

私が幼少時を過ごしたのは、戦後間もない頃の大阪郊外の農村。農繁期、村の女性たちは当番制で公民館（現在のコミセン）に集まって夕食のおかず作りをしていた。我が家はサラリーマン家庭だったが、母も料理に参加、出来上がったおかずを鍋に分けてもらい、一足先に持ち帰るのが私の役目だった。休日の公民館では、青年団の若者が幻灯や紙芝居で子どもたちを喜ばせてくれた。当時の村のコミュニティは活気にあふれ、しかもどこかで平和な雰囲気だったように記憶している。

ところがその後の日本は高度経済成長時代に突入。地方から都市へ人々が集まって国土も社会もコミュニティも人々の心も変わってしまったように思える。我が家もご多分に漏れず、父の転勤で上京、住まいも二度三度かわり、その都度隣近所との付き合いが薄れていったように思う。そして現在は集合住宅住まい。管理組合はあるが、「隣は何する人ぞ」といった感じの住人も見うける。

そんな折、三鷹市民大学の本講座で、全国には色々なコミュニティ活動をしている自治体があり、三鷹でもユニークなコミュニティ活動をしている方がいることを知った。世の中が画一化し、とくに大きなコミュニティ、すなわち「国家」が今に変な方向に暴走するのではないかと危惧している私は、足元からのコミュニティ活動に期待している。

なかなか良いところあるなあ！ 三鷹！

S.O.

この講座を受講するまでは、三鷹の地域コミュニティは本当に少ないなあ、と感じていました。自宅近辺で掃除をしても挨拶する人もなく、通学する小学生達も足早に通りすぎるばかり。地域社会とは何か？そんな思いで1年間学んだ現在は本当にびっくり。三鷹の各地でそれぞれのグループが自分達の活動を豊かに実践していることに驚嘆しました。市民発電運動、おはなし会、ゴミの有機再生肥料活動、町内会活動、少量のはかり売り販売活動、等々。三鷹の各地域でいきいきと楽しく活動していることを知りました。そして改めて、三鷹は住むに良い地域だなあと実感した1年でした。

こうした活動が各々の地域に点在するだけでなくより広く拡散していくならば、私のように何も知らずに生活してきたことを残念に思う市民が減少するでしょう。

コミュニティから、まちの未来を考える

J.K.

このコースに参加して、コミュニティは単なる人の集まりではなく、環境、教育、防災、福祉、消費、異文化理解など、暮らしのあらゆるテーマをつなぎ直す土台なのだと再認識しました。

持続可能な地域づくりや市民参加、三鷹のコミュニティの変遷、コミュニティ・スクール、地域主導のゼロカーボン、エシカル消費、動物福祉、自然環境とウェルビーイングまで、幅広い視点に触れたことで、まちづくりをより立体的に考えられるようになりました。特に印象的だったのは、講義を聞くだけでなく、自主学习やグループでの議論、フェスティバル準備などを通じて、受講者同士が考えを持ち寄り、学びを地域での実践につなげようとしていたことです。地域の課題を自分ごととして捉え、多様な立場の人と協働しながら、未来につながる小さな行動を積み重ねていくことの大切さを、改めて深く感じた講座でした。

講座を通して見えてきたコミュニティの多様性

久保田

均

コミュニティとは何ぞや……とネット検索してみる。すると、“共通の目的や興味、趣味、価値観、あるいは同じ居住地域を持つ人々が集まる「共同体」や「つながり」を指す”，という答えがたちまち返ってくる。

ヒトが持つ興味やそれに伴う目的、また趣味や価値観といったものは、それぞれ多種多様であり、ということは、それぞれに対応するコミュニティの在り方もまた千差万別であるはず。個人の興味や趣味から自然に生まれるコミュニティもあれば、初めから用意周到に考え、根回しや様々な準備と時間を掛けて形づくられるコミュニティもある。

今年度の講座では、そうした多様な視点からコミュニティの在り方を学ぶことができたが、どちらかと言うと地域社会や行政を巻き込んだ、比較的大がかりな内容のものが多かった印象がある。気候変動やSDGsといった環境問題を絡めて考えると、自ずとそのようなコミュニティ像に行き着くのかもしれない。

本コースの学習生にも既に様々なコミュニティ活動をされている方々が多数いらっしゃり、そのお話を伺えた自主学习の時間はとても有意義だったと同時に、大いに刺激を受けた。

地域活動の節目に当たり地域コミュニティについて考える

倉 林 孝 明

20年近く地域のコミュニティに関った人間として、社会が大きく変化する中、地域コミュニティはどうあるべきか、高齢者の役割は何なのか等のヒントを得たくて本コースを申し込みました。

そして学ぶうち、従来は「生活のために必要だった」地域コミュニティが、最近では地域の人に頼らなくても生活できるネット社会で生活が地域の外で完結できるようになり、子どもの塾通い、親の共稼ぎ、高齢者の定年延長で、各々時間と心にゆとりがなく、世代間の分断が進む等、地域コミュニティが「なくても困らない」状況になってきたことを肌で感じるようになりました。

しかし、必要性が平時に見えなくなっただけであり、環境や教育、災害や子育て、若者や高齢者の不登校・引きこもり、孤立・孤独等の課題を解決するためには、魅力を持った多様な地域コミュニティがますます重要になって、社会経験を積んだ高齢の方が担うべき役割が多々あると強く感じてきました。

これは、多方面の情報を提供いただいた講師の先生方、共に行動した多様な価値観や考え方の学習生の皆様、支えていただいた事務局のお陰と深く感謝しております。本当に1年間、有難うございました。

「農業都市・三鷹」を目指して!!

黒 須 正 雄

市民大学を受講するようになり、各テーマ毎の知識や情報を入手。理解するだけでなく、今後のライフスタイルの見直しや社会の在り方を考え直す為にも、教室での講義にヒントと知識を得ながら、又それらの具体的な方策を思い浮かべながら、皆さんと声を大にして、出来るだけ具体的な考え方、方策をベースに、地球環境を悪化させてでも、今後とも経済成長を目指し所得を向上させ、人の手を使わない便利な生活が必要なのか!? 真剣に立ち止まって考え直す時が来ているのでは、と考えます。これらのことを再考する為に、先ず三鷹市民として、足元から上記の事柄を実行し、将来に渡っての「三鷹市」での生活、即ち足元の生活を見直す事が、必要と思われます。“不便な生活”と思われても、楽しく健康的な生活とは何か!? を具体的に、身近で似た環境で生活している方達と話し合いをし、行政にも伝えていければ、とも考えています。個人的には、理想のライフスタイルとは、三鷹市が、食料自給率を上げ、市民の皆さんが「農的生活」を楽しめる社会になって欲しい、少し不便であっても、健康に楽しく生活できることが何よりと思われます。

コミュニティコースを終えての雑感

高 橋 衛

総合コースへの参加は4年連続4回目でしたが、今年も一年間有意義な学習でした。本コースの運営に携わられた関係各位、講師の皆様にご心より感謝致します。

コースを通し、多くの学習生が多岐に渡る地域のコミュニティ活動/ボランティア活動に参加されているのを知り刺激を受けました。また、同時に多数の活動を行われている方も多く、そのエネルギーはどこからくるのだろうと驚かされました。

私自身三鷹に生まれ三鷹に育ててもらいましたが、4年前に退職し三鷹市民大学に参加するまでは全く地域コミュニティと関わりを持つことが有りませんでした。総合コースの受講をきっかけに、学生の頃から関心のあった「環境」を軸として少しずつ地域とかかわりをもつようになりました。更に、市民大学から派生/関連した自主活動グループにも参加するようになりました。まさに、三鷹市民大学が提唱する「学びの循環：学習→思考→行動」が少し実践できているかなと思います。その風土が定着しているのも総合コースの良さでもあると感じます。

コース主題である「未来につながるまちづくり」も人と人がつながることから始まると思いますし、三鷹の基本構想である「高環境・高福祉」も地域コミュニティを核として実現すべきものだと思います。

住民構成の変化・価値の多様化など旧来型の町会・自治会等、地域主体の活動が厳しい状況のなか、多岐に渡る目的別コミュニティ活動が活性化することはとても意味の有ることだと思います。更なる活性化のためにもコミュニティ同士の交流や情報の共有などとともに、行政のリーダーシップで市民とコミュニティをつなぐ“インフラ”がもっと整備されることを願います。

コミュニティコースを受講して

T.K.

先生方にはいろんな地域でのコミュニティ組織の立ち上げ、運営などを、実例と共に紹介頂き地域コミュニティの位置づけ、在り方など紹介され刺激になりました。そこで私なりに地域コミュニティの意義大切さを纏めてみました。

近年、地域における人と人とのつながりが希薄になりつつあります。しかし、近傍のコミュニティを活性化することは、安心して暮らせる地域づくりの基盤であり、今こそ重要性が高まっています。日頃から挨拶や立ち話など、気軽に言葉を交わせる場を持つことで、顔の見える関係が生まれ、簡単なことを頼み合える間柄を築くことができます。日本では地震や豪雨などの自然災害が頻発しており、いざという時に行政などから救助がすぐに行き届かない場合も少なくありません。そのような状況下で被害を最小限に抑えるためには、地域住民同士の「共助」が大きな力を発揮します。普段から交流のある関係であれば、安否確認や助け合いが円滑に行われ、高齢者や支援を必要とする人を迅速に守ることが可能になります。

日常の小さな交流の積み重ねが、非常時には大きな安心と支えとなります。近隣住民が互いに気にかけて、協力し合えるコミュニティを育てることは、防災の観点からも、また暮らしの質を高める上でも欠かせない取り組みであると考えます。

最後になりましたが、講師の先生、事務局、受講生の方々、私にとって有意義な時間を頂き感謝申し上げます。

「よきこと」の世界

E.D.

牧野篤先生の講義『「よきこと」をつなげる、「よき存在」になる』に感銘を受けた。人はともに寄り添うことでコミュニティを保ち続けることができる、恩送りでつながり愛着ある「ふるさと」を作ろうという話で、探していた答えを見つけたように感じた。

失って初めてその価値に気づく、体感しなければ分からないことがある。「よきこと」はその一つであると思う。

「よきこと」は、昨今よく耳にするタイパ、コスパという言葉に象徴される世界観とは真逆のものである。効率や利得にこだわると、人は時間や労を出し惜しみ、自分に関わりのないことに目を向けなくなる。目を背けた分だけ世界が狭く閉じていく。

これに対して、「よきこと」は心を寄せるところから始まる。心を寄せることで、自分事が増えていく。世界が広がっていくのだ。また、「よきこと」を通じて、人とつながり地域に根付いていく。これが「よきこと」をしないではいられなくなる所以かもしれない。

人と人とのつながり方は様々だ。多くの人は楽しいことでつながりたいと願うが、悲しいこと、つらいことでつながってしまうこともある。おいしい関係なんていうものもあった。「よきこと」でつながるのもいい。とてもいいと思う。

受講を終えて

S.K.

今回、本コースに参加したのは、私の町会が役員の高齢化や後継者不足で続ける事が困難となった為、その存続の可否をアンケートした結果、休会已むなしの意見が大多数を占めた為休会となりましたが、その復興の足掛かりを探ろうとの思いからでした。本コースの多数の方々が、町会でなく地域の方々と活躍しているのに驚がくしました。町会に関しては、素晴らしいリーダーの下、しっかりした組織が形成されており、老若男女の多世代にわたり同じ地域という意識を持ち、各種のイベントなどに参画しておるとの事でした。私の町会では、ハードルが一寸高く感じますが、努力していきたいと思っています。

さて、本クラスの受講の形式は、毎回4つの島を作り、メンバーもその都度入替りました。少人数のグループのため、各自意見を出し易く、ほぼ全員が話し合いに参加でき、またその人となりも分り合えました。これは、本学の理念である「学習の主体は市民にある」に合致しており、良いシステムでした。

この一年間、充実した時間を過ごせたことに対し、運営委員と事務局員に御礼申し上げます。

三鷹市民大学で学んだこと

M.T.

今年の学びの中で、興味深かったものは「異文化コミュニケーション」というタイトルで教授：坂本ロビンさんが、アメリカ人と日本人との自国文化による違いから、コミュニケーション差がどのように存在するかなどを学んだことだ。大まかに述べるなら、アメリカは直線的、日本は間接的コミュニティに属すると言える。これは二つの国家間における人種の違いによるものであろう。

また、小さなコミュニティを形成する家族間でも、父親と話ができない（話をしようとししない）若者も最近スマホでなら話ができるようになったという者も増えているようだ。

今後、コミュニティの大きさに注目して、自分なりの考えを発展させて行きたい。現在自分は社会の中に具体的なコミュニティ活動をしていないので、今後コミュニティ自体の大きさと人間性に、市民大学で学んだ事をふまえて考えて行きたい。

この一年を通じ、講師の皆様、企画委員、運営委員の皆様、事務局の皆様、ほんとうにありがとうございました。

大きなひとつのコミュニティ

Y.N.

三鷹で暮らし始めてから10年が過ぎ、自分の居場所はどこだろう、と考えていた時に、この講座に出会いました。

たくさんの市民の方々が、それぞれの得意分野を活かし仲間に囲まれて活動していることを知り、その輝く笑顔に触れるたび、私も私のやり方で自分らしいコミュニティを作っていこうと思えるようになりました。これから自分に何ができるのかワクワクしています。

同時に、一年を通して学んでみると、誰もが所属する大きなひとつのコミュニティに気づき、まずはここを大切にしようと思うようになりました。そのひとつのコミュニティ＝私＝あなた＝人間＝生き物＝地球＝宇宙を守ることを意識して生きていこうと思います。

一年間共に学んでくださったみなさま、講師の先生方、企画・運営委員のみなさま、生涯学習センター職員みなさまに心より感謝申し上げます。

コミュニティコースを受講して

藤 田 恵 美

「地球環境問題」や「地球規模の課題」、あるいは「持続可能な社会の実現に向けた課題」と総称される地球温暖化や大きな社会課題を前に、私たちにできることは何か。そのカギは、私たちの日々の暮らし方や地域とのつながりにあるのではないかと思い、このコースに参加しました。

学習した感想をみんなでシェアしながら、私たちの暮らしに今必要な事を話し合ってきました。受講生同士の交流がすすんだと思います。これから何らかの形になる様な活動をつくっていき、私たちの住む地域と一緒に考えていけたら嬉しいです。

「位置 (いち)」から「まち」へ

牧 志 朋 子

昨年の春に転居してきた当初、私にとってここは mitaka という文字列の地図上の位置記号でした。しかし、コミュニティコースでの一年は、「位置」を顔の分かる人びとが暮らす「まち」へと変えました。

講師陣の講義内容が興味深かったのは勿論、学習生との会話や、引き受けさせていただいた運営委員の仕事からも学びを得ました。今年度上半期は、不慣れな運営やグループ形式への変更に対して厳しいご意見をいただくこともありましたが、回を追うごとに楽しそうに会話する学習生の顔を見ることが増え、それが運営のエネルギーとなっていました。とくに、自主学習の運営、多様な意見を一定の形にするフェスティバル展示物の作成、そして学習者発案のランチ会は、属性の異なる人びとの交流が生む困難さ、楽しさ、そして自己／組織的効力感を教えてくれました。私はしばしば欠席し皆さまに支えられてばかりでしたが、そんな私を温かく受け入れてくれたこの場こそが地域コミュニティの良い事例だったと感じています。

本コースでの活動を通して、いまでは三鷹という「まち」に愛着を感じています。ここで得た学びを種に、自分らしい地域社会との関わり方を育んでいきたいです。

コミュニティとのつながりから得た学び

E.M.

私たちは日常で職場や学校、地域、趣味、友人、家族など多様な人々や組織と関わりながら生きている。こうした関係は固定されず、時間や環境で変化することを、講義や学習生の発表から改めて実感した。

特に印象的だったのは、自然環境と人の豊かさの関係である。自然環境が整うことで人は豊かさを感じる「ウェルビーイング」の考えや、人間も自然の一部であるという視点は、自然に触れた際の心地よさを再認識させた。個人で楽しむガーデニングは、地域の自然環境を豊かにしていこうと活動するコミュニティへ繋がり、思いを共有しながら活動する意義を実感している。

また、子育てを振り返ると家庭のみならず学校や地域の支えが不可欠であることに気づき、次世代を育む営みであると実感した。今後は、子どもたちがそれぞれの想いを持ちながらも未来に向かって歩めるよう、世代を超えたコミュニティとのつながりを大切にしていきたい。

最後に講師の方々、企画委員、運営委員、事務局の方々、学習生の皆さんに感謝申し上げます。

振り返って

前 田 あけみ

長年、三鷹市に住まいながら知らない事が多く、地域の良さや色々な人達が活動している事を知りました。自分の身の周りでのコミュニティから、地球規模での話まで、多岐にわたり大変勉強になりました。コミュニティを大切にすれば、今、世界で起きている戦いもなくなるのではないかと思います。これから、自分が何ができるかを考え、過ごそうかと思える時間を、持つ事ができました。

地球と生命の存続のために

谷 島 弘 子

「世界の終末時まであと 84 秒」との報道は約 1 ヶ月前、今や「力による平和」を唱えて大国のリーダーが新しい戦争を始めた。

地球や人類の滅亡まで更に何秒進めてしまうことになるのか？戦争はそれを急速に速める人災だ。「世界を終末」に招くリスクは核、気候変動、環境破壊などが考えられるが、その第一の脅威は核戦争だ。日本は世界で唯一核兵器の被害を被った国、その過ちを二度と繰り返さないという誓いのもとに 80 年余り、世界でも歴史上稀な「平和」を満喫して、私自身はこの国で自由に人生を送って来ることができた。しかしガザやウクライナ、中東で戦争で命の危険に晒されている人々や次の世代のことを思う。誰にとっても一度限りの人生、豊かに命を全うすべきだ。「well-being」「持続可能な安心、安全」「SDGs」などの実現を願いながら、今年の市民大学はこのコースを選んで学んできた。地球と人類の末永い存続のために私達市民が出来ることは何か。それは地域の人達と共に学び民度を上げて、その学びで得た「思考力と判断力」をひとり一人が生かして社会への「学び返しをすること」だとコースの終わりに今この原稿を書きながら私は強く思っている。

「みたかのコミュニティ」での1年間を振り返る

山 田 浩 司

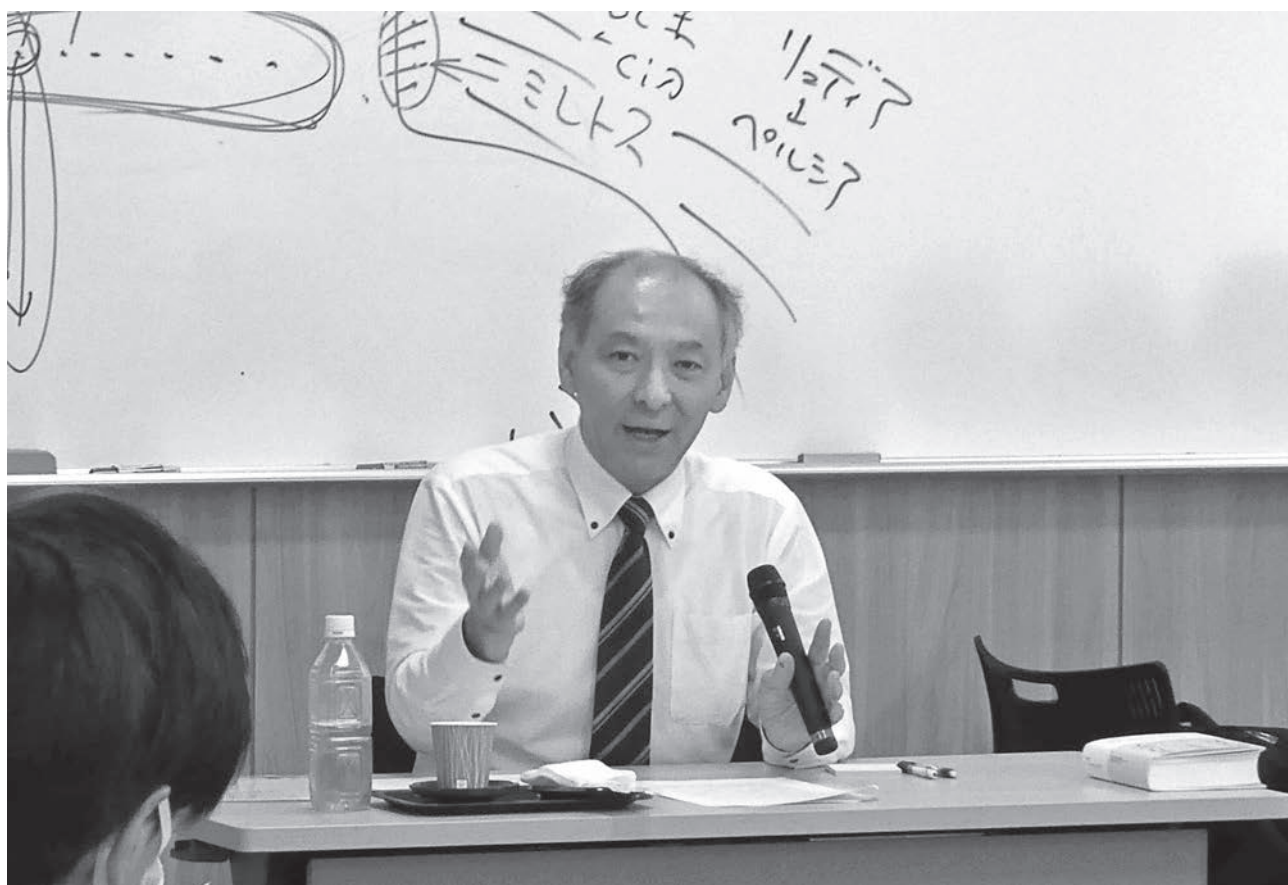
2025 年から 26 年にかけて、私が三鷹の地で起こした行動を列挙すると、①本コース学習生から勧誘を受けて阿波踊りの稽古を始めた、②その前提としてシルバー人材センターに登録したら、地域班で地域情報誌の編集担当をすることになった、③アイデア工作クラブに参加した、④福祉 Labo どんぐり山で 3D プリンター実機実演と 3D プリント自助具の展示を行った、⑤「たかのめかい」という有志グループを作り、月イチのオープンガーデンを支援し始めた、⑥ポッドキャスト番組「みたかのミカタ」を立ち上げて、地域活動を取材・情報発信できるプラットフォームを勝手に作った、ことなどが挙げられます。

本コースは合計 12 回も欠席し、学んだことを述べるのはおこがましいですが、毎週の学習者の座席表を自動生成するプログラムや「あゆみ」編集委員をくじ引きで選考するアプリを作ったり、フェスティバルで特定事例をケースに意見を出し合うオープンディスカッションを主催したり、いろいろな取組みに挑戦させてもらえたありがたい場でした。配布いただいた資料は、今後地域活動をレポートする際の参考資料として、活用していきたいと思います。1 年間、お世話になりました。

「こんにちは!哲学」

一緒に扉を開きましょう

講師：納 富 信 留
(東京大学大学院人文社会系研究科教授)



古代ギリシアから哲学を行うこと

講師 納 富 信 留

三鷹市民大学の哲学コースで連続講義を依頼され、古代ギリシア哲学についてどのようにお話しすべきかと、当初は考えあぐねていました。それは、哲学を行うやり方について、いろいろな迷いがあるからです。

哲学の進め方や素材は多様で、環境や社会や心をめぐる現在の差し迫った課題に対応する応用から、根源に遡って原理から考える思考、さらに古今東西の哲学に目を向けてそれらを検討していくものまで、実にさまざまなアプローチがあります。それらはどれも立派な哲学であり、優先や遜色といったものは基本的にあります。皆さんがそれぞれの関心と能力と機会に応じて、楽しく学び、議論していただくのが一番です。とはいえ、あえて「哲学とは何か」を考え、そこで基礎から哲学的思考を追求したいという場合、私が専門にしている古代ギリシア哲学は、一つの基盤、あるいは参照点になり得ます。

哲学は「全て」を扱う営みであり、私たちがこの世界で生きていく上で考えるべき問題は無数にあります。有限な時間と能力において、何が一番大切か、何が基本となるのか、それを意識しながら哲学を行うことも重要です。「正義とは何か」「幸福とは何か」といったストレートな問いを、ソクラテスはアテナイの街角で人々に向け、相手の答えを徹底的に吟味していききました。古代ギリシア哲学の良いところは、余分な装飾を削ぎ落とし、評判など気にせず、問題の核心に直接向き合う姿勢にあると思っています。その意味で、現在の私たちに必要なのは、そんな古代ギリシアの「哲学」の現場を見ることではないか、そう考えるに至りました。

三鷹講座では五回にわたって「古代ギリシア哲学」を講義し、計十名(一つはグループ)の哲学者について、背景や言説を説明し、活発な質問やコメントにお答えしました。二千数百年前に、遠いギリシアのポリス社会でくり広げられた議論や思索が、二一世紀の日本でこのように生き生きと刺激と示唆を与えてくれることに、新鮮な驚きを感じました。哲学には古いも新しいもない。本当に大切なことを、しっかりと向き合っているその現場に私たちも立ち会い、自分で考えたことを言葉にして発することが大切なのだ。改めてそのことを強く認識しました。ご参加いただき、毎回司会や質問をいただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

プロフィール



のうとみ のぶる
納富 信留さん

1965年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了。英国ケンブリッジ大学古典学部博士課程修了 Ph.D.取得。

九州大学助教授、慶應義塾大学文学部准教授、同教授を経て、2016年4月1日より現職。

東京大学大学院人文社会系研究科 研究科長・学部長(2023～2025年)、国際プラトン学会会長(2007～2010年)、日本哲学会会長(2023年～)、日本西洋古典学会委員、日本学術会議連携会員、FISP(哲学系諸学会国際連合)運営委員(2018年～)など。

専門は、西洋古代哲学、西洋古典学。古代ギリシアにおける「哲学(フィロソフィア)」の成立を焦点に、詩と哲学、ソフィスト、弁論術などを主なテーマとしている。また、ギリシア哲学の近代日本やアジアでの受容も研究し、近年は世界哲学のプロジェクトをすすめている。

<主な著書>

The Unity of Plato's Sophist (Cambridge University Press) ; 邦訳『ソフィストと哲学者の間』(名古屋大学出版会)

『ギリシア哲学史』(筑摩書房)

『ソフィストとは誰か?』(人文書院、ちくま学芸文庫)

『哲学の誕生—ソクラテスとは何者か』(ちくま学芸文庫)

『プラトン 理想国の現在』(慶應義塾大学出版会、ちくま学芸文庫)

『プラトンとの哲学 一対話篇をよむ』(岩波新書)

『対話の技法』(笠間書院)

野矢茂樹先生



正村俊之先生



山内史朗先生



梶谷真司先生



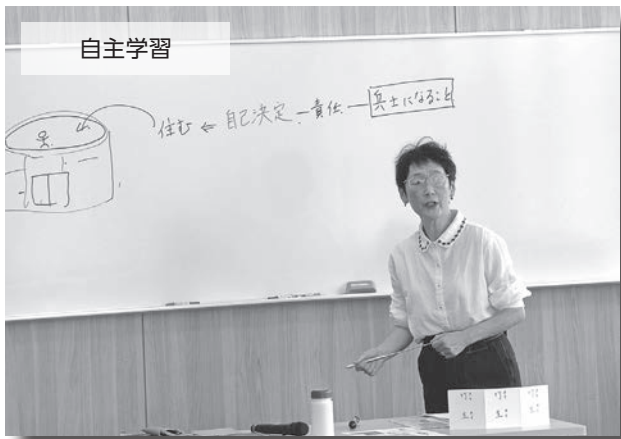
加藤みち子先生



自主学习（哲学対話）



自主学习



フェスティバル展示



●カリキュラム

回	日付	講義名	講師
学 習 内 容			
1	5月16日	開講式・オリエンテーション	自主学習
	開講にあたって企画委員からの哲学コースの趣旨と講座運営の説明。学習生の自己紹介。		
2	5月23日	ギリシア哲学史① 哲学の始まり	東京大学大学院人文社会系研究科・教授 納富信留さん
	初期ギリシア哲学の範囲について。タレスとアナクシマンドロスの「万物の根源」についての捉え方のちがいについて。		
3	5月30日	ギリシア哲学史② 詩と哲学	納富信留さん
	クセノファネスとヘラクレイトスの生涯と著作を紹介しながら、言葉(ロゴス)の持つ力について触れた。		
4	6月6日	ギリシア哲学史③ 存在と魂	納富信留さん
	パルメニデスとエンペドクレスについて。両者が残した「詩」について解説しながら自然・浄めについて講義を行った。		
5	6月13日	ギリシア哲学史④ 言葉の力と技法	納富信留さん
	ソフィストたちとソクラテスについて、この両者における「言葉」の重みの相違について学んだ。同じ言葉であっても目的が異なれば、卑しくもなり崇高にもなる。「無知の知」ではなく「不知の知」の説明が鮮烈な記憶として残った。		
6	6月20日	ギリシア哲学史⑤ 学問としての哲学	納富信留さん
	プラトンとアリストテレス。主にその生涯について学んだが、プラトンが弟子たちにイデア論の批判を求め、さらに成熟した思想にしようとした姿勢に一種感動を覚えた。		
7	6月27日	自主学習	自主学習
	「哲学対話」のルールを知り、実際にそのルールを用いながら「否定しない対話」を実践し実り多き自主学習であった。		
8	7月4日	哲学のカフェ、カフェの哲学	フランス文学者 澤田 直さん
	サルトルを中心に実存主義についての講義。実存は本質に先立つが故の不安をもたらす。サルトルの小説『嘔吐』を引用しつつ、欧米人特有の「存在」に関する認識を、日本語にないbe動詞論とともに説明され興味深い講義だった。		
9	7月11日	自主学習	自主学習
	今後の自主学習の進め方についてグループに分かれ、自由に希望を出し合った。		
10	9月12日	自主学習(学生講義「ギリシアの民主主義とソクラテスの選択」)	自主学習
	納富先生の講義の背景となった古代ギリシア(特にアテネ)の生活や民主主義について。また、ソクラテスの死の意味について、哲学コース学習生が講義を行った。		
11	9月19日	現代思想と美術	法政大学名誉教授 酒井 健さん
	第一次世界大戦後フランスで生じ今なお引き継がれている西欧近代批判の思想。バタイユのダ・ヴィンチ評論が興味深かった。		
12	9月26日	ライプニッツから中世哲学へ	慶應義塾大学名誉教授 山内志朗さん
	ライプニッツ、スコトゥスの哲学について学んだ。取り分けモナド論の講義は奥深い内容で、人間という存在の尊厳に迫る内容であった。		
13	10月3日	自主学習	自主学習
	ビデオ鑑賞とディスカッション		
14	10月10日	西田幾多郎—その人と思想(オンライン)	京都大学名誉教授 藤田正勝さん
	西田幾多郎の人柄と哲学について。難解であると敬遠されがちな人物であるが人柄を知ることによって西田哲学の奥深さを知りえた。		
15	10月17日	考えるとはどういうことか	東京大学大学院総合文化研究科・教授 梶谷真司さん
	「哲学対話」の意義について講義された。本講座は哲学対話はすでに自主学習の中で取り組んでいるが、本講座を受講したことにより更に「哲学対話」の目指す方向が明確化した。		

回	日 付	講 義 名	講 師
	学 習 内 容		
16	10月24日	情報的世界観とその思想的系譜①	東北大学名誉教授 正村俊之さん
	情報の視点から人間の意識的世界や社会の文化的体系を説明していった。		
17	10月31日	情報的世界観とその思想的系譜②	正村俊之さん
	前回に引き続き情報概念の変遷から始まり、ヴィトゲンシュタイン・フッサールにまで至る内容の濃い講義であった。		
18	11月7日	ベルクソンの時間哲学	慶應義塾大学文学部教授 平井靖史さん
	日常生活において何気なく側を流れていく時間。しかし、何気ない風を装っているが侮ることはできない。「時間」そのものに対する見方、受け止め方が一変するスリリングな講義であった。		
19	11月14日	ハイデガーとレヴィナス〔オンライン〕	放送大学特任教授 東京文教学習セン ター所長 熊野純彦さん
	ハイデガーとレヴィナスの哲学を原文を、忠実に翻訳しながら対比させていった。		
20	11月21日	生涯学習センターフェスティバル準備①	自主学习
	フェスティバル準備		
21	11月28日	生涯学習センターフェスティバル準備②	自主学习
	フェスティバル準備		
22	12月12日	共感の功罪について〔オンライン〕	北海道大学大学院文学院・准教授 宮園健吾さん
	安易に共感することがいかに危険であるか、また、自分でもそれとは知らず反道徳的な道に踏み込むことになるか。その危険性について、最近の事件やSNS投稿などを題材にした講義。		
23	1月16日	自主学习	自主学习
	国際基督教大学内 湯浅記念館 見学		
24	1月23日	ことばから見る神道文化－言霊を中心に－	武蔵野大学特任教授 加藤みち子さん
	日本古来の八百万神信仰や言葉に魂を見出す言霊信仰など、これまで学ぶ機会がなかった日本独特の宗教心に触れた講義であった。		
25	1月30日	ヴァイオリン演奏	ヴァイオリニスト 戸田弥生さん
	戸田弥生さんのヴァイオリン演奏を拝聴		
26	2月6日	【公開講座】水平の旅、垂直の旅	写真家、登山家 石川直樹さん
	2月7日	【公開講座】輝け、日本国憲法！～平和な世界を目指して～	ジャーナリスト 伊藤千尋さん
27	2月13日	自主学习	自主学习
	シナリオ教室。学習生がシナリオの書き方をレクチャーし、与えられた登場人物・状況で学習生が各自シナリオを制作した。思いがけない展開などがあり改めて「個人」「個人」の面白さと尊厳を感じた。		
28	2月20日	行為と意志	哲学者 野矢茂樹さん
	日常の何気ない行為、実はよく考えてみるとシュヴァルツヴァルトの黒い森に迷い込んでいくようなスリリングな展開が「私」の中で起きている。まるで推理小説を読んでいるような講義であった。		
29	2月27日	アンスコム の意図的行為論	野矢茂樹さん
	メカニズムの観点からアンスコム の意味の観点 (意図的行為論) への転換について。今回も難解な講義であったが、この難解さが多様なものの見方を指示してくれており哲学の面白さを十分味わえた。		
30	3月6日	行為とは何か	野矢茂樹さん
	前回に引き続きアンスコム の意図的行為論の説明と後半は野矢先生ご自身の行為論についてご説明いただいた。まだ、終点の見えない学説ならこそ、研究者の迷いや疑問が伝わってくる貴重な講義だった。		

市民の大学で哲学を学ぶ

E.I.

昨年5月に始まった「市民大学 哲学コース」も、もうすぐ終わろうとしている。早い、というより終わって欲しくないと思える素晴らしい時間を幸運にも得たのだ、と今さらながら感じている。

学生時代、教養科目での哲学の授業がどれも好きだった。しかし今思えば人生を考えるにはいかんせん若く、限られた時間でもあり心ゆくまで取り組むには不十分だった。時間ができたら今一度繙きたい、といわゆる積読本になった本たちを長年温めていたのだが、数年前それらを手に取り、昔よりも哲学者たちを身近に、彼らに親しみを感じている自分に気づいた。大人として時間を過ごしてきた今、再び哲学を学ぶ機会があれば、と思っていた。

私はこのコースに参加することで、新たな知識を得て考えるポイントが増えた。また知らなかった複数の哲学者を知り、すっかり愛読者になった。そして何より、同じように哲学を学びたい方々から受ける刺激は格別で、大変に貴重な宝物を得た気がしている。

このコースを企画運営してくださった運営委員の皆様、そしてクラスメイトの皆様に心より感謝を申し上げます。

古代ギリシアに学ぶ。

K.E.

古代ギリシア哲学は、社会的混乱と人間の生き方への問いの中から生まれた思想である。

初期のギリシア哲学は、自然や宇宙の根本原理、万物の始まりを探究することであった。

しかし、ペロポネソス戦争によって市民社会は大きな混乱に陥り、民主政のアテネも不安定化した。こうした歴史的状況の中で、哲学の関心は自然の探究から、人間の本質、国家の在り方へと移行して行く。そのような時代に、ソクラテスは「徳とは何か」「善とは何か」「正しく生きるとは」と問い続けた。彼は知識を教え込むことはなく、対話を通して相手に考えさせる点にあった。対話と質問の繰り返しによって人々の矛盾や不知を自覚させ、真理への追求を試みたのである。生き方そのものが哲学であった。

近年、学校教育では対話的な学びが重視され、自ら考え他者と議論しながら理解を深める授業が展開されている。今年の都立高校入試では、メイン講師の納富先生「対話の技法」から出題がなされた。ゲスト講師の梶谷先生からも対話教育が学力向上や風紀の改善につながった事例が紹介され、対話教育が着実に広がっていることを実感した。

また、電車内で多くの人々がスマートフォン画面を見つめる光景は、プラトンの「国家」に示された「洞窟の比喻」を思い起こさせる。洞窟の中で壁に映る影を真実と信じ込む人々は、限られた情報のみを受け入れてしまう現在と重なる。SNS が世論や最近の選挙に影響を与える現代こそ、対話を通じて批判的に考えることが求められる。

以上のように、歴史的混乱の中で対話を通して真理を追究した姿勢は、現代社会でも重要なことを示している。

考えることって楽しい

Y.O.

哲学とはどんな学問かと聞かれたら、私の今の考えは経験から作り上げた人生観です。いろいろな考え方、見方があるがこれが正解！というものが無いのが哲学の面白さ。時代や国、性別によっても受け取り方が違うので先生方の講義に納得したり理解不能になったりと講義の時間は自分なりに一生懸命考えました。

メイン講師の納富先生の講義が特に面白くそして私にとってわかりやすかったです。学生の時にさらっと習っただけなのに妙に心に引っかかっていた古代の人の考えを順を追っての解説は面白かったです。ソクラテス、プラトン、アリストテレス以前の哲学者たちの時代の政治や社会情勢も解説していただけたので、その時代の人々の置かれた立場（貴族・平民・奴隷）の違いや地域によって社会状況が違うのがよく分かりました。

また自主学習での哲学対話やドラマを見ての対話も話が弾んで有意義でした。日頃スマホでの短い連絡で済ませがちなので、自分の気持ちを伝えようとする事の難しさ楽しさを知り、また人の意見を聞いて共感だけでなく反論することの大切さと言ひ方の工夫を学びました。

そして最後の「行為について」の講義はテキストは分かりやすいのに多面的な問題なので内容が難しく、哲学的な問題をゆっくり時間をかけて聞けて面白かったです。

哲学を学ぶ意味

A.O.

受講を望んだきっかけは、当時観ていたアニメ『チ。一地球の運動について』だ。本作は中世を舞台としたフィクションだが、所々に言及される哲学者は実在の人物である。ときに人々の対立や命の危機にまで至らせる知への探求心。それは、現代の、現実の私たちの世界にまでつながっていることを感じる。

哲学については、高校までの世界史や倫理で学んだ程度なので、受講に当たって、辞書をひき、ネットで検索しながら理解に努めた。

哲学について調べていたら、私のスマホのアルゴリズムは哲学に関するものを提示するようになった。その中に、とあるインフルエンサーが「哲学は役に立たない、学ぶ意味がない」と言っているショート動画があった。

現代はAIが今まさに進化して、答えのようなもっともらしいものを提示する。本を読み込むよりも簡単に、短い動画で知ることができる。最新技術を使いこなし、役に立つこと、意味のあることをしようという時流がある。

野矢先生は、確固たる「思想」で相手を論破することと、自分の中に分裂した考えが存在し、ときにぶれることもあるという「哲学」との違いを説明された。また、哲学的問題を追究するには、他者の意見を聞き、対話するという共同作業が欠かせないという。

本コース受講を通して、答えを導き出すことの重要性を知ればこそ、問う・問い続けるという哲学の営みの真価を軽んじてはいけなかったと感じた。哲学を知識として身につけるにはあまりに短い一年だった。しかし、これから先を問いながら生きたい、自分と考えが異なる他者とも関わっていきたいと思えたことは、ひとつの収穫であり、「役に立つし、学ぶ意味がある」ことだったと胸を張って言える。

『こんにちは!』から、『楽しかった!』まで

Y.K.

このあゆみ原稿を書くに当たって、「学習の手引き」を読み返しました。講座の「内容」と「講師」の名前を見て、改めて胸が高鳴っている。よくぞ、これだけの講師の方が参加してくれたものだと思う。メイン講師の「納富信留」先生から始まり、名だたる講師の方々の名前が続き、締めくくりの3回は「野矢茂樹」先生が務めてくれた。本当に贅沢な一年間でした。ギリシア哲学史、哲学のカフェ、現代思想と美術、ライプニッツ、西田幾多郎、ベルクソン、ハイデガー、共感の功罪、言霊、行為論と、興味深い講座の連続でした。しっかり内容を理解したかといえ、8割? 7割? …… 5割? と甚だ怪しいのですが、「こんにちは!」で始まった「哲学」が「楽しかった!」で終わる事が出来て、とても充実した「学び」の一年間となりました。運営委員として、自主学習の講座を受け持った事も良い経験となりました。

改めて、講師の先生方、生涯学習センターのスタッフの皆さま、企画委員、運営委員の皆さまに心から感謝いたします。

ありがとうございました。

頭をグリグリ刺激された1年

喜屋武 みどり

哲学クラスでは、多様なテーマに触れ、さまざまな視点から物事を観察し、考える機会に恵まれました。特に心に残ったのは、哲学者たちが純粋な疑問を追いかけ続ける姿勢です。哲学クラスを受講してから普段の生活で流れてしまいがちな些細なことにも意識的に立ち止まって考えてみる日が多くなった気がします。自主学習の哲学対話で取り組んだ「美しさとは何か?」という問いも、私が長年気になっていた小さな疑問です。自然や数式、文章や容姿など、なぜ美しいと感じるのかを哲学クラスのメンバーと探りながら、答えを急がず考え続ける時間は、新たな視野を与えてくれました。哲学は答えを出すこと以上に、考え続ける営みそのものが面白いと実感しています。(また、対話の中でメンバーの皆さんのそれぞれの個性に触れることができたのも嬉しかったです。) 1年間どうもありがとうございました!

学びの時間

M.S.

哲学コースを1年通して受講させて頂き、ありがとうございました。

昨年より三鷹市民大学総合コースを知り、2年連続で同じ哲学コースを希望致しました。哲学という広い枠組の中では、メイン講師は勿論、講師の先生方の専門分野が違う為、学習内容も違い、新鮮な学びの時間でした。特に、メイン講師の納富先生のギリシア哲学が5週連続で、ギリシア哲学誕生からスタートし、地中海の島々へと拡大、発展した経緯は大変興味深く、ソクラテスやプラトン以外にも沢山の人がそれぞれの社会で、まだまだ文献が少ない時代での活躍には目を見張る思いがしました。

ベルクソンの時間哲学や神道文化、戸田弥生さんのヴァイオリン独奏等、一回しか聴講出来ない学習も、大変特徴的で、変化に富んだ学びの時間でした。

又、運営委員の方々による自主学習では、資料作成のご準備から当日2時間の講義終了まで、かなりの御負担をお掛けしている事と推察し、敬意を持って感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、1年間サポートして下さった生涯学習センター事務局の皆様、お世話になりました。

これからもこの三鷹市民大学総合コースが継続されます事を祈念しております。

こんにちは！哲学

Y.S.

学習生の皆さんと机を並べて哲学を勉強した日々、本当にかけがえのない体験をさせていただきありがとうございました。初めてお顔を合わせて自己紹介した時の不安とわくわく感を思い出しておりました。帰りで学習生の方にお声をかけていただき、何もわからない私に様々な資料を見せてくださいました。

こんな哲学初心者の最初の講義が、なんと納富信留先生でした。全身を耳にして西洋哲学の始まりを拝聴しました。納富先生はアテナイにお住まいなのかしら？(笑)と思ったほど、目の前にソクラテスがいてポリスの中を歩いているかの如く、古代ギリシャの今に繋がるリアルなお話をしてくださいました。哲学は通常使われている言葉も概念を表す上で難しく、理解することが大変でしたが、先生のご著書を読んでいるうちに深く考えていくことがだんだん面白くなってきました。いつの間にか「哲学の沼」にハマっていました。

他の講師の先生方も、各分野での研究をご講義してくださる度に、わからないことが増えて「泥沼」に落ちてしまうこともありましたが、手がかりになる資料を探してわからないなりにとも思考することの繰り返しが楽しくなっていました。

また、自主学習での「哲学対話」も初めて体験できました。こちらも見聞の連続でした。このまま、学習生の皆さんとずっと一緒に勉強していきたい、その喜びをいただいたことに心から感謝申し上げます。また、様々な準備をしてくださった方々にもお礼を申し上げます。これからもこの貴重な経験を生かして今度は自分から哲学の「かいぼり」をしていきたいと思っています。

ありがとうございました。

ギリシャ哲学よ、こんにちは！

高橋 かおり

企画委員会で、メイン講師候補の方々を検討している時に、「ダメ元で納富信留先生は？」と口走ったら、前期5回ならと、まさかのご快諾を頂き、仰天するやら、ありがたいやら。

古代ギリシャ哲学の世界的な泰斗・納富先生が1学期を「ギリシャ哲学史」として「哲学の始まり」「詩と哲学」「存在と魂」「言葉の力と技法」「学問としての哲学」の5回連続で展開され、著作を残さず目の前の人と対話をする事を哲学と捉えたソクラテス、哲学を通じ正しい政治を目指したプラトン、万学の祖と言われたアリストテレス等々、それぞれの人間的な息遣いが感じられその豊穡さと贅沢さを存分に堪能した幸せな時間だった。

ゲスト講師には、サルトル研究の澤田直先生の「哲学者とフランス文学・哲学と芸術」、山内志朗先生の「ライプニッツから中世哲学へ」、藤田正勝先生は「西田幾多郎の思想」、熊野純彦先生は「ハイデッガーとレヴィナス」、最後の3回は野矢茂樹先生の「ことばの哲学」で締めくくられた。いずれもお人柄の表れた語り口で専門知を教授して下さり、時に難解でも古の学者達の懊悩が垣間見られる様で、困難な課題を深く研究する魂の気高さに触れた思いがした。

毎年哲学コースでヴァイオリンコンサートを開いて下さる戸田弥生さんの演奏は、心が洗われホールが美しい楽の音で満たされた空間に変貌した。

あと2年で開設60年を迎える三鷹市民大学総合コースは、他に例のない市民の自主運営講座で、毎年多くの学習生がテーマ選択、企画立案、運営などに関わり事務局スタッフの方々の献身的なサポートにより、その年毎の5コースが毎年5月に走り出す。講義以外に自主学習日を設け、フェスティバルで学びの成果を発表し、各コースが独自の内容で意見交換したり、外部見学に出かけたりできる。この素敵な財産を三鷹市は丁寧に未来に繋げてほしいと切に願う。

お世話になった全ての講師の方々、運営委員、仲間の皆様、スタッフの方々に心から感謝する。

幸運なことに本講座を2年連続して受講することができた。そのお陰で私はあることに気が付いた。『哲学と万華鏡は似ている』

結びつきそうもないものだが私には似た特性を持っているように思えてならない。どちらも見る位置をくると回して再び見てみると、先ほどまでの思想と模様は全く異なった姿を現している。「完璧」と思っていた今までの「常識」「普通」の壁は崩壊している。なんと美しい！と見とれていた色とりどりの模様もまた異なった美しさを見せてくれる。「視点を変える」ただそれだけで新しい世界や美の扉が開かれるのだ。

類似点はほかにもある。どちらも人間の尊厳を奪い貶めることを目的としていないところだ。「哲学は時に完膚なきまでに他の哲学を否定するではないか」確かに。しかしそれは思想についての批判であり相手の人格否定ではない。寧ろ批判の対象となっている哲学者がその思想を世に出してくれたからこそ、批判することによって更なるステップに進める。だからこそ敬意を払いながら互いの見解を傾聴し、熟考し批判することもある。だが、某国の議会や代表者のように戦闘的で下品な言葉で発言者の声を封じたりはしない。疑問や異なる意見の存在を認めてこそ人間は成長を遂げられるのだから。

最後の共通点。終わりがなく。万華鏡は次々に新しい模様を作り出していく。哲学もまた次々に新しい問題を提起してくるだろう。次々に現れる新しい思想や美に私は出会えた時、私は永遠のガキでいたいから子供のままで「うわぁ〜！」と叫び、驚き、ご機嫌で哲学と遊ぼう！来年も遊べるといいな〜☺

哲学の扉は開かれたのか？

今年度、初めて市民大学・哲学を受講した。なんとなく「哲学ってかっこいいかな」くらいの軽い気持ちでの応募。コース名も「素人でも大丈夫！」と思わせるものだったのである。

東京大学・納富先生のギリシャ哲学史の講義から始まり、近世フランス哲学、現代哲学、中世ドイツ哲学、日本の哲学、言霊、そしてまた現代哲学など、非常に盛り沢山で時代もマチマチバラバラであった。でもその講義を受けるにつれて「自分で何かを考える」「1つに集中して考えに考え抜く」ことについては、「扉がほんの少し開かれた」ように感じている。講師だけでなく、受講生の質問や後述の哲学対話の受講生の意見・考えにも、大いに触発された。改めて、各回ともに非常に丁寧で、難解な単語を使わずに講義をしていただいた講師の皆様にお礼を申し上げたい。まぁ〜、最後の野矢先生の行為論の講義で、頭がグチャグチャになり、それもまた快感とを感じるまで「成長」したのかなと思う。内容を理解したかどうかは別問題であるが。

また、自主学習のコマが10回あるが、最初に「哲学対話」をやった。ルールを決めて、参加者全員が素直に対等の立場で話すことができるものである。哲学対話で、学習生とお話出来て一体感が醸成され、考えることの楽しさを感じることができた。

その他にも、ICUの湯浅記念館に「暮らしを楽しむことば遊び」を見学に行ったり、ヴァイオリンの生演奏を聴いたり、フェスティバルの準備をしたり、本当に充実した1年であった。

ただ、暇な私は「夏休み、冬休み無く1年を通して毎週毎週、講義があればいいのにな」と思った次第である。

かくして、「哲学の扉は…、開いてはいないが、閉じてもない」のだ。

啓蒙

C.T.

有難いことに人気の哲学コースに3年連続で当選でき、学べば学ぶ程年々欲深くなっている気がします。

当初は哲学の知識を広げたいと始めたのですが、哲学と銘打っているこのコースの守備範囲は広く、哲学の一般的な知識のみならず多岐に渡って見聞を広めることができました。

普段お目にかかることがない先生方の持説を拝聴する楽しみは格別でした。

講師の方が年間スケジュールを見て「これほどの著名な先生方をよくお招きできましたね。」と感嘆する程豪華な顔ぶれなのです。(企画委員の方々に心から敬意と感謝を表します)

俗物的な話ですが、感銘を受けたゲスト講師の講座に個人的に受講しようと試みたところ、やはりお高い！それがこの市民大学では受講料無料！お財布を傷めず実践知を高めていけるとはなんてラッキーなことでしょう。

余生をより豊かに過ごすために、来年度の抽選も当選できるよう祈るばかりです。

因みに、決定論が正しければ祈ったところでなるようにしかありませんが(笑)。

末筆になりましたが、この運営に関わるすべての皆様に心より感謝申し上げます。

受講雑感

M.H.

「哲学」という言葉、ソクラテス・プラトン・カント・ハイデガー・サルトル等々哲学者の名前は聞いたことがあるもののその内容は全く理解していなかったのので、少しかじってみようかと思い受講した次第です。

哲学を学ぶといっても二つの側面があるように思われます。一つは哲学史というのでしょうか。偉大な哲学者の思考を学ぶ、これが哲学を学ぶにあたっての基本かもしれません。もう一つは哲学とは「知を愛する」という意味だそうで「自分自身で考える」こと、これが哲学を実践することになるのでは？と思います。前者の側面では納富先生による「ギリシャ哲学史」は5回にわたる集中講義であったことと、自主学習で学習生でもある竹生さんによる「アテネの直接民主政治とソクラテスの選択」の補足講義もあり一定の理解は進みました。しかしそれ以外の講義は著名な先生方の講義でしたが、基礎知識のない私にとっては1～2回の講義で理解できるものではありませんでした。後者の側面である「哲学を実践する」では野矢先生の3回にわたる「行為論」はNとSの会話から結論(終着点)にたどり着く。「これが哲学の思考過程なのだ」とよく理解できました。もう一つ哲学の実践編では梶谷先生の講義と自主学習で行った「哲学対話」です。「問う」「考える」「語る」「聞く」実際に参加し、大いに勉強になりました。哲学とは直接関係はない？ 戸田弥生さんのヴァイオリン演奏、石川直樹さんの「ヒマラヤ・シェルパ」の講演も大変印象に残りました。

1年間お世話になりました。ありがとうございました。

哲学の核を識る

K.T.

今回はテーマ「こんにちは哲学」に相応しく、ギリシャ哲学から中世ヨーロッパ、近世ドイツ、現代の分析法哲学、そこに、日本の神道文化から見た日本人の心性も合わせて、大変充実した講義内容だった。どれも大変刺激的で、色々考える端緒を与えてもらえるので、本当に楽しかった。

自主学習はなかなか参加出来なかったが、哲学対話やシナリオでドラマを通して哲学を考えるなど、能動的な内容と感じた。

特にラストの「行為論」の中で、哲学とは、テーマに対して対話が可能なように（限定的な場合もあるが）思索に言葉を与え、その中で自分の理性と感情を整理してゆく作業であると感じ、まさしく私にとって原点回帰的な「こんにちは哲学」になった。

担当職員の方々、企画、運営の委員の方々、講義をして下さった先生方、そして一緒に学んだ学習生の皆様に、心から感謝申し上げます。

扉は開かれた！

M.M.

“「こんにちは！哲学」一緒に扉を開きましょう”と書かれたチラシを目にした瞬間、今まで馴染みのなかった哲学という文字が脳裏に焼き付きました。幸いにも受講機会が得られて、期待に胸を膨らませた私は哲学の館に通じる門をくぐりました。

講義による学習が始まり、過去の著名な哲学者の思想を語る先生方の声を頼りに、私はその扉の前に立ちました。しかし、扉の重いこと。分からないことばかりで、その扉は私だけの力では開きませんでした。

ところが、受講者による自主学習で状況が変わりました。自由な雰囲気ของกลุ่ม討論によって、受講者のそれぞれの思いに共感したり、新たな視点を教えられたりしたことです。哲学は過去の著名な哲学者が作り上げたものを学ぶことだけではなく、今の自分自身を深く、かつ多面的に見つめるきっかけになるものでもあることが分かり、扉は軽いと思えるようになりました。

本コース終了にあたって、遂に自分で扉を開くことができました。それは、過去の哲学者にも一緒に受講した人々にも、自分自身と真剣に向き合うことに共通点があると見出したことによるものです。“分からない”と感じて距離を置くのではなく、柔らかな心を持って、他人の意見にも意識を配りながら、自分自身で深く思考を巡らすことが、扉を開けることに繋がると分かりました。

一人で学ぶだけでは見つけることができなかった哲学の旨みを本コースで味わいました。この企画を立案・運営いただいた運営委員・スタッフの方々、先生方そして自主学習でリードしてくださった方々へ心からお礼申し上げます。

さて、次はどんな扉を開きに行きましょうか。

哲学の扉を開いて

M.M.

錚々たる先生方に大変貴重なお話を伺わせていただき、とても楽しく学びの多い一年間でした。

『哲学の扉を開く』というテーマに惹かれ、家族の勧めもあり受講を決めたのですが、元々哲学に興味はあったものの専門的な勉強はしたことがなく、受講前は講義についていけるだろうか……という不安もありました。ですが、実際に講義を受けてみると多種多様なテーマながらどれも非常に興味深く面白いお話ばかりで、気が付けば毎週の講義後はずっと先生方から伺ったお話や講義の内容について考えてしまうほど哲学に夢中になっていました。

納富先生のギリシア哲学史の講義から、歴史や文化、その時の時代の流れなどが哲学にも大きく影響していることを学び、その後の様々な哲学者の話やその思想について、表面をなぞるだけでなくなぜそのような思想が生まれたのか、当時はどのような社会や価値観が広がっていたのかなど、より多角的に考えながら講義を受けることができたように思います。

また、自主学習でも、哲学対話を始め一人で机に向かって勉強をするだけでは得られない貴重な経験をさせていただき、大変充実した時間を過ごすことができました。

学べば学ぶほど歴史や宗教、社会や自然科学など哲学以外の様々な分野への興味も増していき、哲学の扉を開くことで広大な未知の世界の一端へ触れることができた一年だったと感じております。ここで抱いた興味や学ばせていただいたことを忘れずに、今後も自分なりの哲学を深めていきたいと思います。

最後に、素晴らしい講義をしてくださった講師の先生方、このような貴重な場を用意してくださった職員の皆様、企画委員、運営委員の皆様に心より感謝申し上げます。

正村俊之先生のこと

安 永 隆 則

今回は 10 月に 2 回東北大学名誉教授の正村俊之さんの講義の機会を得た。

正村さんは都立立川高校の同級生で、以来 60 年近い付き合いである。

最初の出会いは高校 1 年。中学時代にいなかった社会的視野と思考力を持つ卓越した人材で驚嘆した。当時は学生運動が高校まで及んでおり、学園の封鎖など劇的なできごとがあり、皆で授業そっちのけでよく議論をした。そうした中で目立つ存在だったのが正村さんだった。

正村俊之さんの父上は高名な経済学者の正村公宏さんで、よくお宅に伺い話を聞いた。平凡なサラリーマン家庭であった私からはうらやましい限りであった。

正村俊之さんはいろいろの選択があったが、大学院から社会学に進まれた。東大の高名な吉田民人先生のもと理論社会学を研究。理論社会学は記号を用いて難解なので今回の三鷹の講座でも難しいと感じた方は多かったかもしれない。

現在の正村俊之さんの関心は社会学や、哲学、歴史と多岐にわたっている。今でもよく話すのだが、例えば西洋宗教史などの理解は 1 級だと思い、いつも感心する。最近の関心は日本の神道などの分析。令和 8 年の哲学コースの講義が楽しんだ。

充実の一年間

吉 田 和 子

初回から連続5回、納富先生のギリシャ哲学史。深い内容を解りやすく講義していただきました。

その後に続く先生方、ご自身の研究分野についての熱いお話も大変参考になりました。

その中でも梶谷先生の「哲学対話の可能性」の講義が、私にはとても腑に落ちる内容でした。

「近頃は出来過ぎる子供達が多いな、無理してないかな？」と感じていた私に、「ちゃんと言えなくてもいい、ボンヤリしててもいいんだ」と、小さな安堵感を与えてもらいました。

自主学习も多才な学習生、運営委員の方々のアイデア満載で、とても楽しかったです。湯浅八郎記念館は近いのに行ったことが無く、桜の季節に再訪しようと思える場所です。戸田弥生さんのヴァイオリンも至福の時間でした。

担当の方にも大変甘やかしてもらい、毎回ワクワクの市民大学哲学コース。

これからも参加出来たら嬉しいけど、倍率は高そうですね。

皆様ありがとうございました。どうぞお元気で過ごしてくださいませ〜♪

扉の向こうで、ことばに会おう

H.W.

今回のコースはゲスト講師による多彩な講座が続き、毎回楽しみに通うことができました。内容も幅広く、知らなかった世界に触れる機会が多かった一年だったと感じています。中でも加藤みち子先生の「ことばから見る神道文化～言霊を中心に」の講義は、特に印象に残っています。

これまで神道は、天皇家など一部の人と関わるところか遠い存在というイメージを持っていました。しかし、初詣や厄除け、お宮参り、七五三、結婚式、地鎮祭などを思い浮かべてみると、実は日々の暮らしのあちこちに当たり前のように存在している文化であることに気づかされました。また、神事における祝詞・唱え詞・祓い詞の意味や、和歌の持つ力についてのお話から、「ことば」が持つ力や役割について改めて考える機会となりました。

例えば「かしこまりました」や手紙の結びに使う「かしこ」という言葉が、「かしこみ かしこみ もまおす」という表現につながるのではないかと想像し、言葉の背景にある文化の深さを感じました。これからは、少しだけ気持ちを整え、相手にも神様にも丁寧に向き合っているような気持ちになれそうです。

また、「禊ぎ」や「お礼参り」も、実は神様と人を結ぶ大切な言葉であることを知り、「祭り」や「八百万の神」についても、もっと学びたいという気持ちが自然と湧いてきました。

運営委員の皆様が中心となって行われた自主学习にも楽しく参加することができ、感謝しています。

学習生も運営委員の皆様も温かく、前向きに学びを深めている哲学コースに参加できたことを嬉しく思います。これからも楽しみながら市民大学講座で学びを続けていきたいです。

一年を終えて

渡 辺 伸 廣

今年の哲学コースのメイン講師である納富先生は、古代西洋哲学の大家であり貴重な講義を受講できました。また、ゲスト講師の先生方による、フランスのカフェの哲学や、哲学と美術、西田幾多郎、ベルクソン等にも触れて頂き、最後は野矢先生による「行為と意志」で終了しました。

また、我々がここ数年来力を入れているのが「哲学対話」です。ディベートになりがちな議論を哲学対話により、相手の話を良く聞く・質問する・受け止める・知識ではなく体験をもとに語る、等をルールに「安心・安全」の対話空間を醸成し、何を言ってもよいグループ・ディスカッションの場で、学習生同士の絆も深まり楽しい一年間となりました。

今年の自主学習は哲学対話、湯浅八郎記念館訪問、学習生による講演、シナリオ教室と多様な試みもあり、充実した一年となりました。

「信念対立を乗り越えて、本質についての共通理解を作りだし、必要に応じてそれを刷新する事。」という、哲学の本質にまた一歩近づけたかなと思っています。

企画委員、運営委員の皆様、熱いサポートをして頂いた事務局の皆様、本当にありがとうございました。また学習生の皆様と出会えた事、大変幸せに思います。いつかまた一緒にできたら幸いです。

希望の持てる社会保障と 未来の経済

講師：権 丈 善 一
(慶應義塾大学商学部教授)



水野和夫先生



権丈英子先生



伊澤知法先生



権丈善一先生



藤森克彦先生



熊野英生先生



玉木伸介先生

希望の持てる社会保障と未来の経済

講師 権 丈 善 一

私の講義に1年間お付き合いいただきありがとうございました。私としても、みなさんの「えっ、本当はそうだったのか」と驚く表情をみるのが、とても楽しい1年でした。

講義の初めから話をしてきたように、今はSNSの時代です。そしてそのSNSの世界では、人々に届けられる情報の性質に一種のバイアス(偏り)があります。SNS社会を構成しているFacebook、X、YouTubeといったプラットフォームは、人々の注意(アテンション)をどれだけ獲得できるかを競い合っており、現代は、その活動自体が支配的な資本主義、いわゆるアテンション・エコノミーが展開されています。

私たちホモサピエンスは、進化の過程で、噂話やゴシップといった好奇心を刺激する話だけでなく、誰かを批判したり断罪したりする正義感をくすぐる話、不安や恐怖を煽る陰謀論などに強く反応する性質を身につけてきました。今風に言えば、この手の話に思わずスマホをクリックする生き物でもあります。そのため、アテンション・エコノミーの下で、人々の注意を奪い合う競争が展開される社会では、こうした感情を強く刺激する情報、すなわち誹謗中傷、陰謀論、対立やルサンチマンを煽る話が支配的な社会となってしまいます。そのような情報環境の下では、「希望の持てる社会保障と未来の経済」といった、冷静な思考と長期的な視点を必要とするテーマを考えることは、至難の業となってしまいます。

「希望の持てる未来」を考えるためには、まず、みんなの耳目に届く情報の特徴を見極め、その話は、経済学者ガルブレイスが言う「通念」——人々に人気はあるが、事実とは異なる話——ではないかという視点をもって、ものを考え直すことが求められます。そうした「通念を疑う」営みには一定のタフな精神力が必要なのですが、今、その重要性が増しています。

「通念を疑おう」、これこそが、この1年を通して皆さんに最も伝えたかったことでした。世の中には無数の通念が広まっています。それら一つ一つを反駁していく時間はありませんでしたが、「通念を疑う」、その姿勢を理解してくれれば、今広まっている通念にも、これから必ず登場する新たな通念にも惑わされることなく、健全な世論が形成されていく道が拓かれるはずです。そしてそれは、みなさんの家族や、お子さん、お孫さんたちのためにも、健全な社会が選択されていくことにもつながっていきます。

とても楽しい1年間をありがとうございました。そうそう、アテンション・エコノミーの時代に抗して(笑)2月にはじめたYouTube「移動中に聴く社会保障」も引き続きよろしく!!



プロフィール



けんじょう よしかず
権丈 善一さん

1962年生まれ(福岡) 2002年4月より現職(博士(商学))

主研究領域 社会保障、経済政策、医療経済

1985年3月 慶應義塾大学商学部卒業、慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了、同博士課程修了後、慶應義塾大学商学部助手、助教授を経て2002年4月より現職(博士(商学))。1996-98年ケンブリッジ大学経済学部、2005年ケンブリッジ大学ダウニングカレッジ訪問研究員

社会保障審議会、社会保障国民会議、社会保障制度改革国民会議、社会保障制度改革推進会議委員、社会保障の教育推進に関する検討会の座長などを歴任。現在、政府税制調査会、全世代型社会保障構築会議委員

<主な著書>

『ちょっと気になる医療と介護 第3版』(2023年[初版2017])

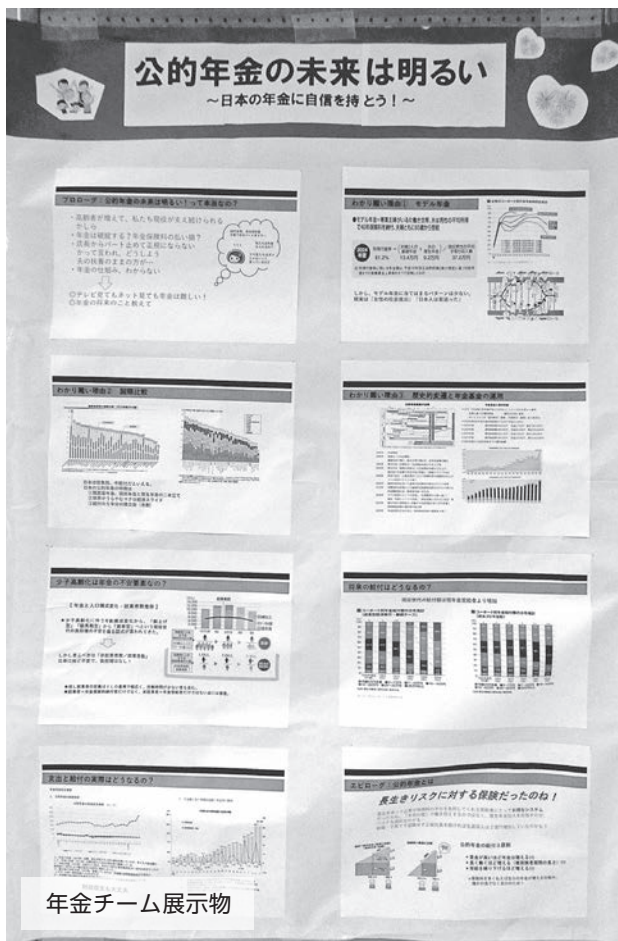
『もっと気になる社会保障』(2022)

『ちょっと気になる政策思想—社会保障と関わる経済学の系譜 第2版』(2021[初版2018])

『ちょっと気になる社会保障 V3』(2020[初版2016])

『年金、民主主義、経済学—再分配政策の政治経済学Ⅶ』(2015)

『医療介護の一体改革と財政—再分配政策の政治経済学Ⅵ』(2015)



年金チーム展示物



少子化チーム展示物



自主学習



自主学習年金チーム



自主学習少子化チーム



年金チームフェスティバルプレゼン



少子化チームフェスティバルプレゼン

●カリキュラム

回	日付	講義名 学 習 内 容	講 師
1	5月16日	開講式・オリエンテーション	自主学習
		①開校式(金曜日コースのオリエンテーション)。②企画委員から未来経済コースの概要、自主学習の説明。自主学習アンケート用紙の配布。自己紹介。	
2	5月23日	未来を読み解く政治経済学的アプローチ①	慶應大学商学部教授 権丈善一さん
		①権力ベクトルの均衡としての政策②再分配政策の政治経済学という観点③目の前の民主主義と政策④資本主義的民主主義⑤理念としての民主主義モデル⑥再分配政策としての社会保障に関する情報	
3	5月30日	労働力不足は悪くない？労働力希少社会の到来	亜細亜大学経済学部教授 権丈英子さん
		①労働力希少社会へ②なぜ賃金が上がらなかったのか③無制限労働供給社会とは④仕事待ち行列と生産性⑤高齢期雇用⑥最低賃金と経済学の考え方	
4	6月6日	未来を読み解く政治経済学的アプローチ②	権丈善一さん
		①ライフスタイルの変化で年金未来は明るい。②理論データに基づかないシステム1の働きかけに騙されるな。③1号の4割いる賃金労働者対策が課題一雇用の質を上げよ。	
5	6月13日	今後の自主学習について討議	自主学習
		①4班に分かれて未来経済コースのイメージ、今後の自主学習、フェスティバルについて討論。②4班共フェスに参加の方向。③権丈先生から届いた自主学習資料についてURLによる取得を大竹様の手配して下さる旨のお知らせ。	
6	6月20日	労働市場におけるジェンダーギャップと女性活躍	権丈英子さん
		①労働力希少社会における労働力の活用～目指すべきWLB社会。②女性労働者を取り巻く社会の変化とコーホート。③ジェンダーギャップ指数。④少子化の経済分析と子育て支援。④最低賃金。	
7	6月27日	こどもまんなか社会とは？子ども・子育て支援金制度の創設で子育て政策をどう変えるのか	こども家庭庁長官官房審議官 伊澤知法さん
		①令和5年創設の「こども家庭庁」を司令塔とし、少子化政策と、こども・子育て施策と多面的に推進する施策として、こども未来戦略「加速化プラン」を展開している。②こども・子育て支援金制度(予算：3.6兆円)	
8	7月4日	公的年金保険のあるべき姿	権丈善一さん
		①令和7年6月年金制度改正法が成立。②遺族年金は男女とも5年間の有期となった。これまでは30歳以上の女性は死ぬまで受給できた。③しかし女性の就業実態は大きく変化しておりあるべき姿であるとの説明。共働きがお得。	
9	7月11日	医療・介護政策のあるべき姿	権丈善一さん
		①今後の医療と介護の改革は、治す医療の病院完結型から治し支える医療介護としての地域完結型への移行による変化に対し、どの様に対応するかが重要な課題である。②医療提供体制や地域医療のあり方が問われることになる。	
10	9月12日	読書の感想と質疑。フェスティバルのアンケートの趣旨	自主学習
		①夏休みに読んだ経済関連図書の紹介・感想を発表。②それに対する質疑応答。③フェスティバルに関する説明とサブテーマ決定のためのアンケートの趣旨説明と依頼	
11	9月19日	インフレやデフレに関する我が国の経験と今の国民に与えている影響	大妻女子大学短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻教授 玉木伸介さん
		①物価の観点から戦後の日本経済の歩みを確認。②四半世紀にわたってデフレ脱却が政策の焦点だったがデフレ、インフレにはそれぞれ問題があり、デフレでもインフレでもない物価安定が良いと思われる。	
12	9月26日	資産価格の変動及び金融システムの不安定化に関する我が国の経験と今の国民に与えている影響	玉木伸介さん
		①銀行による錬金術の様なマネーの創造が、リーマンショック・金融危機を招来。②今の経済学では、どんな専門家をもってしても、ひとたび金融や信用が出て来ると、多くの事が分析不能。危機は何時でも起き得る。	
13	10月3日	政策思想と経済学①	権丈善一さん
		①「公的年金があてにならないって本当ですか」この疑問に応じて、非保険者割合が変化し、女性、高齢者が第2号被保険者へ移行して支え手が増加している。②社会保障、将来年金世代は今より改善される	
14	10月10日	政策思想と経済学②	権丈善一さん
		①介護保険給付費の負担割合。②医療や介護の負担については生涯の消費支出の平準化が必要。③経済政策思想の流れ・通念が支持した経済学・百年以上異端であった経済学。	
15	10月17日	フェスティバルのアンケート結果、権丈先生への質問事項	自主学習
		フェスティバルのサブテーマアンケート結果を基に2班に。公的年金班＝模造紙縦・プレゼン関戸・荻原氏。少子高齢化班＝模造紙横・プレゼン横山・林真氏。権丈先生への質問各班4つ決め発表。プレゼン資料たたき台を林氏発表。	

回	日 付	講 義 名	講 師
	学 習 内 容		
16	10月24日	企業のイノベーションと賃金・生産性	第一生命経済研究所 チーフエコノミスト 熊野英生さん
	①技術革新、経済成長の研究の話、最近の成長分野＝ネット活用、高齢者世代向け。②DXで儲かるのではなく関連事象から需要を見ること(派生需要)③賃金・生産性の話、人口減少で働き方が変わり、賃金の仕組みや成長分野も変化		
17	10月31日	単身急増社会の希望①「家族依存型福祉国家」といわれる日本の特徴や、家族のカタチの変容などを考える。	日本福祉大学福祉経営学部教授 藤森克彦さん
	①単身世帯は全体の4割で将来も増加、要因は人口増加と生涯未婚率や配偶者と死別した老親とその子供との同居率減少等。②相対的貧困率は未婚、離別高齢女性が高いが公的年金の役割に期待		
18	11月7日	生涯学習センターフェスティバル準備の前作業	自主学习
	①フェスティバルに向けて各チームごとに議論・準備。②チーム年金は「公的年金の未来は明るい」を8つのテーマで分担を決めた。③チーム少子・高齢化は「少子高齢化社会へのトライアル」というテーマ選定と議論。		
19	11月14日	生涯学習センターフェスティバル準備①	自主学习
	各チームでフェスティバルに向けての話し合い・展示物の準備。		
20	11月21日	単身急増社会の希望②新たな高齢期像や家族だけに頼らないつながり作りなどを考えていく。	藤森克彦さん
	①前回講義の内容を40分振り返り。②身寄りのない高齢者への支援の実態と課題について。③身寄りのない高齢者に向けた政府の新たな取り組み、特に居住支援について。④居住支援に関するポイントと実例紹介。		
21	11月28日	生涯学習センターフェスティバル準備② 開催日12/6(土)・12/7(日)	自主学习
	フェスティバル展示用ポスターを2班に分かれて作成した。		
22	12月12日	希望の持てる日本の未来経済①	権丈善一さん
	①年金について間違える三大間違いとは。②50年先を考えなければならなかったのは何時頃からか？③ネガティブなものに対する感応度が強い。④明るい経済未来を説く。⑤自分で考える人を育てていく。		
23	1月16日	希望の持てる日本の未来経済②	権丈善一さん
	①「通念である人口減少ペシミズムの打破」と「知恵と工夫による生産性の向上」が鍵である。②人間の本能として、近視眼バイアス、発生論の誤謬、ネガティブバイアスが阻害要因となっている。		
24	1月23日	脱成長①シンボル経済に圧倒されるリアル経済－上昇するROE(自己資本利益率)と下落する実質賃金	元法政大学教授、経済学者 水野和夫さん
	①経済は今まさに帝国(シンボル)の時代。このシンボル経済がリアル経済に変わり、世界経済のペースメーカーとなった。②ドラッカーの言うマネジメントフロンティアである。上昇するROEと下落する実質賃金が顕著になっている。		
25	1月30日	脱成長②成長経済から定常状態へ移行するための処方箋－経済のシンボル化で価格上昇する資産への課税強化	水野和夫さん
	成長経済から定常状態(停止状態)に移るに合わせて付加価値課税から資産課税を強化する事で、富の公平な分配がなされ、全ての人々が幸福な一生が送れる。		
26	2月6日	【公開講座】水平の旅、垂直の旅	写真家、登山家 石川直樹さん
	2月7日	【公開講座】輝け、日本国憲法！～平和な世界を目指して～	ジャーナリスト 伊藤千尋さん
27	2月13日	フェスティバルのプレゼン等、メイン講師への質問事項	自主学习
	①フェスティバルのプレゼンと質疑。②各4班でメイン講師の講義を振り返り質問の洗い出し。		
28	2月20日	この1年の講義を振り返って①	権丈善一さん
	①脳のシステム1とシステム2の話。②今やアテンションを捉え、エンゲージメントを稼ぐ事が最重要な時代に。③衆議院選挙も、これに気付いたグループAと、古い闘い方のグループBで明暗が分かれた。④対策はまだ分からない。		
29	2月27日	この1年の講義を振り返って②	権丈善一さん
	①通念でなく事実をAIなどを活用し、高齢者対策が社会的バランスを保つように情報と公共政策で構築することが必要であると、新聞記事や動画を基に講義。②学習生からの事前提出した質問に回答		
30	3月6日	一年間の振り返りと来年度の総合コースの説明等	自主学习
	①アンケートの説明。②1年を振り返り(全員が発表)。③あゆみ原稿について依頼。④来年度の総合コースの企画についての説明(AI手法)。⑤学習テーマ募集・分野別検討委員会の説明。⑥各コース模造紙展示⑦事務局アンケート		

今回の権丈先生の講義は『年金の未来は明るい』との内容にあったが、現実の風潮では年金不信が充満している。その理由としては政府に対する不信感、正確な情報が国民に届いていない、SNS などによる間違っ
た情報の流布等にあると思われる。

年金の未来は、①日本人が若返った（65 歳以上人口が増加しているが 65 歳を過ぎても働く人が増加）、②女性の社会進出の増加（結婚や出産後も働き続ける）、③ここ 15 年間で第 1 号被保険者や第 3 号被保険者の減少、第 2 号被保険者の増加、④マクロ経済スライドによる給付の調整（高齢人口の増加、現役世代の負担の軽減等から自動的に負担と給付のバランスをとる仕組み）、⑤年金積立金の増加（2024 年度末約 250 兆円 5 か年分）等から未来は明るいとのことであった。しかし、ここ数年急激に出生者数は減りつづけ、昨年の出生者数は約 70 万人と人口問題研究所の将来推計を大幅に下回る結果となり、これ程の少子化は将来の年金に対する不安要素ではないか。また労働者希少時代においては、今以上に女性の正規労働者として働き続ける者が増加すると思われる、働く女性が第 2 号被保険者になるため、子育て支援制度や男性の家事や育児への参加（現状では男性の育休取得は少ない）等、働き方改革を含む社会構造の改革が必要ではないか、など長期的（例えば 2050 年以降）にも『年金の未来は明るい』と社会人になりたての若い人たちに言うことが出来るのか疑問が残った。このため直観的な判断で大勢に流されるのではなく、自分自身で考える（システム 2）ためにも、学校教育の場で正確な情報を若い世代に教えていく必要があると思われた。

「衆議院議員選挙を終えて」&「公的年金」について感じたこと 今 田 繁 世

今回の衆議院議員選挙の結果を踏まえ、「未来経済」を受講している一人として感じたことを申し上げたい。最近の国政選挙では多くの野党が消費税の減税を打ち出すのは今や、恒例行事となっている。

ただ、今回は違う。与党である自民党や日本維新の会までも「飲食料品の消費税率 2 年間ゼロ」を掲げた。与党が消費税の減税を公約に掲げたのは初めてであり、「消費減税は 2026 年度内を目指したい」と高市総理は言い切った。そして、すぐにでも国会審議を始めなければならないというわけである。

ここで大切なことは減税の財源の問題である。選挙中の高市総理はそのための財源については触れていない。短期間という期間の短さもあるが、ここは根拠ある財源をしっかりと示してもらいたかったと私は思う。

そして、このままでは今後も選挙のたびに「減税」が争点になるだろう。また、増え続ける社会保障費はさらに増え、もともと足りない税収はさらに圧縮され、赤字は膨らむ。与野党がこぞって提案する減税は私から見れば、こっけいである。

それではどう財源を考えればよいのかと言えば、「収入」と「支出」を考えれば良い。

なけなしの財源ならば政治（政治家）は、いかに必要とされる政策に効率的につぎ込むかで知恵を競い合うべきではないか、と私はそう思う。

また、今回、権丈先生は、「公的年金の未来は明るい」と述べておられる。年金など社会保障にとって大切な指標は「年齢ではなく、就業者数と非就業者数の比率であり、就業者一人が支える非就業者の比率は戦後ほぼ変わらず、一対一の肩車型に近く、将来もあまり変わらない見込みである」そうだ。それよりも大切なことは「高齢者や女性が働きやすい環境を整えることが何よりである」とし、図表をもって示し、私自身も成程と納得のいくものであった。

今後、未来ある世代にツケを残さないためにはどうあるべきかをずっと考えていきたい。

『未来経済』の受講を終えて

H.U.

市民大学にはじめて参加しました。「未来経済」を受講。毎週毎週、充実した時間を持つことができ、とても満足でした。講座編成に携わっていただいた、事務局、講師、委員、さらには参加メンバー各位に、厚く御礼申し上げます。

講師の先生方はみな、各テーマを熱心に、ビジュアル資料も多種を使用し、興味深く講義してくださいました。(視力が弱っていることもあり、文字の細かさには少々閉口したが)

それなのに、それなのに、情無い。毎時間、気分高揚して受講していたにもかかわらず、一年経った今、きちんと頭に残っているのは、メイン講師(権丈先生)の「年金」「社会保障」絡みの内容だけなのだ。受講目録を見直しても、他の先生方の講義内容を、満足には思い出せないでいる。自分の衰えを感じ辛いものがある。「未来経済」が、時間的(何年先……)、空間的(世界、日本……)、分野的に漠としていたこともあってか、広がりや深さに、付いていけていなかったのだろう。

高期高齢者の自分には、デジタル化、AI、アテンションエコノミー……と、まったく新しい次元に入った現代からの、さらなる先、未来の経済は、残念だが、想像・予見できないままにいる。

日本の年金に自信を持とう

荻原 浩二

暗い話題ばかりの世の中。少しでも明るいものは無いのかという思いから、このコースは作られた。年金制度は破綻する、若者にとって年金は払い損、年金の未来は暗いというのが社会的通念だったが、メイン講師の権丈先生は「公的年金の未来は明るい」と、何年も前から提唱し続けてきた。年金制度に詳しい人、知識のある人にとっては、受け入れ難い講義だったかもしれない。しかし、最後まで講義に出席した人は、理解も深まり、納得感の高い充実した講義になったのではないだろうか。

日本の年金制度は欧米諸国と比べ、かなり優秀だ。積立金(余剰金)は断トツ、運用も大きな成果をあげている。若者世代のためのマクロ経済スライド制度もある。これは、世界で日本だけの制度である。

このコースの学習生は、現役を退いた人が大部分で、年金受給者が半数を占める。講義は若い世代に参加してほしかった内容だったが、曜日時間の設定を考えれば仕方ないことだ。若い世代にどうやって「日本の公的年金の未来は明るい」ということを伝えたいのか。メディアもうまく伝えられていないので、かなり難しいことだ。しかし、うまく伝えることが出来たら、若い世代の人も希望を持って生きていくことが出来るのではないだろうか。大げさかもしれないが、使命感を感じさせられた講義であった。

経済コースを受講して

小野 浩美

経済の問題について今まで、「生産力の発展 自由主義経済の中では少数の富裕層と大多数の貧しい人々が存在する。社会正義の立場から考えて、この経済格差の問題を無くし、より平等に近い社会に向けてどうしていくのかが問われている、とこれまで考えてきた。今回の講義は、今の社会で政府によって行われている社会制度一年金、医療保険、生活保護が現在進みつつある少子・高齢化社会の中で、今後どのように見通せるかを考えていく内容だった。今まで年金や医療保険についてあるのが当たり前と考え、深く考えようとしてこなかった。権丈先生の話はとても勉強になったが、よく理解できない面も多々あった。将来社会保障の問題をどのようにしていかなければならないのか、今回学んだ内容を基礎にして、今後自分の頭で考えていかなければならないことを痛感している。

1 年間の講義を終えて

小 口 喜一郎

熱心かつ丁寧にご指導頂いた権丈先生及び講師の方々、企画運営にご苦勞頂いたスタッフ及び委員、多くの示唆・刺激を与えてくれた受講生の方々に感謝する。以下一年間の感想と若干の提案を記す。

年金問題でデマに騙されやすい理由は、権丈先生ご指摘の人間の認知バイアスも大きな要因であると思うが、それ以前に私を含め国民の年金制度への関心の低さ、知識不足があると思う。

私見であるが多くの人が社会保障について関心を寄せるのは、自身の負担や給付を受ける際の金額等個人的な問題に留まり、制度の中身や将来の形までは頭が回らないのではないか。

とは言え今のような状態が今後も続くことは望ましい事ではない。

なぜなら今後とも我々は重要な社会政策の判断を迫られることは必至で民主主義の基幹をなす選挙においても過日のような消費税、社会保険料に関し無責任な公約を掲げる政党の見極めは大切。

現状改善の道は？（＝正しい情報を数多く発信）

○小中高等学校教育の拡充

- ・ 社会保障の前提である公助の必要性・その方法として再分配政策
- ・ 公平性（世代間・同世代）の原則
- ・ 給付（権利）と負担（義務）の一体性

○国民向け教育の充実

- ・ 国家財政の現状及び課題

日本は給付レベルに比し負担割合が少ない（結果赤字財政）

財源と使途への理解（消費税が社会保障の財源である等）

（本年共通一次試験（大学入学共通テスト）に取り上げられたのは前進）

- ・ 役所による制度面の現状課題、制度の周知不足

コーホート別等専門用語を避けた簡単な制度解説パンフレットがあれば良い

- ・ マスコミの適切な解説

SNS・新聞・雑誌等マスコミでの紹介（権丈先生達の活動）

国民教育の大事な機会である選挙時のニュース解説

ありがとう年金

M.K.

経済学の学び直しという気持ちで受講しました。メイン講師権丈先生が社会保障の泰斗でおられ社会保障がメインでの大変興味深い内容で、勉強になりました。講師の先生方、運営委員他皆さんに心から感謝申し上げます。

権丈先生の熱い講義には圧倒されました。先生の著書やメディアインタビューで述べられていることは、なるほどと思うものでした。そのなかで特に印象に残っているのは、現役世代の年金に対する不安不満についてです。年金受給に関して若い世代の不満には、保険料を負担していても今の高齢者が受給している程には将来受給できないのではというものがあります。これは誤解だと理解できました。もう一つは保険料負担が大きく、それが若い人たちの可処分所得を減らして、今買い物をしたいということ、したいことができないということの不満です。その感情は分からなくはないのですが、社会保険料を払うことで今の親の介護や、生活が公的に扶助され、子世代の自分たちが負う負担が軽減されているということを忘れていましての指摘は納得できました。元々年金問題を世代間対立という視点で見るのはおかしいと思っています。世代間対立と言いますが、この対立はあかの他人同士の対立ではなく、今の自分と明日の自分が対置されているのです。今の利を求めれば、自分の未来の利が減ることになるわけです。社会保障は社会全体の問題というより、自分自身の問題と考えなければならないことと思いました。

最後に日本の社会保障特に年金に関して人々の誤解があるとの度々の指摘ですが、何故そのような誤解があるのか、その点の問題をもう少し踏み込んで論じて頂きたかったと思いました。

受講二年目の所感

C.C.

他コースの講義も聴きたかった、そして他の方々にも社会保障の講義を聴いてほしかった。

「専攻科目」以外聴講できない一択制で、一年間当選者だけが無料で質の高い講義を聴講できる。目的、役割と状況を考慮するとゼミナール制（しかも長期）は適切だろうか。

著名講師の講義を市が税金により無料で提供するなら、多様なテーマを広く開講する形が理にかなう。専攻科目（コース）をなくし一択強制をやめる、全講義を公開講座とし授業時間を重複させない。分野とその数は柔軟に再考する。丸一年間の落選者を出し、一回ごとなら聴講に応募できる学習意欲のある人を最初から部外者にしてしまう現行型は無料市民講座としては後退的だ。様々な人達が幅広い勉強をする環境こそ用意すべきなのに、現行では自由と多様性の価値が軽んじられていると感じる。

市民力の醸成を目指すなら、未来志向は必然だ。進取の精神と自利他利の心がそこには必須と考える。

二回の公開講座では新たな視点を得た。良いものは分野を超えて心に響く。

都合のつく人が単発で参加できる公開講座は教育機会の平等の観点でも有効で、知識の普及・共有に適している。自主グループの方々が企画実現してくださる単発講義も素晴らしく、知人・家人にも声をかけている。この場を借り感謝をお伝えしたい。

ある単発講義に若者を連れて行った帰路「難しかったけど今日は行ってよかった。」と言っていた。社会の一員であるという意識の希薄感や停滞感を持つ時もある。別の観点を得る・視野が広がる体験には好転させる力があると思う。

二回目の受講。初回と変わらぬ所感をここに記した。

今回も優しい方々に助けられ運営委員の中にも加えていただいた。多くの方々のおかげがあるから勉強できた。皆様への敬意と心からの感謝を申し上げる。

女性と年金

瀬 賀 登茂枝

うかうか 30、きよろきよ 40 を疾うに過ぎ、今回の権丈講師の授業を受けるまで、私は年金問題をスルーしてきていた。

改めて「女性と年金」問題を考えてみたい。

専業主婦（被扶養配偶者）のための第3号被保険者制度は、1985年つまり男女雇用機会均等法と同じ年に制定された。

つまり女性に「働く道」を開きつつ、働かない（働けない）女性にも年金を確保するという省庁統合前の労働行政と厚生行政が“抱き合わせ・両にらみ政策”を行った結果の併存かと思われる。

男性が40年働き、女性は40年専業主婦であることを温存しながら、女性の就労拡大を図るという矛盾した政策だったという事に今回初めて気が付いた。

均等法で男女差別をなくすことを目的としながら、「働かない選択」をした女性にも保険料を払わずに、基礎年金を出すようにして、家庭内ケア労働（家事・育児・介護等）を社会的に評価した形、すなわち性別役割分業を残して、今日に至った。

女性は「働いてもいいし、働かなくてもいい」という矛盾を別方向から処理をする。これが、1985年当時の日本の「家族国家戦略」であったと思われる。

あれから40年。女性の生き方は様変わりし、夫婦単位の年金モデルは時代にあわず、女性の年金問題は、新たなステージに入った。第3号の制度見直しが検討されているようだが、高齢者の貧困率は、年金弱者の女性の方が高いとのことである。

男性も女性も共に安心して暮らせる社会保障、年金制度への大幅な見直し、すなわち税方式による個人単位の「最低保障年金」の制度設計が急務と思われる。

未来経済コースを受講して

関 戸 康 之

今回の未来経済コースは、2年目の市民大学総合コースの受講で有り、最初の企画委員として関与した講座でも有ります。企画段階での特徴としては、①サブテーマを2コマ単位としてテーマの深掘りと質疑応答の充実を期待した事、更に②ゲスト講師がメイン講師の推薦者が中心となった事で「社会保障」がゲスト講師による講義も含め中心テーマとなった事でした。メイン講師の権丈先生の講義は「(厚生)年金」「社会保障」に関して自分の「通念」を覆すものでしたが、特に印象に残った内容は、

- (1) 年金は保険で有る（故に支払額と受取額の損得で判断してはいけない）。
- (2) (厚生)年金は自分で作るもの（「支え手」と言う言葉は好ましくない）。
- (3) 日本人は若返った（理由を問わず「病気＝自己責任」論を避ける）。
- (4) 日本の医療は民間が主体、故に高齢化社会に簡単には対応出来ない。
- (5) 日本では政府が所得を完全に把握した事は無い（故に給付付き税額控除は困難。他国が出来るのは地政学的理由）。

でした。また今回は運営委員も担当出来ましたが、フェスティバル模造紙掲示をパワーポイントで作成、スライドをチーム年金にて議論し各自1枚ずつ分担して作成出来た事は大きな成果でした。フェスティバル模造紙は総合コースの「卒論」と改めて感じた次第です。

受講感想

S.N.

はじめに、このコースの立案、人選、そして各先生方の講演受諾へと遂げられた企画委員、スタッフの皆様に感謝申し上げます。ともすれば悲観的な将来像を説く昨今のメディア情報に抗して、「希望の持てる社会保障と未来経済」の趣旨に沿った先生方のポジティブなご講演に、目から鱗の一年でした。よくぞこのメニューを！との感心と、関係の皆様のご造詣の深さに感嘆です。感謝です。

さて、権丈先生は、年金という切り口から、公然のウソと人々に伝わらない真実について、データに基づく事例で説明されました。更に、背後には年金に留まらず、直感的な不安要素に絆される人間の本能（システム1）と、これを意図的に利用する SNS やマスメディア又、政治家や発信者のエコーチェンバー、フィルターバブル、扇動などが相乗して、今世界中の多岐の場面で分断や対立や混乱を増幅させている！と、展開されました。

では我々はどう対処したらよいのか？まず通念を一つずつ疑って！とのこと。確かに確かです。でも、不勉強な凡人の私がそれを装い発言した途端、単なる皮肉屋臍曲がりの偏屈爺さんでしょう。至極難しく思います。

年金に立ち戻って、大体この歳で社会保障を勉強してどうよ？今や後の祭り！後悔？でも振り返って！あなたの若いとき、現役の真ただ中で、老後の年金の仕組みの理解や試算をしましたか？興味さえなかったでしょう！なぜ、もっと教育や関心を向ける場がなかったのか！最近では投資についての早期教育まで導入されているとのことですが、それ以前に自分を守ろうとした知見こそ義務教育やたまた入試必須問題くらいに勉強せざるを得ない扱いをされるべきとの思いに至りました。

結局他力本願ですみません。

システム2を刺激されて

J.N.

今年度は初めて経済を学ばせてもらった。当初からハードルが高いと覚悟していたがメイン講師の権丈先生の講義は頭も耳も目もフル稼働しても難しく困惑した。しかし今回が総合コースの4度目の受講ということもあり「慌てなくても一年かけて学べば大丈夫」と思うことができた。幸い今年度は社会保障に焦点が当てられ、分野が多岐に及ぶ事がなく、深く学べるカリキュラムになっていた。大事なことは繰り返し述べられ、一年が終わる頃には自分なりに理解を深める事が出来たと思う。

社会保障とは国だからこそ可能な所得の再分配であり、防貧機能を備えたセーフティーネット。富める者から必要な人への垂直方向な分配だけでなく、人生の中で起こる不可避な生活リスクに備えるリスク回避や、自分の老後への時間的な再分配保険である。「他者を支える」というよりも「自分の為」と理解すべきだろう。若者が『増加した老人を支えている』という社会の分断を生む考え方は正しくない。医療費の圧迫も高齢化ではなく医療の高度化にあった。税金としてではなく社会保障としてのみに使うことができる制度の大切さも学んだ。

先生が初回から繰り返していた一つにシステム1・システム2がある。意思決定プロセスのことで、システム1は直感的でありシステム2は論理的な思考回路。近年はエビデンスに基づいた正しい真実が伝わらない【post-truth】と言われる時代。システム1に訴える事が事実より広く拡散される。正しい知識を身に付けシステム2で物事を判断するためにも生涯に渡る学びが必要だと実感した一年であった。そして学びの場が三鷹にあり、それが企画委員や運営委員・事務局の皆さんによって脈々と引き継がれてきたことに多くの努力を感じた。良質な学びの場に感謝します。

日本の社会保障の再認識

T.H.

これまでの経済講座は、「失われた 30 年」といった日本経済の停滞や、その要因解析に重点を置くものが大半であった。少子高齢化が進む中、未来に対して希望を持つことは難しいという先入観を抱きがちだが、今回受講した慶應義塾大学の榎丈善一先生による講義は、そうした悲観論を覆す非常に前向きなものであった。日本の社会保障制度が持つ利点や合理性を、膨大なデータに基づき論理的に説く先生の解説に、まさに「目から鱗が落ちる」思いがした。

いわゆるオールドメディアは、年金制度等について「若者が高齢者を支える肩車型の構図」といったネガティブな側面を強調しがちである。しかし、客観的な講義資料や先生の著書を拝読すると、事実に基づいた制度の真の姿が裏付けられており、正しい情報を主体的に捉える重要性を痛感した。

年末に開催されたフェスティバルでは、学んだ成果を還元すべく、グループメンバーと共に「少子高齢化社会のチャレンジ」と題した展示やプレゼンテーションを作成した。人口減少は避けられない現実だが、低成長下でも我々の生活水準は向上しており、女性の社会進出や地位向上も着実に進んでいる。こうした事実を来場者の方々と共有し、共に問題提起を行えたことに大きな達成感を覚えた。

現在の生活水準を維持するためには、年率 1 % 程度の経済成長が不可欠である。知恵と工夫によるイノベーションを育む社会システムをいかに維持・発展させていくか。今回の学びを礎に、今後も日本の未来経済を注視していきたい。

未来経済を受講して

T.M.

今回は 2 回目の経済コースの受講でしたが、「未来経済」というタイトルに興味を持ち、本コースを受講しました。

講義内容は遠い未来ではなく、身近な年金、医療、介護など社会保障を中心としたものでしたが、社会保障に関するこれまでの誤った見方が改まり、新しい知識を得ることができました。また、これまでの常識や通念を疑って考えるアプローチの重要性を学ぶことができました。

自主学習のフェスティバル展示物の資料作成では、年金関連のグループに属し、以前から疑問に思っていた年金財政について調べました。その結果、近年は年金の収入と支出がほぼ均衡し約 50 兆円規模で推移していること、また年金積立金が約 300 兆円確保されていることが分かりました。しかし今後は少子高齢化の進行により支出が収入を上回る可能性も懸念されます。

講義で特に印象に残ったキーワードは、「レントシーキング」「投票者の合理的無知」「システム 1 とシステム 2 の思考モード」、そして「アテンションエコノミー」です。これらは、常識とされていることも疑いながら考えることの大切さを気づかせてくれました。

また、人口減少を単なる負のイメージではなく、労働力希少社会への変化として捉える視点も学びました。低賃金では人を雇えなくなり、高い賃金を支払える企業が生き残ることで、結果として労働生産性の向上につながるという考え方です。

本講義で学んだ知識を生かし、今後の経済動向を注視しながら、さらに学びを深めていきたいと思います。最後に、本コースを支えてくださった先生方および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

漠然と知っていることを正確な知識に

S.H.

今年初めて経済コースに参加させていただきました。今年を中心テーマは社会保障で特に年金制度を大きく取り上げての授業でした。

講義の回数を重ねるにつれ、メイン講師の権丈先生の論旨明快なご説明でこれまで新聞や雑誌の報道でイメージしていた年金制度の在り方や将来像が必ずしも正しくないということに気づかされ、その理由をイメージではなく制度の正しい理解と客観的な統計等により理解することが出来たと思います。疑問があればどんどん質問できる自由な雰囲気の中でこれまで漠然とした不安を抱いていた年金制度について制度の骨格や今度の方向性などをきちんと理解できたことは知識として貴重ですし、そのような講義の機会に参加できたことが良かったです。また、講師の先生方への質問に関しては、生徒はそれぞれ異なる社会経験を経た受講生なので色々な角度・視点からの質問があり、聞いていて興味ある質疑応答がなされたことも良かったと思います。

自主学習が10回設定されていますが、それについても委員の方々の工夫により楽しく興味深い体験でした。関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

希望の持てる社会保障と未来経済の学び

H.M.

社会保障（所得の再分配制度）とは市場の所得配分「貢献原則」を家計の必要に応じた「基礎的消費部分については必要原則」の方向に修正する。また、社会保障の三つの機能は生涯の①安心のための「生活安定・向上」②保険料の徴収と基礎的消費部分の平等消費による「所得再分配」と③全消費者の需要による景気変動の緩和・経済成長の支えの「経済安定化」です。

老後の支えの年金は将来の退職世代の「将来の生産物に対する請求権」を事前に約束しておく公的な取り決めで貯蓄ではない。賦課方式と積立方式のいずれの場合でも生産物（商品・サービス）は積立不可能なので高齢者への生産物の分配手段はその年々に現役世代が生み出した付加価値を現役世代と高齢者で分け合う構造では少子高齢化で現役世代の負担が増加する。

社会保障の国庫負担の財源は消費税です。消費税そのものは逆進性ですが、純負担は（支払消費税額－社会保障の給付額）低所得の場合は負、高所得の場合は正となり逆進性にはならない。現在の給付先行型福祉国家日本の問題は制度に投入が義務付けられている国庫負担分の税財源を調達できず国債を発行している。社会保障の持続可能の為にPBを守り、もし消費税増税分5%としても①給付改善に1%、そして残りは②高齢化による自然増③基礎年金国庫負担1/2の確保④消費税増に伴って生じる国・地方の負担分⑤社会保障から生じている赤字削減充当に各1%と試算されている。その為にも不都合な事実を分かり易く国民に公表される必要がある。

また、子供の頃から社会と自分の関わりを考える習慣も必要である。先生推奨の「あなた自身の社会 スウェーデンの中学教科書」の様に、中学生時代に自身の生涯と社会制度（データに基づいた）の関係をグループ討論ができる環境を整えたい。

未来経済を受講して

R.M.

少子高齢化の時代となり将来年金がもらえなくなるのではとの疑問がわいています。日本人は健康寿命が長くなり高齢になっても働けるのではないかと。現在一律に定年制を設けているが働ける人は定年後も働けるシステムを設け、女性においては出産子育てのために退職し、子育て後に働けるシステムを設け、また働いているときは必ず厚生年金に加入するシステムにする。働く年数が増えることにより厚生年金が増え退職後も年金で生活できるようにする。社会保険の機能には、高所得者から低所得者への垂直的再配分や生活リスクに直面していない人から直面してしまった人への保険的再配分、人生において必要でない時期から必要な時期への時間的再配分があります。能力に応じて負担し必要に応じて給付する。という社会保険の原則の結果が生じます。若いころから保険料を払うことで高齢期に起こる収入の途絶や支出の膨張に対処できる。社会保険は生涯における消費の平準化の役割を果たし暮らしの安心を支える。細分化が消費の拡大だけでなく、教育機会の平等や人的投資の増加をもたらす長期的に成長にプラスになるという。以上のことを学びました。先生ありがとうございました。今後の人生に役立てたいと思います。

未来経済講座を受講して

K.M.

自分の無知不勉強は承知しているが、一言で言うなら、これまでとは物の見方がガラリと変わるくらいの大きな衝撃を受ける知見も多かった。メイン講師の権丈先生のみならず、第一線の講師陣から、しばしばメディアも（正しく）報道していないような内容についても、直にお話を伺えたことは、非常に貴重な体験だったと感じる。又、質問や自主学習などを通して、様々な経歴や背景を持つ熱心な学習生の方々のご意見やお話を伺えたこともとても刺激になり、講座の大きな魅力であったと思う。

全て書き切れないのが残念だが、敢えて具体的な社会保障の話以外で印象の強かった事柄を、一部挙げてみる。

- 広く受け入れられている最もらしい話が必ずしも正しいとは限らない：「通念」を疑え。通念に支配された政治の危うさ。
- 「世間が信じたい物語」が、歪ませる社会保障：自分とは関係ない事と人々が思っている限り、そもそも社会保障は論じられない。
- 主に SNS などの発達により、感情的な直感に働きかける脳のシステム 1 のみで、人々は行動してしまうようになっている。本来、数字や理性的なことを司るシステム 2 をこそ稼働して、冷静に真実を見つけて判断すべきような、大切な事柄についてさえも。
- SNS 等を通じたアテンションエコノミーによる政治の変質。
- 政治家たちの目標は、「選挙に勝つこと」になり、国民にとって良い事とは関係ない。
- ポスト真実政治：今や「皆が信じたいこと」を言わないと選挙に勝てない時代に。事実と異なる状況で物事が進んで行く。
- これらへの対策はまだ見つかっていない。

最後に、講師、担当職員、企画・運営委員の皆様にご感謝申し上げますと共に、将来的に市民大学講座が、受講を希望する全ての人たちに開かれる方式（例えば、全て公開講座形式とか？）への検討も望む。

“Kenjoh World” との貴重な出会いと有意義な学び

森 井 紀 明

今回の経済コースは、メイン講師の権丈善一先生による“Kenjoh World”という世界観での展開でした。社会保障を通しての未来経済の展望が主題であり、先ず、世の中で流布されている事とは異なり、年金の将来が明るいことを軸に、様々な事実やデータで裏付けながら学ぶことができ、他の講義では得られない貴重な機会となりました。自主学習では、フェスティバル展示物作成を通じて、学習生の皆さんと議論や作業分担を行いながら、学びを再構成・可視化して発表するという成果もありました。更には、講義内容を疑って調べてみる試みも行い、先生にもご意見を伺えて、理解を深めることができました。

第二に、特徴的だったのは、事実が正しく人々に伝わらない背景を掘り下げた講義であり、人類の進化の過程にその源流を探究したり、通念、システムⅠとシステムⅡ、ポストツルース政治、アテンションエコノミーなどの概念から分析したり、現在のネット社会の政治情勢にも想いを致しながら、問題意識や視座を拓けられたことが有意義でした。

最後に、講義手法として、生成AIのNotebookLM活用が衝撃的であり、生成された音声対話やイラスト動画により、周囲の人々にも伝わりやすく噛み砕いた説明にも触れることができ、大いに刺激を受け、仕事への応用も実践できました。

権丈先生はもちろん、今回の充実した講座を企画・設営いただいた事務局及び企画委員の皆さん、自主学習を段取り良くリードしていただいた運営委員の皆さん、関係者のご尽力に心から感謝申し上げます。

1 年を振り返って

K.Y.

今年のコースは、従来のコースに比べユニークなものになっていた。メイン講師の慶應義塾大学権丈善一教授（専門：社会保障）が10回の講義を担当し、その他の講義も多くを権丈先生が提案したとのことで、権丈先生手作りのコース内容になっていた点である。社会保障の中でも、年金制度に多くの時間を費やし、「年金制度は破綻するのではないか?」「若い世代は老後もらえるのか?」などの声が聞かれるが、しっかりとしたデータ・運用実態、制度の仕組みなどに基づいていない声は、「通念」であると主張された。それ以外の講義では、社会保障関連で労働力不足・労働市場、子育て支援、高齢者問題など、それ以外の経済分野関連では物価変動の影響、賃金と生産性、経済のトレンドと処方箋などのテーマ設定となっており、これに自主学習を加えたコース構成になっている。

一方、教室の外を見ると、国内では、参院選、首相交代、衆院選が行われ、高市政権の新しい政策が注目される。国民の生活に大きく関連する社会保障は、国の財政でも大きな領域を占めるので、どのような議論が展開され、高市政権がどのようなかじ取りをするのかが注目される。

権丈先生の講義の早い段階で、4つの「必ず理解しておくべきベーシックなこと」として、システム1とシステム2、レントシーキング、アテンションエコノミーを挙げられた。また経済学の系譜として、「通念が支配した経済学」と「100年以上異端であった経済学」の二つの流れがあったのを示されたが、ものごとの理解に参考になる。

この1年間、企画委員・運営委員の熱心な取り組み、事務局の気を配ったサポートなど授業を支えていただいた関係の方々に感謝します。

アートを愉しむ!!

～魅力、多様性、可能性～

講師：新 見 隆
(武蔵野美術大学教授・同美術館図書館長)



芸術バカの芸術バカ話を皆さん熱心に聞いてくれた ——三鷹の市民講座をやって

講師 新見 隆

非常に熱心な幹事をやってくださった岡田さんや、事務方の大中原さんに大変、お世話になって、やっと1年を終える様子で、ホッとしている。

まあまず驚いたのは、皆さん参加者の向学心、面白がり方、熱心・勤勉？さだ。あんまり、他でも聞いたことが無い。

都下、東村山のサナトリウム村に静かに暮らしていて、大都会の三鷹も知らないし、かつて幾度かやった事もある市民講座的なものとも、えらく違うような依頼を受けて、吃驚した。年間を通して勉強しながら、しかも市民の自主運営であるという。

どういう訳か教員をやっているが、人にモノを習うのが大嫌い、人の話を聞くのも大嫌いで、社会・世間の事は何も知らない、美術・芸術バカで、しかも、現場の実践、手で触って、実物を見て身体で学んだ、生涯学芸員だ。だから、大学では、「僕は道場で剣道習った事は無いから、竹刀の使い方は知らないし教えられないんだよ。だけど、真剣で人を斬る喧嘩殺法なら教えるから、ココロしておけよ。」と、学生に嘯っている次第。むろん比喻だが、美術・芸術のプロ育成道場である。

だから、展覧会の企画も、書いた本も、全部、頭で考えたことは無い、全部、自分の身体の生涯半世紀の体験からのものだ。

伝えようと思ったのは、「好きになれば、好きであれば、美術・芸術は、どんどん、どんどん、日増しに深く、楽しくなってゆく、面白くなってゆく」、たったこれだけの事だ。素人、プロの境は、そこには、無い。面白く無いのは、あなた自身が真剣に好きじゃないからだ。

だが、参加者は、そんな事は、もうとっくに知っていたようで、二重に驚いた。

教えることは、学ぶ、ことだ。その喜びを、再体験させてもらった。

いろいろ、皆さん、ありがとう。また、会う日まで。

プロフィール



広島県尾道市生まれ。慶應義塾大学文学部フランス文学科卒。
元セゾン美術館学芸員。元大分県立美術館館長。1999年より、武蔵野美術大学教授。
イサム・ノグチ庭園美術館学芸顧問。慶應義塾大学アート・センター訪問所員。キュレーター、美術史・デザイン史家。
作家として、個展もおこない、人形・箱作品、食のドローイングなどを制作。
「ウィーン工房1903-1932 —モダニズムの装飾的精神」展(パナソニック汐留美術館)の監修で、第7回西洋美術振興財団「学術賞」を受賞。
＜主な著書＞
『モダニズムの建築・庭園をめぐる断章』(淡交社)
『キュレーターの極上芸術案内』(武蔵野美術大学出版局)
『イサム・ノグチ 庭の芸術への旅』(武蔵野美術大学出版局)
『青春20世紀美術講座 激動の世紀が生んだ冒険をめぐる15のレッスン』(東京美術)
『時を超える美術 グローカル・アートの旅』(光文社新書)、『共感覚への旅—モダン・現代編』(アートダイバー)

にいみ りゅう
新見 隆さん



●カリキュラム

回	日付	講義名 学 習 内 容	講 師
1	5月17日	開講式・オリエンテーション	自主学習
		土曜日のアートコース、戦後80年コース合同の開講式(ホール)に続いて教室に移動。アートコースの1年について概要説明があり、一人ひとりが自己紹介をした。運営委員7名を選出した。	
2	5月24日	アートは日常に在る～ iPhoneの元祖がミュージアムだ！	武蔵野美術大学教授・同美術館図書館長 新見隆さん①
		美術作品は自然を味わい、身体をリラックスして鑑賞すると体にしみ込んでくる。絵は簡単に考え深く感じるもの。「万物照応」という考え方がある。学芸員が膨大な美術品を整理整頓し、しかるべきところに展示する様は携帯に似ている。	
3	5月31日	古代エジプト美術の見方・楽しみ方	美術ジャーナリスト 斎藤陽一さん
		古代エジプト人の死生観、信仰、生活と結びついている。「生きている今が幸せ」と身体を保存して、再生を信じた。二重三重の備えとして像を制作した。古代エジプト文明と王の理想の姿像であり、3千年もの間、同じ形を保ち続けた。	
4	6月7日	ヴァイオリン独奏	ヴァイオリニスト 戸田弥生さん
		ヴァイオリン独奏では、クライスラーからシューベルトなど全6曲が披露され、サラサーテのカルメン幻想曲でしめていただいた。第2部では、先生のこれまでの歩みと恩師への想い、演奏会などについて語っていただいた。	
5	6月14日	西洋美術を楽しむ～近代の作家を中心に	東京ステーションギャラリー館長 富田草さん
		1.19世紀から20世紀前半の展開(1)近代のはじまりフランス革命(2)王侯貴族からブルジョアへ(3)理想から市民の現実へ 2.19世紀末から20世紀への変化(1)サロンの弱体化と独立展(2)ポスト印象派(3)造形性、人間の内面への関心	
6	6月21日	一緒に学ぶ仲間を知ろう！	自主学習
		イントロダクション、自己紹介、アンケート結果の報告。自主学習の全体像および年間予定の説明、話し合いのコツの6色プリントの説明、4グループに分かれて講義の感想および自主学習と12月のフェスティバルについて話し合う。	
7	6月28日	OPAM (大分県立美術館)誕生物語～自分だけのミュージアム	新見隆さん②
		新見先生が開館に携わった大分県立美術館に関する講義。成功の要因は大分の経済的な繁栄、意識の高い女性が多い等。コンセプトは「世界に出会う、五感で楽しむ」。大分関連の作品展示、建築、カフェの設置。紹介ビデオを視聴。	
8	7月5日	バンクシーとは何者か？～ストリートアートの現在	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授 毛利嘉孝さん
		バンクシーは公共の場にステンシルで短時間に描く。非合法のため身元を明かさず、チームでの活動と考えられる。作品は残ることが少なく、ネットで広まった。東京のネズミの絵やオークションで裁断された絵などのエピソードも紹介。	
9	7月12日	フェスティバルの企画について	自主学習
		12月のフェスティバルに向けて4つのプロジェクトごとにグループディスカッションをして実現可能性について検討。4つとも実施する方向で準備を始めることとし、各プロジェクトのメンバーも決めた。	
10	9月13日	アートと地域社会のこれから	立教大学社会学部教授 小泉元宏さん
		芸術の誕生から現在に至る社会的位置づけの変遷をたどった。誰もが文化生産(メディア)を所有・共有する現代において、市民参加によるアート活動の高まりやその重要性および今後の展望について分かりやすく解説していただいた。	
11	9月20日	武蔵野美術大学(ムサビ)美術館の見学 = 1 ページ目の写真★	自主学習
		メイン講師の新見先生が館長を務める武蔵野美術大学の美術館を見学した。新見先生は不在だったが、洋画の赤塚祐二教授と彫刻の伊藤誠教授の退官記念展を学芸員の案内で2時間、たっぷり見て回り、有意義な自主学習となった。	
12	9月27日	知っている？世界遺産のこと	フリーアナウンサー／世界遺産アカデミー認定講師 山口みのりさん
		世界遺産とは人類の守るべき平和の理念である。戦争、自然破壊、貧困、各国の様々な事情はあれど、協力して守り、後世に残していくべき人類共通の財産と言える。クイズを交えて知られざる世界遺産の魅力を紹介。	
13	10月4日	デザイン①	女子美術大学教授／アートディレクター 澁谷克彦さん①
		澁谷先生のアートディレクターとしての豊富な経験をもとに、多彩な角度からデザインとは何かというお話をうかがった。商業デザインの歴史を紐解くため、アーツ・アンド・クラフツやアールヌーボーについても学んだ。	
14	10月11日	アートと対話し・感じ・ひらく VTS・SAVからArtBrutへ	NPOクリエイティブライフデザイン 林賢さん
		VTS、SAVの体験をルール説明の後に行った。モネの日傘の女の絵を見て客観的、主観的に話す。SAVの体験では、説明側と想像する側でそれぞれ2作品を体験。アールブリュットの今後の展開についても学んだ。	
15	10月18日	アニメーションとアート①～表現	東映アニメーション音楽出版(株)取締役 佐渡和隆さん①
		日本のアニメ制作は、緻密な作画と演出家のキャラクターに演技をさせる力で動きに説得力が加わる。シナリオから美術デザイン、音楽、作画のすべてに出し惜しみはしない。声優の録音方法も日本の独自性がある。	

回	日 付	講 義 名	講 師
		学 習 内 容	
16	10月25日	アニメーションとアート②～展開	佐渡和隆さん②
		3作の国産漫画映画で始まった日本のアニメーション文化。戦後、アメリカ映画流入から漫画スタジオを建設し、日本漫画映画の力価を高めるよう東映動画が始動する。その後、テレビアニメが登場し、海外へと販路を広げる。	
17	11月1日	フェスティバル準備1日目	自主学習
		全員でウェルカムアレンジ用の花を折った。その後、各グループに分かれて準備をした。必要な備品等を要望として挙げる。全体プレゼンテーションは担当者を決めることに。ワークショップ当日のスタッフも募集した。	
18	11月8日	デザイン②～デザインの歴史	澁谷克彦さん②
		新しいものを取り入れやすく、見た人をウキウキさせる商業デザインについて、アーツ・アンド・クラフツ、アールヌーボー、アール・デコ、バウハウス、ダダ、戦後～現代までの歴史の説明があった。	
19	11月15日	推し活の魅力、多様性、可能性	自主学習
		切実さ、同時代性、美、感情、尊さ、感謝など、推し活には多彩な美意識と生き方が息づく。ぬい、アクスタ、痛バッグ、コラボカフェ、2.5次元などを例に、異なる個性を認め合う文化にふれた(講師:加藤諒子さん、文野レイカさん)。	
20	11月22日	ウィーン世紀末は、日本だらけ?	新見隆さん③
		80年代は世界中で海外に注目が集まり、日本では急激に美術館が増えた。ウィーン世紀末の美術家は日本美術への関心が高く、北斎の版画などから強い影響を受けたことなどを学んだ。	
21	11月29日	フェスティバル準備2日目	自主学習
		フェスティバル(12/ 6～7)に向けての作業を引き続き行った。「アートの花」「子ども向けワークショップ」「アートマップ」の3チームに分かれ、それぞれ準備に取り組んだ。 = 3ページ目にフェスティバル当日の写真★	
22	12月13日	20世紀の王者MoMAを超えるぞ!～イサム・ノグチの「未来教室」	新見隆さん④
		日本とアメリカ、アジアとの関係は複雑だが密接でもある。ニューヨーク近代美術館(MoMA)は3人の女性によって始まり、建築の展覧会は画期的で影響力があった。イサム・ノグチは庭園美術や自然石の抽象彫刻を世界各地で制作した。	
23	1月17日	フェスティバルの振り返り、あゆみ編集案、アートお楽しみ会(1/31)の企画	自主学習
		フェスティバルの振り返り、「あゆみ」編集委員の募集・紙面構成、お楽しみ会(1月31日)の内容の3点について、5人程度のグループに分かれて話し合った。	
24	1月24日	さをり織り、工房の運営、感性を引き出すことについて = 3ページ目の写真(左下)★	手織工房じょうた 城達也さん
		大切なことは瞬間を感じて織ること、心の動きや感性の声を聞きながら織ること。スマホやAIに頼ることが出来ない、人間こそが創れる織物。笑わば笑え、人生とは自分を見つけて事足りる。	
25	1月31日	アートお楽しみ会 = 3ページ目の写真(右下)★	自主学習
		お楽しみ会を開催。ファッションの集い、オススメ美術館の紹介、レゴ研修を行う。少しおしゃべりして並びかえ、着衣信号の変化を体感。レゴ研修は概念を形にする難しさと、それを可能にするアイデアとコミュニケーションを実習した。	
26	2月6日	【公開講座】水平の旅、垂直の旅	写真家、登山家 石川直樹さん
	2月7日	【公開講座】輝け、日本国憲法!～平和な世界を目指して～	ジャーナリスト 伊藤千尋さん
27	2月14日	20世紀は、芸術が危機を救った世紀、今、学ぼう前衛に!	新見隆さん⑤
		古来、人間がやってきたのは手で描くこと。それが近代テクノロジーにより広く深く世界や身の回りを見ることになる。第一次世界大戦下の大変な時代に、手から目の革命で新しいことを見つけたことが今に続く業績になっている。	
28	2月21日	障害のある方とアートの関わり～美術館の現場から考える	国立新美術館学芸課第1企画室長 眞住貴子さん
		共生社会の理念とは、皆が同じになる社会、弱い人を助ける社会ではなく、違いがあっても当たり前、誰もが社会参加ができる状態を継続的に作ること。障害者が見る美術鑑賞を支援する。障害者が作る創作活動や見せることを支援する。	
29	2月28日	アートコース一年間の振り返り	自主学習
		全体の振り返りとして全員から一言ずつキーワード付きでコメントしてもらった。後半は運営委員の石河穂紀さんによるフェスティバルのプレゼンテーション再演と文字動画の視聴があった。	
30	3月7日	20世紀は、芸術が危機を救った世紀(続編)	新見隆さん⑥
		エポックメイキングな事象から近代美術のとらえ方をご教示くださり、1年間の集大成ともいえる授業だった。創作背景を学ぶことでアートをより深く理解できるようになり、作品を楽しむ喜びも広がった。	

持って帰れるとしたらどれがいい
森羅万象と響き合う「万物照応」
自然を感じてリラックスしてから行く

Think simple
feel deep

原作には、
何度でも、見るたびに、
変化する見方がある

空を眺める、葉の匂い、風を感じる
ゆったり、何度も、くつろいで関わる

カーさんのこしてバーさん出て行く

死ぬとバー(魂)

死は人生の終着点ではなく、
恒久的な生命に到達するための通過点

カー(本質)の元を離れ

現世と冥界をいったりきたりする

永遠の生命への願いを込めた祈り

古代エジプトの彫刻は同じ様式
死生観、厳密な役割と原理を担った遺物

「美
術、
彫像、
壁画など」
一定不変の様式」を守り続けた

夜朝、
死復活・再生し、
死して冥界へ、

規則的な太陽の運行が
死生観に影響を与えた

ナイル川は洪水ではなく定期的な増水

練習あるのみ

表現には人が表れる

ゲン担ぎに赤パンをはく

演奏前にケガだけはしないように

一番好きなのはバツハ

人
イ
コ
ー
ル
芸
術

「芸術は怖い。その人の全てが見える」
先生に教わって、別世界だと感じた
考えることが大切だと学んだ

奏法だけでなく人間性においても
言葉でなく空気で伝わるものがある

セザンヌは視点を变えて描いた。
画面の構成を重視、
色々な視点からの絵の構成、
多視点の導入
再構成は、アカデミズムの手法
ゴーギャンは、
哲学的な問いを絵画でおこなった

チームを作り、見張りをたてる。
安全な方法

バンクシーも、地元を愛して、
展覧会を開いて、小学校に作品を

グラフィティは、
ヴァンダリズム（器物損壊）、
イリーガル（非合法）
身元を明かせない、
匿名性の美学

バンクシーの作品は、
9割以上残っていない

2000年代には、平和を訴え
反・資本主義。
お金で解決するやり方、
今の美術のあり方に、反対
しかし、メディア産業との
異なるビジネスモデル、
資本主義の面白さもある

文化、芸術、創造性の概念に
大きなゆらぎが生じ、
従来はアートとされなかった分野、
まんが、アニメなどが
アートとされてきている

「芸術は、音楽や美術」であるとして、
日本におけるアートの概念は
相対的に狭かった

一方で
芸術が失われる
危険もある

17世紀までアートの概念は無く
18世紀に技術発展、
写真、映画、動画、蓄音機
作品のコピーができるようになると、
逆に本物の価値が問われるようになった
韓国は1997年に経済危機を迎え
文化による再生をはかった

アートの概念の変化は、市民社会の変化
オークションが成立し、
マーケットが誕生した

初音ミク、芸術祭、
武蔵野市の
Ongoing（アートセンター）など
参加型文化が盛んになり
芸術は今、市民共創による
文化生産の場へと変容

文化遺産の登録要件は6つ
傑作、文化の交流、独自文化、
建築・科学技術、伝統集落、
顕著な普遍的価値
世界遺産の保全は未来への投資
そのすべてを満たしたのがヴェネツィア。

「最後の晚餐」が世界遺産
「モナリザ」は、そうではない
遺産の物件は不動産でないといけない

デザインは、見る人との瞬間的な
コミュニケーションができる
感動する、ワクワクする
それは書類の山ではできない
しっかりしたクオリティ
モノの価値をつくるのが前提

いいものは、美しい
「時代の気分をいれながら
らしさ」を出していく
美しさで、節約したり、
時間を守ったり、
事故を防いだり、
問題を解決する

ポスターは俳句みたいなもの
ワン・メッセージ、ワン・ポイント
デザインとは、
なにげないことをおしゃれにすること

アールブリュットは人の可能性の証明
見えていないけど見えている、
見えているけれど見えていないことがある
大切なのはインサイトとエンパシー

客観視は事実を見ていて
主体視は印象、感覚
アーティストではない人が
アーティストになる可能性がある

アニメ制作は監督で決まる
演出、脚本、作画監督、
美術、音楽、すべて監督に全権委任
日本では、声優さんが、みんなで声をあてる

レイアウト・演出作業で、
作品の技術的水準が決まる

キャラクターデザインの
大量の表情集が、設計図に
日本のアニメは漫画文化からで、
コマが動きを切り取っている
日本独自のまんが文化が、
現代のアニメーションに

アニメは、実写が描く世界に、
非現実を含めた娯楽表現を追加できる
アニメーションとは、
命、生命力を吹き込むもの
アニメは、資本と人手が必要な
労働集約的産業
製作委員会方式
アニメ映画は当たるとすごいホームラン、
ダメだと全然ダメ
有名ないちご、
爆発の金田（かなだ）
美形の荒木（あらか）
板野サーカス、ほか

等身大パネルと
一緒に撮るのか、
一緒ではないほうがよいのか
視点や見え方も大事

ニワカ笑うな来た道だ、
古参嫌うな行く道だ

アートは美しさと感情
アクスタや、ぬいと一緒に外へ出る

時代の購買心理が、自分の元気となる「概念ファッション」
ぎゅっと詰まったものが推し活

痛バッグの裏と表を切り替える
推しは推せるうちに推せ

お金や時間は、人それぞれでいい

心を育む場所があり、
愛がある社会であればよい

日々のくらしの中に
心を動かすものは溢れている

さをり織りは
とことん自由、
失敗がない

感性は誰でも持っている

価値観の尺度が広がる

美意識は
自分の心は
熟成されてい

さをり織りは、
人間だからできるもの。
つくりながら考えてよい。

自分の中に
あるものを使うから、
誰でも織れる人生は自分を見つけに

正確に速くつくるだけでなくで
機械のほうがいい

荒々しく上品で
派手で地味な
マフラーを織る
糸を通して、
足を踏みかえ、
パタン！

分けたいわけじゃない。
ふだんの日に来られる練習として設けた
10代のうちに美術館と出会って、
一生ものの何かを感じてもらう。

まず憲法がある。
共生社会も入っている。

立場や特性の違いがあって、
排除せずに共に生きる社会

価値を見いだすのは、
本人たちよりも、
まわりの人たちである。

「生な、原石のような」表現の中に
そういう意味もある。正しい、
正規の美術教育を受けていない、
アート・ブル・ブリュット
障害というわけではない。

ゆったり、何度も、くつろいで関わる
最後から見てまわる。もう一度見る
美術館に行く前に、
情報収集よりも身体的な練習

受講を終えて

K.A.

「広報みたか」を眺めていると「市民大学総合コース・アートコース」が目にとまり、軽い気持ちで応募し運よく抽選に残りました。後から高倍率と聞き驚くとともに「市民が企画・運営するゼミナール形式」の説明を見落としていたことに気づき少し重圧を感じました。

はじまってみますと、どの講義も興味深い内容の連続で、参加者の方々の熱量も加わって、あっという間に最終日を迎えておりました。新見隆先生の講義では、大分県立美術館で長谷川等伯の「松林図」をターナーと対に展示されたことを聞き、等伯は伝記小説も読んだ好きな画家でしたので感激しました。

素晴らしい講座をご講義いただいた講師の皆さまに厚く御礼申し上げます。また、企画委員、運営委員、事務局の皆さまのご尽力に深く感謝いたします。

受講しての感想

T.I.

「アート」とは何だろう。

世界の新しい見方を求め、創造力・表現力を用いて作り上げたものの総称と解釈した。

アートは、感性によって人の心に深く入り込んで来る。

「見る」・「感じる」とはどの程度の行為であるのか、作る側・見せる側の講師の方々からお話を伺った。

現代絵画の前で理解しようと禅問答をしていた自分が滑稽に思えた。肩の力を抜いて自由な発想、自分なりの想念で楽しめば良いのだと気がついた。

また、実際の博物館を立地選びから、展示、普及までの過程の話は興味深かった。最近、各地の美術館の建物も多彩で、旅の楽しみが増えた。

時に心を慰め、感動させ、考える切掛けにもなるアートの魅力・大切さを再認識させられた講座内容だった。

ご足労下さった関係者の方々に深い感謝を捧げます。

アートがテンコ盛り

M.I.

アートは日常、古代エジプト美術、西洋美術、バンクシー、世界遺産、商業デザイン、アニメ等と講座内容が盛沢山で、大学の美術館見学もあり、本当に素晴らしい時間を過ごす事が出来ました。初めて聞く内容も多く、新鮮で、講師の先生方の発言も「アート」に感じられて胸に響きました。

手織り技法のひとつである「さをり織り」の講義では、「さをり織りは、自分の中にあるものを使うから、誰でも織れて失敗がない。正確に早く作るだけなら機械の方がよい」と自由な芸術を満喫させていただきました。

また、デザイン講義では、「ポスターは俳句、ワンメッセージ、ワンポイント」という言葉に納得させられました。

最後に、講師の先生方、アートコースの企画運営をして下さった皆様には、本当に感謝で一杯です。そして、個性豊かなアートコースのメンバーの方々、一年間有難うございました。

自分の□□□くらい 自分で守れ ばかものよ

石 河 穂 紀

クイズです。□□□に、何が入りますか？ 正解をご存じの方は、さらに別の言葉を考えたでしょうか。知識からの答えだけでは感受性も眠ったままです。

授業は、みんなでつくるもの。準備された先生、真剣に受ける学習生、集まる場、どれも必要です。そして「多様性」を「可能性」にしていくには、取捨選択せず、視野を広げて編み出すことも必要です。社会学、アニメ、織物・ファッション、そして推し活の授業が無事に実施できてよかったです。名言の数々は、文字動画にできました。

この「あゆみ」にも多くの言葉が並びます。借りてきた言葉ではなく、生まれてくる言葉があるかどうか。クリエイティブな相互作用が芽吹くのが楽しみです。

感性のままにアート

M.O.

好き、嫌いで漠然と美術を鑑賞していた私が、美術史を知り、造詣を深めたくなることが受講のきっかけでした。

振り返ってみると、アートを介した講師の方々の哲学や美学を学べたことが、一番の貴重な収穫でした。例えば新見先生。大分県立美術館のテーマが「出会い」と「五感」。見る人側に立てる“ザ・キュレーター”としての矜持を感じました。澁谷先生のデザインされたレジュメの表紙。単なる表紙ではない、まさに「いいものは、美しい」、 “アートディレクター”としての矜持に触れました。とことん自由、失敗がない、さをり織りの世界を教えてくれた城先生。あえて“普通の人”でいることの矜持が心に沁みました。

他の誰でもない自分の感性で美術を楽しんでいいのだと思わせてくれた講師の方々、そして、本講座に関わってくださった全ての方に心より感謝を申し上げます。

「アート」からの広がり

岡 本 政 也

第1回講義でメイン講師の方から「自分の視線を持ってモノを見る、日々の暮らしの中で美を見つける」との言葉をいただき、確かにそういった生き方が大切だと共感できました。

多種多彩な講義の中で、アートそのものだけでなく、作品が生まれた時の時代背景なども学ぶことができ、講師の先生方の人生観にも触れることで気づきもありました。

美術館訪問では学芸員の方からとても丁寧なご対応をいただき、また、普段聞くことのないバイオリンの独奏会など、私にとっては楽しい非日常の時間となりました。

バイオリン独奏は、様々な曲が演奏され、バイオリンという楽器の素晴らしさを受講生に伝えたいという思いも感じました。

センターフェスティバルの準備を皆さんと一緒につたない紙切りなどで進め、当日のワークショップではお子さんのたくさんの笑顔に触れたのも楽しい思い出となりました。

「一角獣と貴婦人」余談

岡 田 健治郎

新見隆先生の講義にあった「一角獣と貴婦人」は10年ほど前、六本木の国立新美術館で対面したことがあります。なぜか心に残る不思議な絵（タペストリー）でしたが、「森羅万象が響き合っている」という先生の解説を聞いて、なるほどあの絵は世界の真理そのものを現しているのだと思い至りました。ボードレールの言う correspondance「万物照応」であり、世界は生きとし生けるものが調和している。ありとあらゆる命は絶対的なものに生かされているという、どの宗教にも共通する信仰心にも通じると思います。そこに引き込まれたのだと。

以下、余談です。フランス国立中世美術館の繊細な至宝をわざわざ日本に持ってくるなんて、もっての外といったご指摘もありましたが、すみません、その会社（新聞社）に勤めていました。会社の代弁をする立場にありませんが、ミロのヴィーナスやツタンカーメンも日本で紹介したことに免じていただければ笑。

知れば知るほどアートは自由に！

H.K.

市民大学講座の存在に初めて気がついたのは、「広報みたか」に見つけた「アート」の文字のおかげ。展覧会や美術館、芸術祭めぐりが好きで、相当出歩いて見聞きし、ちょっと勉強もしたりしてきていましたが、講師の方々の豊かな知識・こだわりある視点や考え方に触れることで深掘りを、異なる切り口や様々な分野のアートに触れることで広がり、そして熱意あふれる学習生の仲間と出会うことで重なりを得ることができました。講座はアートって何？ どう関わるの？ という問いを考える貴重な機会。今の私の答えは「アートは自由、心の赴くままに」です。

文化を映す鏡

久保井 愛 美

アートを作品として眺めるだけでなく、社会や歴史、文化とのつながりの中で捉え直す視点を得られた刺激的な講座でした。絵画や建築、アニメーションなど多彩なテーマを横断し、アートが時代や人々の価値観を映す鏡であることを実感。日常の風景や身近な文化にも豊かな表現が息づいていることに気づき、ものの見方が広がったように思います。アートは特別な場所にあるものではなく、暮らしの中に静かに溶け込み、感性を揺さぶる——そんな発見に満ちた学びの時間でした。

初めて市民大学を受講して

H.K.

「アートを愉しむ!! ～魅力、多様性、可能性～」というテーマに魅力を感じ、受講の申し込みをしました。講師の先生方も多士済々で、どの講座も充実した内容のため新しい気づきがあり、味わいのある心に残る金言・至言に感銘を受け、多くのことを学ぶことができました。

また自主学習として、美術館での鑑賞やフェスティバルへの参加、おすすめ美術館紹介、レゴを使ったグループワーク等々、他のメンバーの皆様と協力して活動するという貴重な体験をすることができました。

講師の先生、運営・企画委員の方々、職員の皆様、そして共に学んだ学習生の皆様、1年間お世話になりました。

復活・アートコースの挑戦と感謝

笹川英之

みなさん、アートを愉しむことはできましたでしょうか？

私は市民大学・分野検討委員会からアートコースの立ち上げから係り、3月卒業にて感無量です。素晴らしい講師陣から古代エジプト・西洋美術・商業デザイン等を学び、生涯学習フェスのWSも貴重な体験でした。さらに、1年間の長丁場を共に学んだ学習生との出会いや、企画委員および運営委員と事務局の大中原様にはご尽力を頂いて大変感謝しております。勝手な妄想ですが、有志にて三鷹アート・フェス的なイベントができれば面白そうですね。

講師の先生、運営・企画委員の方々、職員の皆様、そして共に学んだ学習生の皆様、1年間お世話になりました。ありがとうございました。

日常のアート

関本聖一

私は会社では趣味が「美術館巡り」のおじさんだと思われていましたし、自分でも趣味をもっていると感じていました。しかしどんな「絵」が好きなのと聞かれるとよく分かりませんでした。

それはおそらくアートに対する自分の物差し（基準）が無いことが原因だと感じていました。そんな中、出会ったのが、メイン講師の新見隆先生の著書「時を超える美術」でした。

そこには先生の物差しで分けられた様々なアートが、すべて一線上に並んでいるように思えました。先生の講義は、民芸品・現代アート・書籍・料理等多岐にわたりますが、すべてが同じもののようには語られていたように感じました。先生は「アートは日常にある」と言われましたが、私も美術館に行かなくても日常でアートを見つけられるように、少し変化しております。

受講を終えて

荘あけみ

市民大学の学習生として2年目を過ごさせていただきました。昨年、初めて市民大学を知り、教育コースで学ぶことができたのですが、講義内容はもとより先輩学習生の皆さまとの交流も大変有意義で刺激的な1年でした。

本年のアートコースで私は先輩学習生になったわけですが、後輩の皆様からはさらに刺激をいただきました。学ぼうとする意欲、人生を楽しもうとする意欲にあふれ、アイデアも豊富。勉強になりました。

もちろんメイン講師の新見隆先生には、たくさんのことを教えていただきました。溢れだす言葉を惜しまず紡いでアートの愉しさを語ってくださいました。また、新見先生のみならず様々な分野において活躍されている講師の方々のプロフェッショナルなお話には、常に魅了されました。私は美術ジャーナリスト斎藤陽一先生の古代エジプト美術についての講義が特に印象に残っています。

「アート」は私が考えていた以上に日常的でした。特別なものではなく生活になくてはならないもの、そして人生を豊かにするものであると確信しました。

前年より企画委員の皆様が丁寧に交渉や議論を重ねて作り上げてくださったことに感謝いたします。

また、生涯学習センターの職員さんの熱心なサポートにも御礼申し上げます。ありがとうございました。

一枚のチラシから始まった、私の学び直し

A.T.

この生涯学習センターの講座は、たまたま自宅のポストに入っていたチラシで知りました。子どもの中学受験が終わったことで子育てが一段落し、これから仕事にも改めて力を入れたいと考えていた時期でした。同時に、自分の思考力や物の見方を大きく広げたいと思っていた私に、“アートを楽しむ”というコースは魅力的に映りました。毎週土曜日、普段の仕事では出会えない三鷹市民の多様な年代の方々と過ごす時間は大きな刺激でした。一流の講師陣の中でも、斎藤陽一先生による古代エジプト美術の講義は特に印象深く、三千年変わらぬ古代エジプト美術様式の背景にある宗教観や美学を知り、人生を豊かにする経験となりました。

贅沢な学び時間

Mie.T.

「あの頃もっと勉強してればよかった。」大人になってそう思うことがよくあります。

学ぶべき時には興味がなく、興味が出た頃には学ぶ機会も時間もありませんでした。

昨年は娘が社会人となり独立したタイミングでした。以前から興味のあった「美術」ですが、きちんと学んだことはなく、偶然市報で目にした講座に応募し、運良く応募することができました。

どの講義も興味深く、当然ながら講師の先生方のお話も本当にお上手で面白くて。

いつもあっという間に時間が過ぎていました。講師の先生方はもちろん、作り上げていただいた運営委員や職員の皆様には感謝でいっぱいです。同じ受講生の皆さんの博識さにも刺激を受けました。贅沢な時間をありがとうございました。

アートとはわからなかったけど楽しい

高橋 三知子

近年アートという言葉を見聞きするようになって久しいですが、漠然としかわからず、大きなうつわのようなものではと思っていました。中身を考えてみたく思っていたところに市民大学でのチャンスを頂き、毎回期待を持って臨むことができました。特に知りたかった抽象表現や現代美術など含めての幅広い講義もさることながら、自主学習やフェスティバル準備を仲間と共に創造していく楽しさ、正解はないけれど自分の中に見出していく喜びを体験しました。これは他のコースにはない楽しさでした。私の中でアートの探求は始まったばかりです。次年度も受講できたらと期待が膨らんでいます。

美術の魅力・多様性・可能性

J.T.

「美術」を、自分の思いや感動を言葉以外で表現しようとする手立て、とすれば、大学で「美術」を学ぶということは、はやり言葉でいうと、その「美術」を逆に言語化して伝える、理解しようとするということであろう。今回は、自分の中で漠としてしか捉えられていなかった美術を体系的に学べる良い機会かと思い、このコースに参加した。

当初の思いとは違ってはいたものの、美術という領域で活躍されている多様な方々の話を伺うことができ、私の中で、美術の魅力・多様性・可能性を広げることができた。特に、対話型絵画鑑賞法をご紹介いただいた林先生の講義。目隠しをしたグループに言語で絵画をイメージさせるという体験は、大いなる刺激となった。

最後に、サポートいただいた生涯学習センターの方々、また素晴らしい講師陣を招聘いただいた委員の皆様のご尽力に多大なる謝意を表したい。

学べることに感謝

Mas.T.

初めて市民大学講座を申し込んだところ運よく人気のアートコースを受講でき、エジプト美術からバンクシーまでと幅広い内容の様々な“アートを楽しむ”ことができました。座学だけではなく自主学習、美術館見学、フェスティバル参加などバラエティに富んだプログラムを企画するのは大変だったと思います。三鷹に20年以上住んでいますが、生涯学習センターに注目したことがなくどのような内容なのか判らないままでしたが、非常に充実した内容でとても良い経験をさせて頂きました。何より驚いたのが市民の提案を基に運営するのも市民だということ。スタッフおよび運営委員の皆様には感謝、感謝です。今後も市民大学の講座を受け身にならず受講したいと思っています。ありがとうございました。

「アートを楽しむ ～魅力・多様性・可能性～」によせて

Y.T.

中学時代の苦い体験からアートに苦手意識があるが、今年ほどアートを身近に、また、愉しく感じたことはなかった。アートについて語り合うのは楽しかったし、知識を得て愉しみが深まった。日常の中に美を視る愉しさも知った。

アートの魅力は心をざわつかせてくれることだ。美しいものを見た時の幸せな気持ち。初めての作品と出会うワクワク感。得体がしれないモノに抱くえもいえぬ不思議な気持ち。心が動く体験ができることにつきる。

多様性については、アート作品の多様性もさることながら、創り手の立場、歴史背景、地域性等アートと対峙する視点の多様さにも気づかされた。

可能性については、AIとの協働で人の創造力のさらなる広がりを予感させる。同時に、アートを介した人と人のつながりやアートが人の思考・行動をも左右する可能性も感じる。

今後も私なりの「み・た・か」を探っていきたい。

アートって、いいね！

Y.N.

アート好きな市民が、和気あいあいと自由な雰囲気を受講しているコースです。多様性を掲げていて、美術だけでなく音楽や工芸、商業デザイン、アニメ、世界遺産と多彩なテーマに取り組み、愉しんでいます。勉強するというよりは、アートの多様性に触れることで、インスパイアされたり、これまでモヤモヤしていたものが整理出来たりと、豊かな心のエネルギーをもらっています。こんなに自由で枠にはまらない講義を受ける機会をくださった三鷹市に感謝しつつ、今後ともこのアートコースが続くといいなと願っています。

受講を終えて

S.M.

美術が好きで約一年間有意義な時間を過ごすことができました。メイン講師の先生のみならず他の先生方も、素晴らしかったです。新見先生からは美術とは何か、一方向性だけでなく、私達に疑問を投げかけ考えさせられた様に感じました。

また武蔵野美術大学美術館の見学は、良き作品を眼にし感動致しました。このような企画をたてた運営委員の方に感謝申し上げます。最後に受講に関して市民大学をスムーズに運営して頂いた事務局にお礼申し上げます。

出会いに感謝！

林 宏 美

三鷹に引っ越して7年、子育てもひと段落した頃に、偶然見た市報で市民大学について知りました。アートへの知識は皆無でしたが、“大人の学びなんだから、知らない世界に飛び込んでみるのも面白い！”とエントリーを決めました。

私にとっては、挑戦にも似た経験で、講義内容全てが新鮮で楽しいものでした。芸術を生業とし、講義してくださる先生方はもちろん、特に刺激を受けたのは、芸術やアートに対して情熱深い受講生の皆さまとの出会いです。講義後の質問や、レクリエーションなどでのコミュニケーションを通じて、アートに対する尽きない関心や学習意欲を感じ取ることができ、素晴らしい経験となりました。

日々の暮らしの中にこそ、美や心を動かされるものは溢れている。アートを学ぶことで、私の日常もより豊かになったと思います。

私の挑戦は成功でした！ありがとうございました。

アートを通して人と繋がった

S.M.

この度初めて市民大学総合コースに参加させて頂きました。一番驚いた事は、まるで本物の学校のようなプログラムになっていた事です。

入学式から始まり、フェスティバルへの参加やグループワークなど様々な活動を通してメンバーさんと仲良くなれました。全員が同じ学習生という立場なので、年齢性別を問わず新たな仲間ができる未知の経験となりました。

また、講義の方も様々なジャンルアートのプロの方々から幅広い知識を学ぶ事ができ、毎週新たな知識と刺激を受けていつもより充実感のある一年となりました。ありがとうございました。

「Artistic Impression」が大事

村 田 香 澄

若い頃の口癖だった。ないものねだりというか、器用でセンスのあるかっこいい人、に憧れていた、はず。近年は仕事と畑と時々旅行であっという間に日々が過ぎて、歳と共に体形も気持ちも丸くなって、少し尖がったそういう気持ちを忘れていた！

ところが、Artistic な講師陣に触れて、お話を聞いているうちスイッチ入りました。

旅先で立ち寄った美術館、もったいない見方をしていたな～と後悔したり、日々の暮らしの中で自由な発想・視点、視野の広がりを自覚したり。

アートコース、多くの気付きを得ることができ、本当にどれも聞き逃したくない珠玉の講義の数々でした。運営・企画委員の皆様、職員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

アートなるものを学んでみて

K.Y.

アートコースは、コース名が“アートを愉しむ!! 魅力、多様性、可能性”とある通り非常に、多岐にわたる講座内容でした。自身の生活にも今まで以上にアートを楽しむ時間が増えました。また、自主学習という時間があり、この時間は何だろうと思ったのですが、フェスティバルに向けて催しものを考えたり、お楽しみ会があったりと受講者同士も交流できる時間があり面白かったです。ありがとうございました。

楽しくも苦しい勉強の日々

矢 萩 敬 子

この一年、芸術とは何か、アートとは何か、そしてそれはアートと呼べるのか、を考える日々でした。

また、市民の税金のより良い使い道や生涯学習の意義についても思いを巡らせてまいりました。

アートというテーマだからこそ、皆様と和やかに、そして仲良く学ぶことができたのではないかと思っております。

何より、素敵な学習生の皆様に心より感謝申し上げます。

アートコースの魅、多、可で振り返る

A.W.

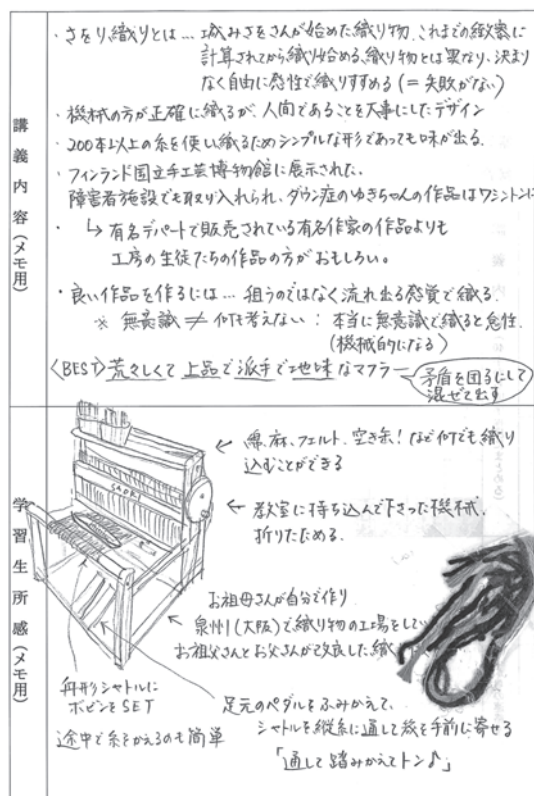
コース名、〈魅〉魅力、〈多〉多様性、〈可〉可能性のそれぞれの観点から個人的にこの一年を振り返っていく。

〈魅〉毎週、アートのひとつのテーマについて豪華な講師の先生のとびきりの講義を拝聴した。

〈多〉集まった受講生たちは世代が違いう個性豊かな人たちで一見バラバラだけど、みんな同じく熱心に講義を聴いている。

〈可〉新見先生の初回の講義を聴いてから、美術館に行く日はネットの検索よりも空を眺めてから出かけるようにしている。鑑賞する作品について急いで知識を備えることよりも、そこから何かを受け取る自分の身体的な可能性を見つけるようにして美術館を楽しんでいる。

最後に、このような恵まれた学習の場を作って下さった、運営委員の方々、職員の方々、携わった方々に感謝申し上げます。



「戦後80年」を考える

～民主主義と憲法は根付いたか～

講師：山 口 二 郎
(法政大学法学部教授)



戦後 80 年を考える

講師 山 口 二 郎

2025年春から、戦後80年を考えるという連続講座を担当させていただいた。戦後政治史については大学の講義で何度も話をしてきたので苦労はしなかったが、平和、家族などのテーマを設定して戦後日本の出発から変容を説明するという作業は、私にとってもよい勉強の機会となった。敗戦によって自由や民主主義を獲得した日本人が、それらの重要な価値をリレーして来たことを改めて学んだ。また、敗戦にもかかわらず是正できなかった日本の欠落が、戦後50年のころから様々な問題をつくり出したことも確認できた。

講座を始めたときには予想できなかったが、戦後80年の節目の年は、戦後日本にとって大きな転換の年になるように思える。2025年10月、石破茂氏は首相在任中の最後の仕事として、「戦後80年に関する所感」を発売した。これは、戦争に至った過程を振り返り、同じ誤りを繰り返さないという信念の表明であった。これに対し、後任の高市早苗首相は極めて冷淡で、石破氏の教訓は継承されなかった。後世の歴史家は、この時点をもって戦後から新たな戦前への転換が起きたと評することになるのかもしれない。

それは決して杞憂ではない。高市首相は、いわゆる台湾有事の際に安保法制を適用して自衛隊の派遣もありうると答弁し、伝統的な平和国家路線の転換の可能性を示唆した。そして、2026年初めに、解散、総選挙を行って、自民党に史上最多の議席をもたらした。国民は、首相の好戦的姿勢についてあまり危険視していないことが窺われる。

そして、2月末にアメリカとイスラエルはイランに対して軍事攻撃を開始し、戦闘が続いている。ドナルド・トランプ大統領は、ホルムズ海峡での船舶の安全を確保するために日本を含む各国に軍艦を派遣するよう求めた。日本がイランと戦争する理由はないし、自衛隊の艦船を紛争の最中のホルムズ海峡に派遣する法的な根拠もない。高市首相がこれに応ずるなら、まさに憲法の破壊である。

3月19日の日米首脳会談では、高市首相がトランプ大統領に自衛隊派遣を約束するという最悪の事態は避けられた。高市首相が訪米前に、日本の法律のもとではできないことがあると発言したことは、憲法や法律の規範がまだ意味を持っていることの現れである。

しかし、安心するわけにはいかない。アメリカが愚かな戦争に窮し、また日本に無理難題を吹っ掛ける可能性はある。戦後80年を経て、戦後日本の進路が問われている。国会で与党が議論を省略してやりたい放題をしている今、戦後という時代に生き、戦後の理念の下で自由な人生を送ってきた我々は、日本がこれから何をしてはいけないのか、何をしなければならないのか、声をあげなければならない。伝統的メディアに文章を発表するのもよい。SNSを使うことも簡単である。ひとり一人の日本人、とりわけ戦後を生きて来た人間の覚悟が問われている。

プロフィール



法政大学法学部教授。
1958年生まれ、東京大学法学部卒。
東京大学助手、北海道大学法学部教授などを経て、2014年より現職。
専門は行政学、現代政治。
1990年代から同時代の政治に対する発言を続ける。
＜主な著書＞
『民主主義へのオデッセー』（岩波書店、2023年）
『戦後政治史』（石川真澄と共著、岩波書店、2021年）
『民主主義は終わるのか』（岩波書店、2017年）

やまぐち じろう
山口 二郎さん



●カリキュラム

回	日付	講義名 学 習 内 容	講 師
1	5月17日	開講式・オリエンテーション 自己紹介と講座運営を企画委員から説明と運営委員を選出	自主学習
2	5月24日	戦後80年を考える 戦後の日本の出発 敗戦前後から憲法改正、各政党の発足に至る過程を当時の政治家や著名人達がどの様にしようとしていたのかを、伝記や発言、著作等多数引用し説明された。	法政大学法学部教授 山口二郎さん
3	5月31日	日本経済の検証と未来への提言 何で現在のような日本の経済状態になったのか？を具体的に検証する。1997年金融危機の処理の失敗が分岐点だった。そしてアベノミクス経済政策の罪と罰について触れ不良債権処理の失敗、金融緩和依存が産業衰退を招く。	慶應義塾大学名誉教授 金子勝さん
4	6月7日	60年安保と戦後体制の確立(1955～1960) 1960年という分水嶺①戦後システムの整備②岸信介と戦前回帰の試み③60年安保とは何だったのか④池田勇人と自民党のモデルチェンジ⑤高度経済成長時代の政治。と題し新幹線、東京オリンピックまでの講義	山口二郎さん
5	6月14日	自主学習 本コースに参加した背景、自己学習への期待。の2点について全学習生による発表を行なった。	自主学習
6	6月21日	高度成長と日本の変容(1960～1990) 1960年代から90年代は高度経済成長の時代。所得増と生活向上を重視する保守本流が台頭。公害や都市問題、石油危機も自民党は柔軟に対応。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と称され、中流社会が形成された。	山口二郎さん
7	6月28日	自主学習 前半はテーマ別に4班で討議内容の報告と質疑応答を行う。各人の問題意識、関心から活発な議論となった。A. 政治とカネ・民主主義(6名) B. 戦争、安全保障(6名) C. 経済と格差(6名) D. 暮らしとジェンダー(5名)	自主学習
8	7月5日	転換と改革の試み 1990～ 90年代から政治の構造腐敗、経済の金融危機、グローバル化、人口減少、地方の陥没、規制緩和等により社会衰弱。安倍政治は憲法解釈変更し、安全保障の根幹変化。国民の愛国気分と右傾化で政治の合理的判断は困難	山口二郎さん
9	7月12日	「リベラルの終焉とポピュリズム」についての考察 リベラルとは何か①反政府②ブルジョア・イデオロギー③個人主義④社主義的政策⑤寛容イデオロギー。ポピュリズムとは何か？批判的用語であり分析概念ではない。	同志社大学政策学部教授 吉田徹さん
10	9月13日	戦後3代・象徴天皇として 3代の天皇が象徴をどうとらえたか。昭和天皇は上下意識を崩さず君民一体の国体意識のままだった。平成天皇は民主教育を受け特に美智子妃の対話を重んじる行啓で国民に近づいた。最大の問題点は象徴についての議論回避	明治学院大学名誉教授 原武史さん
11	9月20日	検証・戦後80年～日米の“軍靴”響く沖縄からの警告～戦後から新たな核戦争前夜への対処法を求めて～【オンライン】 戦後日本は非戦国家として世界にも知られる存在であった。しかし今まさに交戦国家として生まれ変わろうとしている。その現状と問題点について様々な事例を紹介し我々に自覚を求める。	沖縄国際大学教授 前泊博盛さん
12	9月27日	戦後日本における自由と平等 石破総裁の退陣に関し、政治は理念に加え数も大事。側近が少ないことが問題との指摘があり。日本の自由と平等の課題につき説明あり。特に格差と貧困に関し結果の平等化なしに機会の平等なしとの指摘は重要と感じた。	山口二郎さん
13	10月4日	自主学習 終戦から高度成長・プラザ合意からバブル経済を経て新自由主義下での停滞・天皇制・沖縄問題の3グループに別れ、講義の振り返りと意見交換を行った。学習生同士で意見を述べ合う場合は時によって知識向上以上に貴重な場である。	自主学習
14	10月11日	日本の労働の特徴と課題 人間関係を重視するのが「メンバーシップ型雇用」であり、世界標準の専門的なスキルを持つ「ジョブ型雇用」に遅れている。労働運動不当、非効率的な働き方に改革を主張し、最低賃金など政府に要求し続けなければならない。	東京大学大学院教育学研究科教授 本田由紀さん
15	10月18日	自主学習 「内閣総理大臣所感」をテーマとして意見交換を行った。	自主学習

回	日 付	講 義 名 学 習 内 容	講 師
16	10月25日	平和国家の諸相	山口二郎さん
		まず「政治の現状」この30年の政治・経済。社会の落差と「平和国家」の危機増大。本題では「昭和憲法」制定の思惑「日米安保」の成立と「平和国家」形骸化の過程。最後に「平和基本法」提言とその内容が語られた。	
17	11月1日	居場所のない若者たちの時代 宗教から見た戦後80年(1)	東京大学名誉教授 島蘭進さん
		宗教の変遷がテーマ。「現世で救いがある」とする創価学会のような新宗教。「悪の実在」を強調する統一教会のような新進宗教。さらに「宗教無し」を歌うスピリチュアリティ。それが若者の悩みに向き合うものへとなる。	
18	11月8日	戦後80年。最初と最後の政治風景【オンライン】	社会学者 大澤真幸さん
		戦後80年の初めと終わり(現在)のそれぞれに対応する2つの事実。前者は1人の思想家が語った決意、後者は現在の日本政治意識とイデオロギーの分布を示す調査結果。2つの事実をつなぐのが、戦後80年である。	
19	11月15日	「性」は人権マター ～ジェンダー・多様性・DEI	ICUジェンダー研究センター顧問 田中かず子さん
		4班で討議してそれぞれの問題点についての考察を行う。	
20	11月22日	自主学習	自主学習
		生涯学習センターフェスティバル準備①	
21	11月29日	自主学習	自主学習
		生涯学習センターフェスティバル準備②	
22	12月13日	宗教と国家を巡って 宗教から見た戦後80年(2)	島蘭進さん
		(1)国家神道と代替わりの儀礼。(2)近代皇室催事の創設。(3)「国体護持」と「国家神道」の解体。(4)「象徴天皇制」と「国家神道」復興の対抗	
23	1月17日	歴史修正主義と社会はどう向き合うのか	学習院女子大学国際文化交流学部教授 武井彩佳さん
		①歴史修正主義、その特徴と目的。②歴史否定の法規制。欧米の法規制と日本。③歴史否定がファクト化され、認知戦としてメディア、外交、教育に介入。専門性を連携し、何を知り何を知らないかを解明する無知学へ接続	
24	1月24日	戦後日本の歩み 家族と社会	山口二郎さん
		戦後は経済発展すると共に、日本の家族的企業経営が評価されてきた。バブル後否定されてきたが、核家族化した今も家父長制は存在している。	
25	1月31日	自主学習	自主学習
		フェスティバルで外部参加者向けに披露した学習成果を、コース内学習生に対して報告する場とした。また12月に独自に沖縄を訪問した学習生により辺野古米軍基地、石垣島自衛隊基地周辺の住民との対話について話を聞く機会を設けた。	
26	2月6日	【公開講座】水平の旅、垂直の旅	写真家、登山家 石川直樹さん
	2月7日	【公開講座】輝け、日本国憲法！～平和な世界を目指して～	ジャーナリスト 伊藤千尋さん
27	2月14日	憲法の果たしてきた役割と、憲法をめぐる動き	学習院大学法科大学院教授 青井未帆さん
		政治がうまく回って回ってたら憲法に出番はなくてよい。しかし現状は憲法が政策と切り離され、有権者と政治の間に温度差が発生している。	
28	2月21日	高度成長の光と影：2度の東京五輪と戦後日本	ジャーナリスト・専修大学文学部教授 武田徹さん
		日本人の一体感、高度経済成長への五輪も高速道路建設など「部分」をもって全体をよく見せ「復興」を進め過疎化の地方過密の都市となった。歴史批判も対話で未来現在を考え批判していかなければならない。	
29	2月28日	自主学習	自主学習
		「戦後80年」コースに参加して感じたことや学んだ感想、意見交換を行った。	
30	3月7日	メディアとオピニオンの戦後史	山口二郎さん
		戦後すぐの丸山眞男をはじめとして政治と市民に影響を与えたオピニオンリーダーたちを、縦横に論じていただいた。高市政権が誕生したことは「戦後の終わり」となったと結論していただいた。	

政治コースを受講して学んだこと、思考したこと

石 黒 紀 子

市民大学の学習生として参加し始めは、仕事を終えてからで 10 年目になります。

その間、哲学・教育・歴史コースの企画委員に関わらせていただき、多くのことを学ばせていただいています。また、これまでに出会えなかった方々との繋がりを持てたことは、後半の人生を豊かにしてくれたと感謝しています。

今年度、政治コースのプログラムに魅かれ申し込み、幸い受講決定のお知らせをいただきました。法政の山口二郎先生がメイン講師で、ゲストの講師陣も存じ上げている方々が揃っていて、何と贅沢なんだろうと期待感いっぱいでした。

このプログラムが決定するまで、どんなにかご苦労なされたことかと思います。

山口先生の「日本戦後政治史」を縦軸にゲスト講師の先生方の講義を横軸にした学習スタイルは重層構造で学び甲斐がありました。

金子勝・原武・前泊博盛・本田由紀・島藺進・田中かず子の各講師の方々は存じていましたので、期待通りのお話に納得でした。また、大澤真幸・武井彩佳・青井未帆・武田徹の各講師の方々のお話は初めてなのでとても新鮮で興味深かったです。

生涯学習フェスティバルのグループ発表は、沖縄の基地問題について発表しました。「沖縄でいま何が起きているのか?」。沖縄の米軍基地問題に関心を持ってから 30 年、沖縄が戦場にされ、多くの犠牲者の上に現在の沖縄があります。辺野古の新基地建設反対のため、現地の人たちと共に何度も座り込みにも行きました。しかし、ミサイルや戦車が配備され、沖縄の島々はまた、戦場になるのかと危機感でいっぱいです。

高市政権下、右傾化、軍事化が進むであろう政治状況にあって、政治コースなどでの学びを糧に、私たち草の根市民に微力ながらもできることは何か? 大きな課題です。

何より感謝したいのは、運営委員の皆さまのチームワーク力がすごかったことです。通常自主学習の時は学習者が減るのに、各グループにリーダーを配し進行してくださって、話し合いが充実しとても楽しかったです。ありがとうございました。

戦後の終わり

C.K.

タイトルが示す通り、このコースは戦後 80 年の日本社会の変化を政治・経済を軸に、天皇制・憲法・沖縄・宗教・若者・ジェンダー・労働・人権等の視点から学び考える内容で、世界が大きく変化する中、自らの立ち位置を確かめる貴重な機会となった。特に今年 2 月にあった衆院選は、メイン講師の山口二郎先生曰く「戦後の終わり」を告げる分岐点となり、激変する社会の現実を直視し対応する必要性を痛感した。

フェスティバルでは、世代間ギャップと相まって選挙結果への影響が大きい SNS を発表のテーマに取り上げた。SNS は個人が情報を素早く不特定多数に発信し、同調者を獲得しやすい反面、虚偽の情報が混在しやすく、情動に強く訴えかけ世論の分断を招きやすい特性がある。民主主義社会の根幹をなす選挙で、どのように SNS の弱点を克服し活かすかを考え議論し対策を講じなければならない。

様々な分野で世代間格差が顕在化する中、これからの社会を議論する上で、若い世代の参加が不可欠と感じる。生涯学習コースは、時間的に余裕のある世代が多数となるが、世代の枠を越える工夫を真剣に模索する時期ではないだろうか。また、学習生は自らの知見を積極的に様々な方法で共有することが大切だと思う。

知識は本やネットで得られるが、知見は人を通して伝えられるものだから。

このコースを企画、運営して下さった皆様、専門的な知見を惜しげなく伝えてくださった講師陣、共に学んだ学習生、そして事務局に心から感謝します。一年間ありがとうございました。

学習を続けます

Y.E.

三鷹には「市民大学がある」、友人の一言に誘われて引っ越してきました。初めての応募で入学でき、三鷹に来て良かった。

普段あまり政治も経済も考えないで過ごしていましたが、この国はどうしてここまで政治が人々の生活感覚とかけ離れ、普通の市民が置き去りにされる国になってしまったのだろうか。その実情を黙って耐え、されるままに見える人々が増えたのだろうか？と疑問に思っている中で、「戦後 80 年を考える」課題にひかれて受講を希望しました。

山口先生はじめ諸講師の方々の多角的な方面からの「戦後 80 年」の流れは、日々起こる現実には様々な転機の積み重ねの結果としてある、という歴史の常識を改めて考えさせられ、今が未来の出発点でもあるという責任感を喚起させるものでした。

また、自主学習の時間には、様々な人生を生きてきた聴講仲間たちの体験や問題意識を共有することができ、多くの発見がありました。印象に残るのは仲間の一人が過去 3 回分の「8.15 総理大臣談話」をプリントし比較検証を提案されたこと。しばしば現実の中でしか政策も実情も評価しないでいますが、過ぎる時間の中で問われる同じテーマの実情を比較検証することの大切さ、今の肌感覚でではなく比較検証によってより立体的に「今」を理解することができることを実感しました。日常の中でそれを忘れていきます。また一連の講義を通じて憲法と現実のずれ、どう「自らのもの」にしてきたのか、世界の様々な国の憲法と日本の憲法との比較を改めて学習したいと思っています。

講義で提起された参考文献でフォロー出来ていない分は、宿題にします。

「戦後 80 年」を考える を受講して

小 原 英 之

今年度のコースは講義の目的・内容がしっかり組み立てられた上で、メイン講師に山口先生を、そしてゲスト講師の先生方をお願いしたことが見受けられ、大変充実した内容になったと思います。企画委員の方々の努力に感謝したいです。

メイン講師の山口先生の最初の講義で昭和天皇が戦争責任を負わず辞めなかったことで戦前と戦後が切れ目なく繋がったという指摘に、私は繋がっていないと思っていたので、考え直すきっかけになりました。また社会党の江田三郎が提唱した構造改革論（資本主義の構造を改革する、アメリカの生活水準、ソ連の社会保障、イギリスの議会政治を目指す、日本の平和憲法を守る）を当時の総評が受け入れなかったという話には、この構造改革論が生かされていれば、二大政党制が実現できたのではないかと残念な思いを持ちました。

吉田徹先生の「選挙の投票率の向上には正解主義の教育からみんなで解をつくる教育への転換」が浸透すれば歴史認識問題も解決できるのではないかと期待しました。

原武史先生の「天皇制の存続を前提とした議論だけでよいのか？」には現在の天皇制維持の立場の私には違和感があったのですが、自主学習では天皇制見直し論が多かったので自分の時代遅れを感じてしまいました。

大澤真幸先生の「現代日本人の政治意識の 5 類型 * 保守、革新の判断材料は改憲派、護憲派、5 分類の中で一番能動的なのが新自由主義だ」には 8 月 15 日に靖国神社へ行った時に実感しました。

最後に 12 月に沖縄・辺野古と石垣島を訪ね「台湾有事」に対する基地化の現状を見てきたことを自主学習で発表の機会を作ってくれた運営委員の方々に感謝です。

戦後 80 年、いま学ぶ意味

S.K.

何かを始めたくなる春に、運動でしようかと市の施設を調べていたところ、偶然市民大学の講座のページに辿り着いた。2025 年は戦後 80 年という節目の年であり、学生時代に十分学ぶことのできなかつた日本の戦後史を学ぶ良い機会ではないかと思い、参加を決めた。

数年前からフェミニズムに関心を持ち、日本社会に残る家父長制や政治のジェンダーバランスの偏りに疑問を感じていた。国会中継を見るたびに、なぜ現在の社会の姿が形づくられてきたのかを知りたいという思いが強くなり、戦後政治の歴史を学びたいという意欲が高まっていた。

メイン講師である山口二郎先生の講義では、歴代総理大臣や政権政党の変遷をたどりながら戦後政治の流れを学んだ。当時の知識人の言葉や政治状況を引用しながら語られる講義は非常に示唆に富み、圧倒的な知識量に触れながら、学生時代に戻ったかのような気持ちで学ぶことができた。

他の講師陣からも、憲法、民主主義、象徴天皇、宗教、ジェンダー、沖縄など多様な観点から講義が行われ、興味の尽きない内容だった。講義をきっかけに関連書を図書館で借りたり購入したりすることも増え、毎週土曜日の講義のあとには新しい知識への好奇心が積み重なっていった。こうして得た知識や視点を、これから自分なりに社会へ還元していけたらと思っている。

三鷹の市民大学は、市民が主体となって学び、考えを深めることのできる貴重な場である。このような学びの機会が多く市民に知られ、これからも長く続いていくことを願うとともに、私自身も学び続ける市民の一人でありたいと思う。

市民の学びの場として

E.K.

昨年度の『あゆみ』に私は次の文章を載せたが、あえて再度ここに取り上げたい。

『市民大学では、私たちが学ぶことで裏付けと知識・情報を得て責任を持った判断と主張を身に付け、市民としての自覚と判断力を獲得できる。そして、市民大学で学ぶことは本来のジャーナリズムの役割同様、「権力を監視する」役割を担うことになると私は考える。政府の広報や一部の主張を鵜呑みにするのではなく、市民の疑問や主張をベースに市民大学の「権力監視」の役割を果たしたい』『「権力は腐敗する」…だからこそ学びに裏付けられた市民の声が大切なのだ』

この思いは今も変わらないし、むしろ強くなっている。「権力を監視する」ことは反対することとイコールではない。市民目線を含めた多様な角度からの検討の有無、必要な情報の市民も含めた共有、市民として納得できるか、等々をまずチェックし、その上で内容を吟味し意見を述べることである。もちろん様々な意見があっていい。そこで議論していくことが重要で、それらの反映が「権力の監視」になる。学ぶことをベースに意見交換しながら判断し、声を上げていくことが市民の責任であり、それをつくる場のひとつが市民大学である。

今年度受講した「戦後 80 年」は非常に充実していた。戦後 80 年を「流れ」として把握しつつ、ポイントとなる出来事や課題毎に掘り下げながら現在への影響やつながりを確認することができた。各講師の視点はさすがに鋭く、的外れな質問もしたが概ね納得し満足している。問題はこれからである。知っただけではなく市民として意識して責任を持った選択が必要と自覚している。市民大学は、これからも私たちが必要としている学びの場である。

戦争は誰の為に

黒 沢 園 子

1892年に産まれた父方の祖母が最近鏡の中で笑ったり怒ったりしている。ハッキリとした顔は覚えていないのだが、笑った顔はまさに記憶に残っているあの顔なのだ。長男がキャロライン諸島で亡くなった時には狂ったように泣いていたという。気の強い祖母からは想像力を掻き立てても信じられない七不思議の一つだった。それが今よく分かる。年齢を重ねると涙腺が弱くなるからとかではない。心の底から腹ただしさが湧き上がってくるのだ。そして悲しくてやりきれない気持ちの向ける先はありそうない。今回の講座はその抑圧されそうになった重しがどうすればいいのか方向性が見えた気がする。特に吉田徹先生の「リベラル」と「ポピュリズム」の講義は今の為政者が現れた世界観が伝わってきた。日本の脆弱な政治も然りである。「危機の時代」については「危機とは、正確には古いものが死に、新しいものがまだ生まれることができない」という事実にある。その間、多種多様な病的症状が現れる（A. グラムシ）

山口二郎先生の講義は政治の戦後80年歴史を関わってこられた政治家の話もありで今回的高市選挙は時代の変化を痛切に感じられた。近現代史は殆ど小説や映画の中では聞いたり観たりでしかない。先生はそれでいいと言われたが学校で全員が学ぶ近現代史は必要ではないだろうか。痛切に考えてしまう。今起きている戦争は祖母のように泣く親と恐ろしさに震える幼子を増やす。為政者は自分たち若しくは自分の仲間たちの欲しいもののリストが満たされるまで続ける。戦争をする国にしてはならない。

「自分ごと」としての歴史

末 松 良 弘

戦後80年コースに参加して、私はあらためて「戦後」という言葉の重みを実感した。1945年の敗戦から今日まで、日本は焼け野原から高度経済成長を経て豊かさを手にしてきた。その一方で、格差や地域の衰退など、新たな課題も抱えている。その歩みを政治・経済・社会・家族・地域といった多角的な視点から振り返ることで、戦後史は単なる出来事の積み重ねではなく、「私たちの選択の歴史」なのだと気づかされた。

「民主主義と憲法は根付いたのか」という問いは、これまでどこか抽象的な言葉として耳にしてきた。80年も経ってなぜ同じ言葉を繰り返し続けるのか、という思いもあった。しかし、本コースを通じて改めて向き合う中で、その意味を自分自身の問題として考えるようになった。憲法は確かに存在し、その理念も学んできた。けれども、民主主義が私たちの日常の中でどれほど生きているのかと問われると、簡単には答えられない。経済成長の陰で広がった格差、地方の現実、政治参加のあり方などを考えるとき、知らず知らずのうちに「おまかせ」にしてきた部分があったのではないかと思わされた。

一方で、講義や自主学習の場で交わされた対話そのものが、民主主義の実践なのだとも感じた。立場や意見の違いを認め合いながら考え続けることは、決して簡単ではないが、そこにこそ民主主義の希望がある。戦後80年という節目は、過去を振り返る機会であると同時に、これからを考える出発点でもある。本コースでの学びを通じて、歴史を「自分ごと」として受け止め続けたいと思っている。

戦後 80 年コースを振り返って

鈴木 美由樹

日本の政治は今、これまでの枠組みでは対応しきれない課題に直面し、大きな岐路に立っている。戦後の復興期から続いてきた、平和主義と経済成長を基盤とするモデルは長らく日本社会の安定を支えてきた。しかし、国際情勢の不安定化や安全保障環境の変化により、従来の平和モデルだけでは国を守りきれないのではないかという問題意識が広がりつつある。

さらに、世代間の価値観の違いも政治の方向性に影響を与えている。戦争の記憶を持つ世代は平和主義の堅持を重視し、軍事的緊張の高まりに強い危機感を抱く。一方、若い世代は国際社会の現実を踏まえ、理想と現実の両面から安全保障を考えようとする傾向が強い。こうした違いは、それぞれの経験に根ざした自然なものである一方、対話の不足が分断を深めているようにも感じられる。

だからこそ、岐路に立つ今、市民が主体的に議論に参加し、世代を超えて日本の進むべき方向を共に考えることが求められている。今回の戦後 80 年コースでは、様々な世代の学習生と自主学習やフェスティバルを通じて議論を深めることができ、その一歩を踏み出せたことは非常に有意義であった。

最後に、メイン講師の山口先生には、各時代のオピニオンリーダーの思想や対立する考え方について特に丁寧に教えていただいた。政治は単なる制度や出来事の積み重ねではなく、思想や理念を持つ人々の議論と選択によって形作られてきたことを改めて実感させてくださったことに、感謝申し上げたい。

戦争のない世界

T.T.

報道を見るまでもなく、「世界平和」には毎日のように不安を感じている。世界がこれまで築き上げた安全保障や核不拡散、そして通商ルールに至るまで、世界で戦後築き上げてきた既存の秩序が大きく動揺している。なぜ今、世界は動揺しているのか。それはアメリカ、ロシア、中国などの大国が、自国ファーストの「力による支配」の傾向を強めているからだろう。戦後作り上げてきた世界秩序が揺らぎ、世界は果たしてこの先どこへ向かうのだろうか…。

戦後 50 年 1995 年の村山総理大臣談話にもあったように、嘗てわが国は国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れた。また侵略と植民地支配によって多くの国々とりわけアジア諸国の人々に対し多大な損害と苦痛を与えた。疑うべくもないこの「歴史の事実」を私たちは謙虚に「反省」しなければならない。そのためにも過去の歴史の教訓から学ぶことが重要であり、過ちは決して繰り返してはならない。

戦後 80 年にあたって石破元総理の所感は納得がいく内容であった。保守とリベラルの架橋ともなりうる石破さんの理性には感じさせるものがある。

この石破所感では「戦争責任の所在」を個人や感情論でなく、制度構造としてまで掘り下げている点で評価できる。「反省」だけでなく、「なぜ止められなかったか」「どうすれば止められるか」という制度設計の視点に踏み込んでいる。また「大日本帝国憲法の構造的欠陥」について「文民統制の不在」「内閣の弱さ」、「統帥権独立」を中心に据え、抽象的な「過ち」ではなく、政治・制度の欠陥として分析している。また「軍国主義の暴走」という単一化単純化を避け、「政府」・「議会」・「メディア」・「情報分析の失敗」をそれぞれ独立した章立てで分析しているところなどである。歴史的「罪」ではなく、制度的「失敗」を分析し、再発防止を制度論的に説いている。結果として、ここまで踏み込んでいることが石破所感がそれまでの各総理大臣談話の基調を超えた制度的理性ともいえる内容となっている。戦争のない世界の実現のためにこれが生きてくることを願う。

戦後 80 年という分水嶺

内 藤 千 津

「戦後 80 年を考える」という今年度の講座は、戦後の政治の在り方の規範の持続と終焉の分水嶺を迎えた中で終了。山口先生の最終講義の最終章は「2026 衆院選と戦後の終わり」であり「新しい帝国主義の時代の日本の進路」でした。日本の分水嶺を講座で学びながら体験した訳です。社会の中の認識のギャップは私たちがひしひしと感ずる現実であり、山口先生が「啓蒙というような問題ではない」と分析されていた点が問題の深さを語っているように思いました。重い課題が残りました。

—コースの企画、運営について—

それにしても、80 年を政治、経済、天皇制、沖縄、家族制度、労働、平和、若者、ジェンダー、宗教、歴史修正主義、憲法、高度成長、メディアとオピニオンなど、多角的に掘り下げた講座企画は講師陣にも恵まれ、大変学ぶことの多いものでした。自分の内側から具体的で鮮やかに思い浮かぶ体験を、外の世界の社会歴史的な秩序の枠に投影しながら、自分が受けた時代の影響を考えることは、楽しくもあり、意味深いものでした。

—戦後 80 年という表記について—

大澤真幸先生の「戦後 80 年という言い方は世界にはありません。日本だけです」という指摘は、保阪正康さんの「戦後という言葉をやめよう」という言い方に重なりました。「なぜ戦争が起きるのか、どう回避するか、時間軸をもっと長くとり普遍的な問題としてとらえた方がいい」と。日本と、世界の秩序の転換期の中で、毎日、理解し難いニュースがとび込んできます。そんな中で、話し合える仲間を得たことは大きなメリットでした。

戦後 80 年、平和は遠のくばかり、そして沖縄のこと

C.H.

2 月 28 日アメリカとイスラエルがイランを急襲しハメネイ師やその家族、政権中枢の多くを殺害した。同日ミサイル攻撃された学校で女子児童達 180 人位が殺された。その 2 日後国連安保理事会の「紛争下の児童の保護」会合でトランプ夫人が議長に。何という厚顔無恥、国連の機能不全の象徴のようだ。ネタニヤフ、トランプ、プーチン…マチズモな男たちの顔に虫酸が走る。

古代ギリシア喜劇の「女の平和」、戦争を終わらせようと女達がストライキに入り、軍費保管所も占拠して、参った両軍が戦争をやめたというお話。現代のアイスランドで「女の休日」を実際に実行した。女性の 9 割が仕事や家事を一斉に休み社会機能を止めた。その後女性の社会進出が進み、現在大統領も首相も女性、国会議員の 46%が女性だ。この国は NATO 加盟国で唯一常備軍を持たず、福祉が充実している。

男たちの中には本能的に（？）権力を持って人を支配することに快感を感じるタイプがいる。そういう人が政治家や警察検察、軍人になると歪んだ正義感や権力欲で人を抑圧する。冤罪、過剰な交通取締り（鼠とりの快感、2 月神奈川県警で不正発覚）、DV 男もこのタイプだ。

話がそれだが、イランが中東の米軍基地を反撃している。他人事ではない。戦後 80 年一貫して米従属の日本、米中対立で有事があれば戦場になるのは米本土ではなく米軍基地が集中している沖縄と、軍事要塞化進行中の台湾に近い島々だ。

80 年前の戦争で住民の 4 人に 1 人が犠牲になった沖縄は戦後も 9 条の戦力放棄とセットで米に提供され返還後も植民地的な日米地位協定で苦しんできた。沖縄の問題を解決しない限り日本はまともな主権国家とは言えない。80 年もそのままでいい訳がないだろう。

新視点と再認識と諸問題の「存在と歴史」

西 沢 敏 昭

山口二郎先生、一年間ありがとうございました。

「戦後 80 年」を通しての講義で、民主主義と憲法が抱える過去・現在、そして未来に発生すると思われる諸問題をどう考えるかの整理が、私なりの拙い理解力の範囲ですができました。マスコミ出演時の先生の過去の印象は、かなりシャープな感じで鋭い論客の印象でしたが、今回の講座での印象は、シャープさを残しつつもソフトさを垣間見せる批判精神性にうれしい驚きを持ちました。

原武史先生は、私が両親と暮した団地に住んでいた先生で、「滝山コミュニティー一九七四」を読んでました。「象徴」としての天皇を存在論として語る斬新な志向は勉強になりました。吉田徹先生のリベラルとポピュリズムの関係性、本田由紀先生の日本の労働問題、武井彩佳先生の歴史修正主義の本質、伊藤千尋先生の平和形成の礎となっている「平和」憲法、青井未帆先生の論理性の高い憲法論、武田徹先生の東京五輪を通して見る高度成長の光と影につきまとうファシズム、等々私にとっては全く新しい視点を世の中に対して持つことができました。

また、写真家・登山家の石川直樹先生の講義は、山好きで登山が趣味の私には、山登りの持つビジュアル性を再認識でき楽しかったです。

諸先生方、スタッフの皆様、委員の皆様、ありがとうございました。

天皇について

B.F.

①憲法第 1 条に「天皇は日本国の象徴である」と書かれています。ところが 天皇及び皇族は住民票はおろか戸籍がありません。これは一体どういう事なのでしょう。まさか彼らは日本国民ではないと云っているのですか。象徴とは特別な存在なのでしょう。何を意味しているのかさっぱりわかりません。憲法でも説明されていません。

はっきりしているのは、天皇を含む皇族たちは我々一般国民とは全く違う存在だという事です。人権意識が高まっている現在 彼らに人権が本当にあるのか疑問です

②戦後も 30 年後くらい経った頃のことです (1975 年頃)

寺の坊主をしている母に聞いたことがあります。「阿弥陀様と天皇ではどちらが大切なのか」と。答えは「勿論 天皇様だよ」正直驚きました。まさか！

いつも「阿弥陀様 阿弥陀様」と言っていたのに何故「天皇」なのか。母は大正 8 年生まれです。心の中は『阿弥陀様』心の外は「天皇」で矛盾がないのです。母は戦前の感覚の中で戦後を生きて来たのだと思います。天皇は母にとって「象徴」ですらなかった。まさに現人神でした。

③大正天皇について

講師の原武史先生の書いた「大正天皇」を読んで驚きました。子供の頃、大人達からよく聞かされていた大正天皇についてのイメージとまるで違っていました。実際の大正天皇は病弱であっても利発で自己主張の出来る一人の人間でした。何故、大正天皇の実像が世に伝わらなかったのか。明治、大正 昭和、平成、令和の中で一番存在感のないのはどうしてなのか

今回の講義で戦後の色々な側面から多くのことを学ばせていただきました。多くの先生方、スタッフの皆様、受講生の皆様、一年間お世話になりました。有難うございます。

受講を終えて思うこと

福川 洋子

今まで三鷹市広報をじっくり読んだことなどなかったのに、フッと目を引かれたのが、市民大学「戦後 80 年」を考える～民主主義と憲法は根付いたか～という表題。日本が世界に誇れる平和憲法が危うくなっている今こそ憲法について、民主主義について学びたいと強く思った。講義は毎回興味深く、初めて知る内容に 2 時間のめり込む様に聞いていた為、肩が凝ってしまうほどであった。27 回青木末帆先生の憲法の果たしてきた役割と、憲法をめぐる動きでは、くしくも自民党高市政権が大勝利した直後であり、まさに憲法改正案が現実化してしまうのでは？といった時での講義であった。小選挙区制という制度がもたらした結果であり、今後は、小選挙区制を司法の場で問うこと、国民が声を上げていくことが必要とこれからの展望を示してくれた。が、はたして、選挙の他に、国民が集会やデモ活動等様々な方法で声を上げていったとしても、政府の方針を変えることができるのだろうか？ まだまだ私には学ばなくてはならないことが多くありそうである。今後も市民大学で学びたいと願っている。生涯学習担当の職員の方々、運営委員の皆様 1 年間大変ありがとうございました。

「学びのスタイル」を身につけて

古川 英一

政治コースは「戦後 80 年」という時間の流れを立て軸に、戦後の日本社会のさまざまな問題を横軸にしてクロスさせた、実は大変深い「野望」のあるコースだったと思います。

その「野望」とは、時間軸の流れのなかに自分自身の歩み、つまり自分史までも歴史と社会に位置付けて考えていく、という「学びのスタイル」を、学習生にこの 1 年間で意識せずに身につけさせる、というものであったのではないのでしょうか。

メイン講師の山口二郎先生は、巨大与党の自民党に対抗できる野党を市民がどのように作り上げ、権力の構造を活性化していけるか、学問の智を政治の現場の中で長年実践してこられました。しんと静まりかえった学習生を前に、山口先生が穏やかな口調で話し始める時、学習生の戦後 80 年の旅が始まるのでした。

さて、あゆみの原稿を書くのはこれで 4 回目、またもや書いていると意識がぱつっんと過去へ。「政治学」とやらが生み出された古代ギリシャの丘の上。お馴染みの広場（アゴラ）にわれら学習生らしき人たちが集まっています。そういえばこのコース、自主学習の日も集まりがよく、議論が盛り上がっていましたが、確かに、この面々も話に花が咲いています。民主主義は本当に根付いているのか、世界の平和を力で支配しようとする現代の暴君、しかもその人は民主主義による選挙の結果、合法的に選ばれている。さてその暴君の横でぴょんぴょんと跳ねているのも、先の選挙で大勝した、某国のあの人…一体、我々は歴史から何を学んだのだろう、これからどうしていけばよいのか。アゴラでの議論は果てることなく…

と、またも目が覚めて現実へ。これからどうしていけばよいのか…それこそ、「学びのスタイル」を日々の中で活かしていくことから始めていきたいですね、みなさん！

変えるには行動するしかない

K.Y.

戦後 80 年という節目の年に、大変興味深いコースが設定された。メイン講師の山口先生には政治・経済を中心に戦後 80 年を体系立ててレクチャーしていただくとともに、リアルタイムであった参議院議員選挙、自民党総裁選挙、衆議院議員選挙についても率直なコメントをいただいた。個別テーマについても、アベノミクス、ポピュリズム、天皇制、ジェンダー、歴史修正主義、沖縄問題、憲法など、それぞれの専門家から貴重な話を聞くことができた。また、受講者の発言や活動にも刺激を受けることが多かった。問題はここで学んだこと、感じたことをどのように活かすのか。日本の現状に不平不満を言っただけでは何も変わらない。他力本願では何も変わらない。まずは自分自身が明確な問題意識を持つこと、そして少しでも日本の現状を変えるには自ら行動するしかない、と改めて感じている。

戦後 80 年とは結局何だったのだろうか？

渡 辺 衛

「戦後 80 年」には以前から高い関心を持っていました。それは多分自身が昭和 20 年、それも敗戦の 8 月に生まれた事に大きい起因が有ったのでしょう。2025 年に戦後 80 年間を総括して学ぶ企画を提案し企画して実現した、このコースを振り返ると大変有意義で充実したコースだったと思っています。

先ず前期に山口メイン講師の 4 回に亘る 80 年間の通史の講義が時代の大筋を統括された事で残る各講義への理解に大いに役立ちました。焼け跡から始まった、各分野毎の 80 年間の講義は各々の分野が複雑に関わりあった事もカリキュラムが進むにつれて分かって来た様に思います。

仕方がない事です、講師による講義の回数に制限が有る為に割愛された分野がある事が惜しまれます。例えば、農業、教育、公害、地方の荒廃等などの問題は取り残されました。戦後に取られた軽武装、経済中心の政策は国家の復興に大きく寄与した事に間違いは無いでしょう。しかしそれによって起きた様々な歪みやツケ、未だ残る高度成長期の成功体験から抜け出せない日本社会のこれからを考えるのは、このコースで学んだ我々が自ら学ぶ課題なのでしょう。

又、敗戦後にもたらされた大きな社会や家庭生活の変化、特に電化製品の発展や輸入された文化や風俗、芸術もまとまったかたちで総括する「戦後 80 年 - その 2」もやってみたかったともつくづく残念に思っています。

しかし、市民大学の今までには珍しい特定課題を学んだ「戦後 80 年」は今後の総合コースに新たな分野を切り開いた有意義で充実したものでした。又、集まった年代も異なる学習生は真摯に学び、相互の交流にも積極的な素晴らしい仲間だった、良い一年間でした。

知的好奇心の満足

Y.Y.

メディアを介した情報に踊らされ、誤った意思決定をしかねない昨今、真実は何かを確認すべく、本講義に参加して著名な講師陣の講演を聴講し、歴史と考え方に関して理解を深めることとした。

戦後、60年安保、そして高度成長期を経て、国の方向性は何度も修正され、政策は更新されてきた。それらの根幹となる憲法もまた改変される可能性が示唆されている。

天皇制とは、家族とは、平和とは。議論は続いていく。

現代の国民にとって良い方向へと向上しているのか、悪い方向にへと下降しているのか。結論はこの先の未来に答え合わせをゆだねるしかないが、その材料は俎上に挙げられている。

我々はその材料を整理し、真摯に向き合い、この国の行く末を、次の世代が臨む行く末を案じていく覚悟が必要であることを再発見することができた。

初めての受講であったが、見事に知的好奇心を満足させるものであった。

講師の先生方、企画および運営委員の皆様、事務局の皆様に改めてお礼申し上げます。一年間ありがとうございました。

刺激的だった「戦後 80 年」

渡 邊 基

三鷹市に越して間もないころ、広報誌を見て「市民大学」なるものを知りました。以前住んでいたところで「九条の会」（憲法 9 条を守るという運動をしている市民団体）の運営メンバーだったこともあり、山口二郎氏（野党と市民をつなぐ市民連合を推し進めていらした）、金子勝氏（9 条の会主催の講演を聞きに行きました）をよく知っていました。両氏をはじめとする著名な先生方の講義を授業料なしで受けられるとのことで、すぐに申し込みました。

先生方の講義は期待を遥かに上回る、濃密で刺激的な内容でした。また、いろんな角度（つまりメインの講師でないかたの講義）で、「戦後 80 年」を切り込んでくださるので、まさに「目から鱗が落ちる」思いがしました。特に原武史先生の大正天皇論は新鮮でした（昭和 80 年ではありませんが）。皇太子時代にお付きの人なしに学習院時代の友人をふらりと訪ねたというエピソードなど、私たちが抱いていたイメージとは違う、人間味あふれる天皇像に驚愕しました。

さらに「自主学习」という講師なしで、受講生が討議し合うというのは、新鮮でありました。いろいろな考えに「なるほど」と膝を打つことが多かった半面、時に個人の意見の開陳に終始してしまった点は、今後の運営への課題かもしれません。

一年を通して市民学校に通い、新たな知人を得ることができました。さらに「知ること」「学ぶこと」の重要性を再認識しました。機会があれば、また参加しようと思っています。

令和7年度三鷹市民大学事業総合コース
学習記録「あゆみ」第58号

発行 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団
編集 三鷹市民大学事業総合コース「あゆみ」編集委員会
〒181-0004 東京都三鷹市新川6-37-1
元気創造プラザ4階 三鷹市生涯学習センター
電話 0422-49-2521
HP <https://www.mitakagenki-plaza.jp/shogai/>
※「みたかe-bookポータル」に本誌のPDF版を掲載しています。
<https://mitaka-e-book.actibookone.com/>

